

牧羊者

巻頭言

今一度幼子に習う信仰を

串本教会牧師
黒田 重明



「イエスは聖霊によって喜びあふれて言われた、『天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました。父よ、これはまことに、みこころにかなった事でした。』」
(ルカ10・21)

主イエスが大人の中にいる幼子を見取り上げて語られたことを、他にマタイもマルコも書き記している。マタイは18章1〜6節、マルコは9章33〜37節である。マタイでは弟子たちがイエスのもとに来て、「いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか」と尋ねたときである。主は幼子を呼び寄せ、彼らのまん中に立たせて言われた。「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであらう。この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである」と。また「だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきつすを首にかけられて海の深みに沈められる方がその人の益になる」とも言われた。

この所から学ぶべきことは、先ず幼子の姿から常に謙遜であることを学びなさいと言われているのである。次には幼子すなわち弱い者を主の名によって受けいれるという精神の大切さである。また主イエスを受けいれている幼子をつまずかせることが非常に罪深いという事も知らなければならぬのである。幼子の姿から謙遜と純真さ、それに弱い、助けを必要としている者を受け入れ愛することを、さらに彼らをつま

ずかせないようにする真の愛に生きる必要を学ばなければならないのである。

現代社会においても私たちは隣人を見て、常に幼子のような謙遜な心と、純真な心と、主イエスの御名によって受け入れる愛の心をとれだけてもって生きているかを問いただしていくことである。内外世界で生起するさまざまな事件や事象の中で、主イエス様が持つていらつしやうた心で事象を見極めていく時、それは天の父なる神に対する祈りとなるのではないだろうか。どんな時にも、幼子の心になり、その事態が好転していくように、その現象が神の御手により改善、回復し、より良い方向に進むようにとの執り成しの祈りを捧げていく様になるのではないか。幼子のような謙遜さ、純真さは、常に神の前に真実と信頼をもつての祈りとなり、神に働いていただくよう祈る姿となるのではないか。クリスチャンは常に幼子のように神に信頼して祈りに祈る生活をこの世に証詞することである。さらに付け加えるなら、私たちは主の弟子として、主イエス様の牧者としての精神を持つて、魂のケア(配慮、介護)とキユア(癒し、救護)の務めを果たしていけるために、一人一人のために執り成して愛していくことである。

主はそのことを全うする知恵と力の賜物を与えてくださっていることを信じ、全うさせていただこつ。「永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行つたために、すべの良きものを備えて下さるよう」にお願い(ハブル13・20、21)

目次

巻頭言	1
教師養成講座 「ありのままで子育てお母さん大丈夫ですよ」(3)	3
おさなごイエス 《四月教案》	7
伝道の準備 《五月教案》	27
はじめの伝道 《六月教案》	43
牧羊ひろば (阿南教会)	59
おわりに	60

教師養成講座

2003年 兵庫教区CS部主催 教育講演会

「ありのままで子育てーお母さん大丈夫ですよ」③

講師 内田 みずえ師（聖書宣教会）

（講演内容に加筆修正したものです）

（午後の部―前半）

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。」 第1コリント3章6節

午後は、「植える者」と「水を注ぐ者」である私たちが心がけるべき7つのことを取り上げて一緒に考えていきたいと思います。

1. 待つこと

種をまき、水をたっぷり注いで数時間。芽が出てこない、と心配して土を掘り返す人がいるでしょうか。かわいい双葉が顔を出したのを見て喜んだのも束の間、早く大きな葉っぱをつけない、といて怒って葉っぱを引張る人がいるでしょうか。成長には時間がかかるということは承知しているはずの私たちですが、「子育て」となると話が違ってくるようです。「待つ」ということがなかなかできないのです。

今日のように忙しい社会、そして、何もかもが便利になって、いろいろな物がボタン一つで出てくる社会の中で生きている私たちは、「子育て」に

おいてだけではなく、何事においても、「じっと待つ」ということがとても苦手になっているのかもしれない。先日も見かけた光景ですが、駅の自動券売機の前で、要領が分からなくて困っている外国の方に対して、すぐ後ろの男性が舌打ちをしたり、肩越しに覗いたりしてプレッシャーをかけていました。物事がさっさと進まないというライラしてしまふのが、現代に生きている私たちなのですね。

「子育てで最も頻繁に使われる言葉は何でしょうか」と質問しますと、異口同音に返ってくる答えは、「早くしなさい」です。「早く起きなさい」、「早く着替えなさい」、「早くご飯を食べなさい」、「早く歯を磨きなさい」、「早く仕度をしなさい」、「早く出かけなさい」、「早く歩きなさい」。これでは、もしかしたら心の中で、「早く大きくなって、手がからならないようになってちょうだい」と叫んでいるのかもしれない。狭い日本、そんなに急いでどこへ行く」という標語がありました、朝から晩まで「早く、早く」を連発する私たちは、子どもたちをそんなにせかしてどこへ行かせよう

としているのでしょうか。

子どもを急がせるだけにとどまりません。子どもがのんびり、ぐずぐず、ダラダラしているのを見てみると、ライラしてしまふので、自分でやった方が早いし、上手にできる、と手を出してしまっている方はいらつしやいませんか。「もう、貸しなさい」と子どもの靴のひもを結んでしまい、服を着せてやり、仕事を仕上げてしまふなど、子どもが自分でやるチャンスを奪ってはいませんか。その結果、3歳くらいになってもまだ身の回りのことができない子に向かつて、「もう3歳になったのに、どうしてこんなことができないの!」と理不尽なことを言っているのではないでしょうか。3歳くらいなら、まだかわいいものですが、中学校、高校、大学になってもまだ手がかるようでしたら大変ですね。子どもが小さいうちに、ゆつくり時間を取ってあげて、励ましながら一人でできるようにしてあげれば、そのような事態を招かなくて済むでしょう。

子どもたちの中には、のみこみが早く、理解力があつて、動作も速い子がいます。それとは全く反対に、全てにおいてのろい子もいます。大抵の親にとって、「速い子」は良い子であり、扱いやすい子であり、頭の良い子として歓迎されます。そういう子は親に受け入れられていることを感じ、励ましを受け、ますます自信を持つて伸びていくでしょう。一般には、「のろい子」はあまり頭の良い子とは思われないで、そのような扱いを受けますから、本人もそう思い込むしかないでしょう。

ところが、ちよつと待つてあけて、落ち着いて

取り組む時間を与えてあげるなら、「のんびり屋さん」ができることも沢山あるのです。励ましの言葉とヒントによって飛躍的に伸びることもありうるのです。「大器晩成」という言葉がありますように、「のろい子」と思われていた子が、徐々に人生の中でスピードを上げていくこともあるのです。実際、「のろい子」はあまり頭が良くないという考え方は捨てなければいけないと思います。子どもが内側に秘めている可能性には測り知れないものがあります。それを信じて、子どもが自分のゆつくりペースで成長するのを見守ることができる親は何と幸いなことでしょう。そういう親を持つ子どもは何と幸せなことでしょう。

一度、子どもに向かつて、「ゆつくりやつていいんだよ。お母さん、ゆつくり待つていてあげるから」と言ってみませんか。ゆつくり、丁寧に、そして集中して物事に取り組んでいると、「うさぎとかめ」の話のように、いつの間にか、きつとゴールに到着するでしょう。自分に向かつて、「ゆつくり、ゆつくり、ゆつくり行きましょう」とつぶやいてみませんか。

2. 過程を大切にすること

「早くしなさい」が子育てで最も頻繁に使われる言葉だとすれば、現代の合言葉は何でしょうか。それは、「結果を出す」という言葉ではないでしょうか。大人も子どもも結果を出すことに必死です。その結果というのは、大抵の場合、数字で計られ

ます。会社であれば達成率何パーセント、または、

一番二番という順位。学校であればテストの点数、または5、4、3、2、1という通知表の数字。そして、その数字というのは、人と人との比較に用いられます。このように、大人も子どもも、自分と他人を比べる競争に駆り立てられるのです。世界を見渡してみると、日本は有数の競争社会です。そういう社会で生まれ育った私たちですから、成果を計る手段として競争以外のものをあまり知りません。この競争、数字で計れる成果というのは魔物で、人間のプライドをくすぐります。おかしいことですが、子どもが競争に勝つと、親の鼻が高くなります。学校の保護者会では、なぜか成績の良い子の親が大きな顔をしていて、成績の悪い子の親が隅で小さくなつていたりします。

我が子がオール5をとつてきたり、クラスで一番になつて嬉しくない親がいるでしょうか。我が子が難関校に合格して喜ばない親がいるでしょうか。我が子の絵が、お習字が、あるいは作文がコンクールで入賞して誇らしく思わない親がいるのでしょうか。それは極めて自然な感情です。頑張っている子どもをほめてあげることも当然なことです。ただ、そこに思わぬ落とし穴があることに、私たちは気づかなければなりません。親も子どもも結果を出すことにだけ夢中になると、結果次第で一喜一憂し、結果に振り回されます。良い結果が出ると、プライドが満足させられ、知らず知らずの内に高慢になっていきます。聖書は、この高慢に対して警告を発しています。

「人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は榮譽に先立つ。」 箴言18章12節

人よりも優れた人の上に立ちたい、という人間の思い、すなわちこの世の競争原理は、神様の思い、神様の原理と真つ向から対立するものです。人間が神様の前に自分の小ささを悟り、神様に依り頼み、神様から与えられる知恵と力を感謝しつつ謙遜に歩むなら、神様ご自身が榮譽を授けてくださると約束されています。自分の分をわきまえず、自分を世界の中心に置き、神様を無視して、自分を高めようとする上昇志向は破滅につながると神様はおっしゃっているのです。イエス・キリストの内に見られたのは、ピリピ人への手紙2章5節、11節に記されているように、下向志向とでも呼ぶべきものです。イエス・キリストは天の御国から地上に下つて来られ、神の御姿を捨てて人間の姿を取り、そして、十字架の死という最も低い所まで下られたのです。それゆえ神はイエス・キリストを高く上げられた、と書かれています。

現実はこの社会に生きている私たちは、頭では聖書の教えに従いたいと思つていても、知らず知らずの内に、その競争原理に巻き込まれていることが多くあります。何が本当に大切なことかはよく分かつています。子どもにもそのように教えています。ところが、目の前に悪い点数のテストが突きつけられ、お隣のお子さんが、いわゆる、いい学校に入ったと聞くと心が騒ぎます。私たちの内にダブルスタンダード、すなわち、二重の基準が存在するのです。

ある教会の牧師先生は、たとえ障害を持っていたとしても、この世の価値基準からすると希望が無さそうに見えても、どんな子にも「のぞみ」がある、と常々教えておられました。ところが、その先生のご長男がこんなことを言っておられました。

「うちの親父は、どの子にものぞみがあるなんて格好良いことを言っておきながら、僕の大学受験の時に何と言ったと思いますか。あの役員の息子にだけは負けるなよ、と言ったんですよ」。他人事として笑ってすませられるようなお話ではありませんね。

結果だけを強調すると、プライドの問題だけではなく、結果に至るまでの過程、プロセスが見えなくなるという問題が起ってきます。プロセスから学ぶことの大切さ、プロセスそのものを楽しむことの大切さが見落とされています。

小学校の低学年では、頭の回転の速い子、要領のいい子にとって、良い成績を取るのには難しいことではあります。多少手抜きをしても成果を上げることはできます。そうでない子の場合でも、親が手を貸してやれば良い成績をとることはできるでしょう。ところが、このような結果さえ良ければ、という考え方では、コツコツ努力する姿勢、途中であきらめないで取り組み続ける根気強さ、失敗しても立ち直る力、計画的に物事を進める力、勤勉さ、好奇心、集中力、人を思いやる心など、生きていく上に大切なものが育っているかどうかということに親の目が行かなくなる危険性があります。

高学年になり、勉強が難しくなると、頭の回転の良さや要領の良さだけでは追いつかなくなります。親が手伝えることにも限界があります。プロセスを大切にすることで育ってくる資質が備わっていないと、いくら頑張ろうと思っても長続きしません。結果が出ないからといって途中で放り出す子が出てきても不思議ではありません。

もし、親の側に、(願わくは先生の側にも)プロセスを大切にする姿勢があるなら、たとえば、跳び箱がなかなか跳べないけれども一生懸命頑張っている子に対して、劣等感を抱かせるような言葉ではなく、希望と励ましの言葉を贈ることができるでしょう。その暖かい雰囲気の中で努力を続け、いつの日か跳べるようになるでしょう。そのときの喜び、達成感の大きさは、楽に跳べた子よりはるかに勝るものがあるでしょう。また、すぐに成果を出すことのできない人の気持ちを思いやり、優しく振舞うことも学ばずです。

こういうことは数字に現れにくく、世間の評価の対象にもなりにくく、また親の自慢の種にもなりません。けれども、こういうことこそ、聖書の中で神様が人間に求めておられる資質です。そして、それは子どもが幸せな人生を歩む土台となります。その人生の土台を築くという大切な役割が親に課せられているのです。

結果ではなくプロセスを大切にし、プロセスを楽しむことができるようになると、当然、親が子どもを見る目が変わってきます。きつと「子育て」がもっと楽しくなることでしょう。おまけに、結

果は必ずプロセスに付いてきます。

3. 観察すること

過程を大切にすることとは、子どもをしつかり見ることで、すなわち観察することです。観察というと理科の観察みたいですが、私たちは、子育てを植物の成長にたとえて考えているわけですから、まさにふさわしい言葉かもしれませんね。

「どうして日本のお母さんは、自分の子どもを見ていないのですか？」

このたぐいの言葉を、何人かの宣教師夫人から聞いたことがあります。何事も一般化することは危険ですが、彼女たちのことばに一理あるという気がしなくもありません。

公園、電車の中、病院の待合室、あるいは教会のような公の場所で、お母さんたちはおしゃべりに夢中になっていると、我が子がどんな悪さや危険なことをしているても、全く気がつかないことがあります。たとえ、おしゃべりしていても、目はチラチラと子どもの方に向けていないといけません。

子どもの行動そのものは見ていても、その背後にある理由が見えていないという場合もあります。兄弟ゲンカで、兄が弟を叩き、弟が泣いているという現象を見て、なぜ兄が弟を叩いたのかという理由を知ろうともしないで兄だけを叱るなら、それは不公平でしょう。弟が兄のオモチャを先に壊したのかもしれませんが、兄は日頃(ひんがら)から、弟だけが親に可愛がられていると思い、不満を募

らせていたのかもしれませんが。

思春期の子どもが部屋に閉じこもり切りになったり、家に寄り付かないので、子どものことを見たくても見られない、という深刻なケースもあるでしょう。

子どもの危なっかしい行動が見えていても、波風が立つのが恐くて見て見ぬふりをするお母さんもあるでしょう。対決したところで、どう助言したり、解決法を提案したら良いのか分からなくて、無視する場合もあるでしょう。

子どもの中に、自分の見たいところだけを見て、見たくないことには目をつぶるということもよくあることです。たとえば、自分が面白みのない人間だと感じている人は、創造的で、楽しい子に引かれるかもしれません。その反面、その子の内にあるだらしないさや、楽な方に流れようとする傾向には目を向けず、しつけようとしなないかもしれません。自分と同じように真面目一本の子は、逆に、疎ましく感じるかもしれません。ほめて然るべきところもほめずに、子どもが持ち合わせていない性質ばかりを要求するかもしれません。

忙しすぎて、文字通り子どもの方を目を向ける時間が無いので見ていないお母さんが、現代は増えてきているかもしれません。子どもに矢継ぎ早に命令だけは出しても、子どもがその命令に従って行動しているか、あるいはなぜ従わないのか、それに対して、どうすれば良いのか、などを確認したり、考えたりする時間がありません。

子どもと相性が悪くて、子どもをあまり見たく

ない、子どもと関わりたくないと思っているお母さんも、悲しいことですが、いるかもしれません。見ているつもりなのに、本当は見えていないとしたら、これが一番恐ろしいことです。

農業に携わっていらつしやる人たち、園芸をしていらつしやる方々は、種をまいた後も、毎日、畑や庭に行つて、農作物や植物がどんな風に育っているかを注意深く観察します。人によつては農業日誌をつけて、必要な時に水をやり、肥料を与え、草取りをします。天候や育ち具合を無視して機械的に作業を進めるのではありません。

子どもを観察する、と聞くと、子どもを四六時中見張つていて、子どもの一挙一動に文句をつけることかと思うかもしれませんが、それは、単なる過保護、過干渉です。子どもを見張るのではなく、さりげなく観察するのです。きちんと観察していれば、必要以上に手や口を出さずにすみすみます。そして、毎日、注意深く観察していますと、子どもの表情、体調、言葉、行動などの中に、小さな変化を見逃すことなく、見つけることができます。

英語のことわざに、

「One stitch in time saves nine」というものがあります。タイムリーな1針は9針に広がるのを防ぐ、すなわち、ほころびがまだ小さい内に繕えば大事に至らないということです。日本でも、悪の芽は小さい内に摘み取れ、と言いますね。

子どもに何度同じことを言っても効果がない、ということがあります。子どもの耳にタコができ

る程繰り返し教えても、それが実践されないのなら、一度立ち止まって、どこに問題があるのか、良く観察する必要があるのではないのでしょうか。また子どもをよく観察していると、その子の性格や傾向が見えてきます。早熟なのか、奥手なのか。リーダーシップが取れる子なのか、人の後ろについていくのが好きなタイプなのか。意志が強いのか、弱いのか。芸術家肌なのか、学究肌なのか。一匹狼型なのか、協調型なのか。楽天的なのか、悲観的なのか。几帳面なのか、ルーズなのか。同じ親から生まれ、同じ家庭で育つても、子どもはそれぞれ違います。その違いを発見するのは重要ですが、それだけでは十分ではありません。違いを見極めながら、その子に合った励ましや矯正、しつけや訓練をするのが親の務めなのです。神様から知恵をいただき、常に助けを祈り求めているかないと、私たちは、自分の好みや、期待、願望に合わせて、子どもの性格や傾向を無視し、正反對のことを期待したり、押しつけたりする、という過ちを犯すことになります。また子どもは成長と共に変化し、思いがけない方向に伸びていくこともありまますから、私たちは柔軟な心と態度で観察し続けていきたいものです。思いがけない発見、嬉しい誤算がきつと私たちを待っていることでしょう。

次回は、私たちが心がけるべき7つのことの残りの4つ、4. 聞くこと、5. 希望を持つこと、6. 愛を注ぐこと、7. 祈ること、について一緒に考えてみたいと思います。

聖書 マタイ28・1～20
テーマ イエス様と共に

序論

(鎌野)

今週は前週のイースターの続きを学ぶが、このテーマは新年度の年題でもある。△わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる▽という臨在の約束の重要性は、どんなに強調してもしすぎることはない。それは、復活されたお方にしか言えない約束である。臨在信仰の基盤は復活信仰にあることを、今日の学びで確認したい。前週学んだ主イエスの復活の事実を復習するとともに、それゆえに主は今も、そしていつまでも私たちと共に生きておられることに気づくように導こう。

一、主の復活の目撃者

このとき、11弟子たちは逮捕を恐れて隠れていたが、△マгдаラのマリヤとほかのマリヤ(ヤコブとヨセフとの母マリヤ、27・56、61参照)▽、そしてサロメ(マルコ16・1)とは、勇敢にも主の遺体に香油を塗るために墓にやってきた。しかし、彼らとても、主が復活されることを期待して墓に來たのではない。そのとき、△主の使が天から下って、そこにきて石をわきへころがし▽、主は△もうここにはおられない▽と告げたのである。つまり、石が動かされる前に、主は復活されて墓の中にはおられなかった。彼女たちが見たのは空の墓だった。そしてその後、彼女たちは復活された主を目撃したのだ。

復活された主は場所に束縛されないということ

を知ることは、非常に重要である。これ以後、主はエマオへの道を歩む弟子たちに現れ、エルサレムの戸を閉めた部屋にいた弟子たちに現れ、そしてガリラヤで現れ、最後にエルサレムのオリブ山から昇天された。復活の主は、必要な時には、どこにいる者たちにも顕現なさるのである。

二、主の復活の否定者

墓には、弟子たちが主のからだを盗み出すのを防ぐために番人(12節によれば兵士)が置かれていた(27・62～66)。彼らは、主の使いを見、△恐ろしさの余り震えあがって、死人のようになった▽。そして、一目散に逃げ出し、△いつさいの出来事を祭司長たちに話した▽。困った祭司長たちは、△弟子たちが夜中にきて、われわれの寝ている間に彼を盗んだ▽という作り話を伝えるように、彼らを買収したのである。しかし、兵士たる者が番をしている間に寝ていたら、どんな厳罰が待ち受けていたことか。それに、寝ていたなら、なぜ盗んだのが弟子たちだとわかったのか。

現代でもこの話のように、主の復活を否定している人々がいる。でも、どこにその証拠があるのか。恐れて隠れていた弟子たちにそんな勇氣があったのか。どのようにして、武装した兵士たちに気づかれなくて死体を運び出せたのか。復活を否定する人々は、「復活などあるはずがない」という前提に立つて論議しているにすぎない。

三、主の復活の証言者

主の使いの△かねて言われたとおりに▽という

研究資料

(足立)

ここに本福音書が伝えるメッセージのクライマックスがある。十字架の死に続くキリスト復活、昇天が、新約聖書神学と教会史との中心的な出来事として啓示されている(参照、例、使徒2・22～36、26・6～8、1コリント15章、エペソ1・15～2・10、コロサイ3・1～4、1テサロニケ4・13～18、ヘブル1・1～4、1ペテロ3・18～22、黙示録5章など)。十字架の恥辱を逆転させることにより、イエスの十字架死が贖罪として価値あるものとなった。もしキリストの復活がなければ、クリスチャンは全ての民の中で最も愚かな者たちである(1コリ15・19)。だがキリスト復活が事実である故に、全ての信仰者に対してからだのよみがえりが保証されている(1コリ15・20～28、IIコリ5・1～10、1ヨハネ3・1～3)。

テキスト

1 四つの福音書は、日曜日の早朝一群の女性たちが墓に向かったことで一致している。二人のマリヤに関しては27・61に言及されている。マルコ16・1には、その訪問の目的が説明されている。それはイエスの亡がらに香料を塗るため。二人のマリヤとサロメは石をどうやって動かそうかと心配していたと思われるが、その石は既に転がしてあった(マルコ16・3～4)。女性の証言が軽んじられた時代に、彼女たちは復活の最初の証人となる。キリストにあって男女間に平等な立場がある時代の到来をも意味する(ガラテヤ3・28)。ただ

しこの時点において彼女たちは「墓を見に來た」のであって、イエスの復活を期待していたわけではなかった。

2～4 石が転がしてあった理由が記されている。彼女たちが到着する前に石は転がしてあった。四福音書にはイエスがどの時点で復活したかについては言及されていない。また石が転がしてあったのは、イエスが出てくるためではなく、すでに墓が空であることを人々にわからせるため。御使いが石の上に座つたのは、おそらく復活の大勝利を意味するのであろう。地震は墓の石を除去しはしたが、イエスが復活するために必要なものではなかった。巨大な石が障害物としてあったにもかかわらず、イエスの復活は既に起こっていた。ただしイエスの復活それ自体は聖書のどこにも記述されていない。それは推定するにイエスが墓から出てくるところを見たものは誰もいないからであらう。一方御使いを見た番兵たちは、恐ろしさの余り一時、体が硬直してしまった。

5～7 マгдаラのマリヤは弟子たちに知らせに行つたと考えられる(ヨハネ20・1～2)。残されたヤコブの母マリヤとサロメに御使いが現れた。彼女たちが依然としてイエスの亡がらを捜していることを御使いは承知している。しかしからだはそこにない。墓が空であることからイエスの復活は事実。イエス自身の預言も真実となった(16・21、17・23、20・19)。よみがえられたのである

この動詞(エゲルセ)は受動態である。つまり父なる神がイエスを死者の中から復活させたという内容。新約聖書はイエスの復活に関して、彼自身のみわざではなく、父なる神によるみわざである

言葉どおり、主は、弟子たちと過ごされている間に何度かご自分の復活のことを予告されていた(詳しくは研究資料参照)。しかし弟子たちは、そのことを信じてはいなかった。いわんや、復活後に△あなたがたより先にガリラヤへ行く▽と言われたことなど(26・32)、覚えてもいなかった。ガリラヤこそ宣教の出発の地であり、そこから新たな宣教が始まろうとしていたのだ。しかし、ここに至っても、なお△疑う者もいた▽。

そんな弟子たちに、主は3つのことを示された。第一に主が△いつさいの權威を授けられた▽こと、第二に△それゆえに、すべての国民を弟子として：バプテスマを施し：教え▽るべきであること、第三に△いつもあなたがたと共にいる▽ことである。すべての權威を授けられたお方が、あえて不信仰な弟子たちに、宣教の働きを委ねられたのだ。とうてい弟子たち自身の手ではやっていけない。そのために主は、△いつもあなたがたと共にいる▽と約束されたのである。これはその後の聖靈降臨において成就し、彼らは主の復活の大胆な証人(証言者)となった(使徒3・15)。

結論

復活された主イエスは、今も生きておられる。そして聖靈として、いつも私たちと共におられる。今春から新しい学校、新しいクラスになり、不安を感じている子どもたちもいるだろう。しかし、すべての權威をもたれる全能のイエス様が、どんな所にもいつも共にいてくださる。このお方に頼るなら、なにも心配しなくていいのだ。

と一貫して主張している(例、使徒2・24、32、3・15、4・10、ローマ4・24、8・11、10・9、1ペテロ1・21、等)。さあ、イエスが納められていた場所をこらんなさい。直訳すると「来なさい、見なさい、彼が横たわっていたところを」となる。これは墓とその中の光景が正されていることを実証している。強調点は、イエスが実際に生きていることにある。7節は26・32の成就を記し、彼女たちに命じている。すなわち11弟子(イスカリオテのユダを除く)がガリラヤに行つて復活のイエスに出会うために彼らに伝えることを。

8～10 女たちは御使いに言われたとおりに、急いで墓を離れた。彼女たちにとつて、もはや墓は意味を持たない。しかしながら彼女たちの感情は恐れと喜びとが入り交じっていたと理解できる。ところがその道中で彼女たちはイエスご自身に出会った。平安あれ。字義的には「喜べ」となる。イエスのみ足をいだいて、敬意を払う行為である。そしてイエスは復活のからだを持っておられる。拝した。この動詞(プロスキネオ)は本福音書で10回キリスト礼拝に使われている(2・2、8、11、8・2、9・18、14・33、15・25、20・20、28・9、17)。ここで彼女たちは復活のイエスを聖なる方として崇めている。イエスは5～7節で御使いが告げた言葉(みわざ)を繰り返している。兄弟たち。イエスは自分を見捨てた弟子たちを「兄弟たち」と呼び、父なる神のみわざの中で同労者として扱っている。参考図書 内田和彦「マタイの福音書」実用聖書註解『いのちの光』社、Blomberg, C. L., Matthew (Broadman), Morris, L., The Gospel According to Matthew (Eerdmans),

聖書 マタイ28・1〜20
タイトル いつでもどこでもいっしょ！
暗唱聖句 見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたと共にいるのである。
目 標 復活のイエス様と共に新しい学年に進もう。

導入

(小野)

よみがえりの春！復活のイエス様と一緒に新しい学年をスタートできてうれしいですね。ピッカピカの1年生。おめでとう！入園、入学、進級、進学。あなたはどこに入るのかな？わかりますか？どのお友だちもみんな、一人一人、おめでとう！希望に満ちていますが、こわい子はいかなとチヨッピリ心配な気持ちと、お母さん一緒にやないし大丈夫かな？という気持ちとか、いろいろと複雑な心の人もあるかもしれませんね。でも、絶対！大丈夫！そんな私たちの心のことも、体のこともみんな全部知っていてくださって、必ず、いつでもどこでも一緒にいてくださるお友だちがいます！そう、それが復活されたイエス様です。

共にいる

イエス様の復活が信じられなかった祭司長たちは、わけの分からない作り話をでっち上げました。「弟子たちが夜中にきて、われわれの寝ている間に彼を盗んだ」と言うようにと兵士たちに言いました。寝ていたら誰が盗んでいったかも分からない

はずなのに！でも復活のイエス様は、父なる神様から、「いつさいの権威を授けられたお方として、私たちと共にいてくださいます。イエス様以上に強いお方、力ある方は天上天下、全宇宙のどこにもいないということです。目の前にこわい犬がいても、お父さんの後ろに隠れると安心！そう、イエス様と共にいてくださることは、これ以上心強いことはありません。しかも、いつでもどこでも一緒！なのです。あなたも今日、この復活のイエス様を信じて安心してください。

共に行く

いつでもどこでも、そして世の終わりまで一緒にいてくださるイエス様は、「この救い主のことを全世界の人に伝えてください」と言われています。こんなすばらしい救い主のことを知って信じたら、宣べ伝えないではいられませんね。でもイエス様のことや教会に行っていることを、お友だちや他の人たちに言うなんてとても恥ずかしいし、胸がどきどきする。何か言われそうだし、何かいやがらせされそうだし、なかなかできないよ、と思うかもしれない。イエス様のお弟子さんたちだってそうだったのですから！それができるのはただ1つ、イエス様の約束によりです。共にいるといわれるイエス様はまた、私たちがイエス様のことを伝えようとする時、「共に行く」と約束してくださいます。ここで、イエス様の約束のみ言葉に力づけられて、スコットランドから暗黒大陸といわれていたアフリカに出かけて行ったデビッド・リビングストンのことを知るとはとても大きな力になるでしょう。

彼は1813年3月19日にスコットランドの片田舎、ブ

ランタイアに生まれました。父ネイルと母アグネスは熱心なクリスチャンでした。彼が15才のとき、臨終の床で祖父は「リビングストンとはケルト語で『医者の子』という意味だ」と語ってくれました。父ネイルが、「医者」は身体の病気を治す尊い仕事だが、真の医者はいエス・キリストだと、子どもたちによく話してくれました。デビッドは、リビングストンとはなんと良い名前なのだろうとうれしく思いました。デビッドが19才になったとき、日曜学校のリーダーだったホッグ氏の病気が重くなり、危篤。デビッドは病院へ駆けつけ一心に祈りました。「デビッド、神はその人でなくてはできない使命を授けてくださっているのだよ。冠をいただく者になりたいなら、神に従って、困難を恐れてはいけません」と語り、安らかに目を閉じたホッグ氏の死顔にデビッドは感動とショックを受けました。パリサイ人の心が自分の心と示され、ルカ9・23により罪を残らず悔い改め、キリストの十字架を信じ、永遠の命を確信しました。この喜びを誰にでも伝えました。やがて妻メアリーとアフリカへ。ライオンに左腕を噛まれ、肩から上に手が上がらなくなりました。奥地へ進むとき、妻と4人の子らを英国に送り返しました。「共にいる」との主の約束だけを頼りに、デビッドは進みました。約束してくださるイエス様と共にいる、共に行くと言ってくださるので勇気があふれました。暗黒のアフリカにキリストの愛の光を輝かせ、60才の5月4日、デビッドは祈りの姿で天に帰りました。復活のイエス様と共に1日1日歩みましよう。

♪あるこうイエスの道を♪

(フアオリジナル礼拝讃美集 vol.21-23番)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんがうれしい時はどんな時ですか？プレゼントをもらった時、家族でお出かけする時、お友だちと遊んでいる時など、色々ありますね。では逆に悲しいな、怖いなと思う時はどんな時ですか？病気の時、一人でお留守番をしている時、夜中にトイレに行く時など、これも色々ありますね。イエス様は目には見えませんが、うれしい時も、悲しく怖い時も、どんな時もずっと皆さんと一緒にいてくださるのです。

ワークについて

絵をまわしながら、み言葉を覚えましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様は弟子たちに、いつでも、どこでも、一緒にいてくださると約束してくださいました。その約束は、み言葉を通して、今でもはつきりと私たちに語られています。

●質問3 私たちはこの約束のみ言葉に力づけられて、イエス様のことを家族やたくさんのお友達に伝えることができます。イエス様と共に、新しいお友達を教会にさそいましょう。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 いつも共にいることを実感し、確認するために、それぞれの年齢での自分を想像も交えて書いてみましょう。自分の顔を描きますが、住んでいる家や将来自分が就いている職業、家族の様子でもかまいません。

●第3問 どの年齢の時にも十字架の印が付き、いつもイエス様と共にいることを、視覚的にも実感してほしいのです。

●今、イエス様の臨在によって具体的な問題解決を必要としているお友達がいます。その求めに応じてくださる主を体験する時となるように、折りつつ導いてください。

ワーク D

●1の弟子たちの不安な気持ちを書き出すか、また、話し合っても良いと思います。この時間を十分に取ることで、以下の質問がスムーズに入っていくでしょう。自分の気持ちを人に言うことはためらいますが、登場人物の気持ちなら状況を思い浮かべて考えたり、表現したりすることができそうです。そのときに登場人物の気持ちを考えられる限り、言葉で表現させます。教師も思いうかぶ感情を言い表して、話しに加わっても良いと思います。

●不安な気持ち、恐れ、決断が難しい人でも、このような気持ちを持つものです。どんな気持ちでも受け入れてくださり、導いてくださるイエス様に出会うことが大切ではないでしょうか。

中高校へのヒント

観察してみよう

1 御使いのメッセージを確認してみよう。(恐れることはない／十字架につけられたイエス様はよみがえられた／復活された主イエスとガリラヤでお会いできる)

2 復活された主イエスの言葉を確認してみよう。(イエス様はいつさいの権威を授けられた。／すべての国民を弟子として、…バプテスマを施し…命じておいたいつさいのことを守るようになし。教えよ／いつもあなたがたと共にいる)

●考えてみよう

1 死を恐れない理由は？(私を愛して、私の罪のために死なれたイエス様が死からよみがえられたから)

2 復活を否定する人たちに何を伝えますか？

(聖書の言葉の真実／復活を信じる人々の生涯の証)

3 イエス様の権威は何ですか？(神としての権威／死に勝利された権威)

●自分に当てはめてみよう

1 洗礼を受ける決心をしよう。

2 イエス様の弟子となつていよう。

3 イエス様は、今も生きておられ、いつも、どんな時にも共におられることを信じて、新しい学校生活をスタートしよう。

4 すぐには信じてもらえないかもしれないが、勇気を持ってイエス様の復活を伝えよう。



聖書 ルカ2・21～40
テーマ その名はイエス

序論

(鎌野)

今週から主イエスの生涯の学びが始まる。私たちと共にいてくださる主が、どういってお方かを知れば知るほど、より身近に感じるからだ。今日はまず、イエスという名のもつ意味を考える。なお、今日のテキストは、時間的にはクリスマス物語の一部分であることに注意していただきたい。出産直後のマリヤはすぐ動くことは無理なので、ヨセフとともにベツレヘムに滞在を続け、出産から40日目にエルサレム神殿にのぼった。今で言う献児式をするためであつた。この出来事の後、東方の博士たちがやってきたのであろう。

一、人となられたイエス

出産の日から数えて8日目に割礼をほどこすことは、レビ記12章で命じられていることであり、その日に名前もつけられた(バプテスマのヨハネの場合も全く同じ。1・59参照)。それは、八御使が告げたとおり、イエスという名であつた。御使はマリヤにもヨセフにも、その名を告げていた(1・31、マタイ1・21)。イエスとは、ヘブル語のヨシユア(「主は救い」との意)のギリシア語発音であり、ユダヤではありふれた名前だった。神の子であるお方が、普通の人と同じように名付けられたばかりか、罪人が受ける割礼も同じように受けられたのである。さらにレビ記12章に従って、もう33日間の八きよめの期間を経て、きよめ

のための犠牲がささげられた。しかもそれは、最も貧しい人々がささげる犠牲だった。
主イエスは、私たちと全く同じ人間となられたことを忘れてはならない。そうでなければ、罪ある人間を救うことはできないからである。主は、「民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった」(ヘブル2・17)。

二、救い主となられたイエス

シメオンの賛美の中には、主イエスの生涯の意義が示されている。彼は聖霊の3重の働きによって(25～27節)神殿にはいり、イエスを連れた両親に会った。そして、この幼な子は、神が八万民のまえにお備えになったもので、異邦人を照す啓示の光、み民イスラエルの栄光であるとして歌ったのである。彼はハイスラエルの慰められるのを待ち望んでいたのだが、聖霊によって、幼な子イエスが異邦人も含めた万民の救い主であることを示されたに違いない。また、聖霊の導きがあつたからこそ、女預言者のアンナも、八ちようどそのとき近寄ってきて、神に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、エルサレムの救を待ち望んでいるすべての人々に語りきかせた。

人となられた主イエスは、また同時に聖霊によって生まれた神のひとり子であつた。100%の人でありつつ、100%の神であつたからこそ、救い主なのである。それゆえ、八わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられない(使徒4・12)。

三、犠牲となられたイエス

シメオンがマリヤに話した言葉は、もう一つ重要な意義をもっている。八この幼な子は、イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために、また反対を受けるしとして、定められています。——そしてあなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう。これは、主イエスが十字架で人々の罪の身代わりとなれることの預言であつた。生後40日のわが子を前にして、この預言を聞かねばならなかった母マリヤは、どのような気持ちだったろうか。

しかし、これが主イエスの使命だった。神であるお方が私たちと全く同じ人となり、罪人の受ける神のさばきを身代わりとなって受けることこそ、神のご計画であつた。主ご自身が犠牲となられたのだ。神は、「御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわれし、肉において罪を罰せられたのである」(ローマ8・3)。この真理を受け入れない人は倒れるが、受け入れる人は立ち上がる。マリヤはこの時の様子を決して忘れることなく、主の十字架と復活の後、誰か(ルカ本人かもしれない)に語つたのだらう。この献児式は、主イエスがどういとお方であるかを暗示するものだった。

結論

イエスという名は、私たちにとって特別の名である。喜びの時にも悲しみの時にも、この御名を呼び求めよう。単に名前を呼ぶのではなく、このお方の姿を思い出そう。罪人と等しくなり、その罪を負つてくださったその姿を。

研究資料

(足立)

この個所にはルカの大きな強調点が二つ見受けられる。まず律法を順守し神を畏れ敬う人たちの行動がある。マリヤとヨセフ、シメオン、そしてアンナはそれぞれ旧約的敬虔(けいけん)の中に生きていた。御子イエスもまたユダヤ文化の中で成長する。もう一つの強調は、マリヤの子(イエス)に関する言及である。

テキスト

21 八日が過ぎ、割礼をほどこす時となつたのでイエスの割礼は、ご自分の民と神の御子との連帯責任を表している。すなわち彼は律法の下に生まれた(ガラテヤ4・4)。イエスと名づけた 強調点は子どもの割礼にあるのではなく、むしろその名付けにある(ルカ1・31、マタイ1・21)。
22～24 モーセの律法による彼らのきよめの期間が過ぎたとき 律法という言葉が四回言及されている(2・22、23、24、27)。きよめには三つの要素が含まれている。マリヤのきよめ(レビ記12・6～8)。初子の聖別(出エジプト13・1～2)。初子の奉獻(参照サムエル上1・11、22、28)。山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽 おそらく貧しさの中にあつたイエスの両親は羊をささげることができず、山鳩、家鳩をもって律法の要求を満たしたのであろう(レビ記12・8)。貧しさはルカの強調点でもある(1・48、52～53、2・8)。
25 シメオン 彼がイエスの生涯に言及したこと

が重要。この人は正しい信仰深い人 比較1・6、23・50～51、使徒10・22。イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた 救い主の時代が始まることによつてもたらされる慰めへの言及(参照創世記49・10、詩篇119・166、イザヤ25・9、40・1以下、66・13)。聖霊が彼に宿っていた ルカは本福音書において少なくとも17回聖霊に言及している(マタイは12回、マルコは6回)。
26 死ぬことはない 字義的には、死を見ることがない(参照詩篇89・48、ヨハネ8・51、ヘブル11・5)。
27 御霊に感じて これは恍惚とした経験ではなく、むしろ4・1にあるような聖霊の導きへの言及である。律法に定めてあることを行うため、両親もその子イエスを連れてはいってきただけで、ヨセフとマリヤをイエスの両親として表現している(参照2・33、41、43、48)。もちろんこれは、イエスの処女降誕を前提としている。ヨセフはイエスの法律上の父であつた。
29 この僕を安らかに去らせてください 彼は長い仕事からの解放として死を考えているのであろう。

30 わたしの目が今あなたの救を見たのですから 幼子イエスのうちに、シメオンはイスラエルに救いをもたらす救い主を見た(参照イザヤ40・5)。
31 万民のまえにお備えになったもので 万民とはユダヤ人と異邦人の両方を含む(参照イザヤ52・10、ルカ3・6、使徒2・21、28・28)。
32 異邦人を照す啓示の光 「光」は2・30との関係で「救い」と同格である(参照イザヤ49・6)。

イエスを表す象徴としての光に関しては以下を参照。ヨハネ1・4～5、9、8・12、9・5、12・46等。み民イスラエルの栄光 「栄光」は「啓示」、あるいは「光」と同格にあると理解できる(参照イザヤ60・1、19、58・8)。
33 父と母とは…不思議に思つた 聖なる啓示に驚くヨセフとマリヤ。
34 シメオンは彼らを祝し、そして母マリヤに言った シメオンはヨセフとマリヤと言うよりマリヤに語つた。これはマリヤが処女懐胎を経験した故にイエスとユニークな関係にあるからか、あるいはイエスの十字架以前にヨセフが死ぬということと関係があるのかも知れない。この幼な子は、イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために イエスの宣教に関して「倒れる」、「立ち上がる」という二重の意義があることへの言及。貧しさや謙りが積極的な救いに関係あるなら、富や高ぶりは否定的な審きに通じる。救い主到来にはこの二つの側面があると旧約(イザヤ8・14、28・16～17)にも、新約(ローマ9・33、1ペテロ2・6～8)にも見受けられる。この節は以下の個所の内容を予見している(ルカ4・29、13・33～35、19・41～44、47～48、20・14、17～19)。
35 あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう 自分の息子が拒絶され十字架につく姿を見ることによって、マリヤの心にやがて起こる悲しみへの言及と考えられる。

参考図書 Morris, L. Luke (IVP).
Stein, R. H. Luke (Broadman).

聖書 ルカ2・21〜40
タイトル すばらしい名
暗唱聖句 幼な子をイエスと名づけた。
目 標 イエス様の献児式の様子を見る。

導入 (小野)

新しい学年が始まりました！朝はなんて忙しいんでしょう！学校に行く前にある子が祈りました。「イエス様、行って来ます。アーメン」。それを聞いていたお母さんが「イエス様を家に『おいてきぼり』で出かけるの」と言います。アッそうか！というなり「イエス様、一緒に行きます。アーメン」と祈り直しました。さあ、私たちも毎日、よみがえりのイエス様と一緒にですね。今年は「イエスさまとともに」というテーマで、イエス様の生涯を学びます。私たちの大好きなイエス様のごことが学べてとってもうれしいですね。イエス様のお誕生のことはクリスマスでいろいろ教えてもらったけれど、イエス様の子どもの時代って、どんなだったでしょうね？

生まれて8日目

生まれて8日目の赤ちゃんを見たことありますか？弟や妹を見た！という子もいるかしら。でもボクも小さかったから覚えていないよ、かな？それとも近所の赤ちゃんとか親戚の赤ちゃんとか見たかな？生まれて8日目の赤ちゃんはまだふにやふにやっ感じて、目もずつつぶったままかもし

れないし、赤い顔しているかも！イエス様が生まれて8日目に何があつたでしょう？名前がつけられたのです。名前ってとっても大切ですよ。とにかく、一生、その名前が呼ばれるのですから！みんなは自分の名前、気に入ってますか？自分の名前を自分でつけた人はいませんか？誰がつけたの？お父さん？お母さん？おじいちゃん？牧師先生？もしかしたら聖書の中からつけてもらった人もあるでしょうね。さて、ではイエス様は？「受胎のまにに御使が告げたとおり、幼な子をイエスと名づけた」(21節)とあります。ヨセフさんがつけたのでも、マリヤさんがつけたのでもありません。御使いが告げたのは、神様からの言いつけでした。マリヤさんには御使いがガブリエルが「その子をイエスと名づけないさい」(ルカ1・31)と告げました。ヨセフさんには、主の使いが夢に現れて、「その名をイエスと名づけないさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」(マタイ1・21)と言ったのでした。ということは、そう、イエス様のお名前は、なんと神様がつけられたのです。名付け親は神様でしたよ！「イエス」という名はその頃のユダヤではよくある名前でした。でも、イエス様のお名前は、神様がつけられたというので特別な名前です。それにその名前にはまた特別な意味があるので、ますます特別な名前なのです。

名前がつけられて33日目

ということは生まれてから丸40日が過ぎて41日目ということですね。生まれて約1ヶ月ちよつとの赤ちゃんイエス様ですよ。まだ目も見えないかな。フギヤア、フギヤアと泣くだけくらいしかできないかな。そんな赤ちゃんイエス様を神様にお

献けする「献児式」のために、ヨセフとマリヤはエルサレムの神殿に行き、共に犠牲をささげました。その犠牲は「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」で、律法に定めてあるとおりでした。実はこれらは一番貧しい人々がささげるささげものでした。イエス様のご両親はとても貧しい人たちだったのでね。その献児式で不思議な人々が二人、マリヤに抱かれていたイエス様に近づいてきました。ひとりシメオン老人。赤ちゃんイエス様を腕に抱いて言いました。「神様、私は今やと安心してこの世を去ることが出来ます。なぜなら私の目が今あなたの救いを見ましたから。この救いはすべての人のためのものです」と。そしてつけ加えて、やがてこの子が十字架で人々の罪の身代わりとなって死ぬことも預言しました。もうひとりはお女アンナさん。彼女は夜も暮らしてしまっていた84才になる人でした。救い主を待ち望んで夜も昼も神殿で祈りながらいた人です。あ、救い主だ！とアンナにも分かつて、イエス様のことを神様に感謝し、このイエス様のことを仲間たちすべてに話して聞かせました。「その名はイエス」「イエス」とは「主は救い」という意味で、まさにマリヤの腕に抱かれた幼な子イエス様こそ、神様が私たちに与えてくださった、たつた一人の救い主なのです。だから、「イエス」とは私たちにとって大切な、特別な、スペシャルなお名前なのです。お祈りの時、必ず終わりにでてくるお名前、そしてどんな時でも、「イエス様」と御名を呼べば、私たちが助けて救ってくださいます。なんてうれしく感謝なことでしょう。

♪主の名をみんなです♪

(ゴスペル・ミュージック25番)

ワーク A

●話し方のヒント

皆さんは生まれたばかりの赤ちゃんを見たことありますか？とっても小さくてかわいいですね。今日のお話にも赤ちゃんが出てきます。名前は「イエス」と言います。そうです、イエス様です。この「イエス」というのは「救う、助ける」という意味です。イエス様は皆さんを救い、助けるために生まれてくださったのです。そして皆さんが「イエスさま」と呼べば、救い、助けてくださるのです。うれしいですね！

●ワークについて

字を切り、選んで赤ちゃんに名前を貼りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 ヨセフとマリヤは幼な子に、み使いが告げたとおり「イエス」と名づけました。ヨセフたちはイエス様を神様にささげるためにエルサレムの神殿へ行き、犠牲をささげました(献児式)。イエス様の誕生を待ち望んでいたシメオンは、やがてイエス様が十字架で人々の罪の身代わりとなつて死なれることを預言し、アンナはイエス様の誕生を心から神様に感謝し、救いを待ち望んでいるすべての人々にこのことを伝えました。

●質問3 私たちにとってイエス様の名が大切なのは、神様に祈ることができ、その名を呼ぶ者は誰でも救われるからです。いつでもイエス様の名を呼ぶ者とならせていただきますように。

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。

●子どもの名前は、親がつけることが多いですね。クリスチャンホームの子は、聖書の言葉の中から付けられることが多いでしょう。子どもたちの名前の意味や由来を聞いて第3問につなげます。

●第3問 「イエス」という名前自体は、当時ありふれた名前でしたが、その名の意味を具体として持っているお方は、人となられた神の子イエス様だけでした。

●第4問 イエス様の献児式の様子を絵で書いてみましょう。教師がこの場面の絵や本の挿絵を見せてあげても良いです。

●イエス様は私たちにとって大切なお方です。その名前をも大切にするように導きたいものです。

ワーク D

●私たちも子どもが与えられると献児式をします。けれどもイエス様のように将来、犠牲となつて神の裁きを受けることなど預言された人はありません。イエス様はお生まれになる前から、特別な使命をささづかっておられました。また主の名について書かれてある、聖書の箇所を開いて読んでみましょう。

中高科へのヒント

●観察してみよう

- なぜ、「イエス」という名前に？(御使いが告げた通り、意味は「主は救い」)
- 両親は、幼子イエス様に何をしましたでしょうか。(8日目に割礼、40日過ぎての献児式)
- シメオンはイエス様をどのように見えていますか。(神様からの救い主、イスラエルと異邦人の救い主、人類の罪のために十字架で死ぬお方)
- アンナは何を待っていたのでしょうか。(イスラエルの救い)

●考えてみよう

- イエス様は罪のない神の子であられるのに、どうして罪人が受ける割礼と、きよめの期間の後の犠牲をささげられたのでしょうか。(私たち罪人と同じようになるために)
- 人となられたイエス様と、私たちとの決定的な違いはなんでしょう。(イエス様は罪をおかされなかった。ヘブル4・15)

●自分に当てはめてみよう

- イエス様は、私に一番近くおられ、私のすべてを理解し、同情してくださるお方であることを確かめよう。(ヘブル2・17、4・14〜16)。
- 罪を犯されなかったイエス様だからこそ、私たちの罪を贖うことができたことを確認し、救い主を信じよう。(Ⅱコリント5・21)



聖書 ルカ2・41～52
テーマ ナザレにて

序論

(鎌野)

ルカは、東方の博士の来訪とその後のエジプト下りについては何も言及せず、直ちに今日のテキストであるナザレでの生活と12歳の時の出来事を記す。ここでも、主の人性と神性が対照的に述べられている。しかし、前の週では「幼な子」であって、当然ながら何の言動もされなかった主であったが、今週では「少年」に成長され、その言葉と行いが明記されている点に注意したい。このころ主は、ご自分の年齢を自覚し、またその使命と責任とを自覚されていたのである。

一、年齢の自覚

ユダヤの成人男子は、毎年、三大祭りに参加することが義務づけられていた(申命記16・16)が、女性はそのでなかった。しかし「イエスの両親は、過越の祭には毎年エルサレムへ上っていた」。主が12歳になった年、両親は「慣例に従って」彼をその祭に連れていった。13歳のとき、バル・ミツパ(「契約の子」という意味)になる儀式を受けて成人と認められるために、その予習をさせるのが慣例だったからである。神の子である主イエスは、生まれた時から「契約の子」であつたに違いない。しかし主は、ここでも普通の男の子と同じ道を歩まれ、両親に従って上京された。

12・13歳という、現在では小学校から中学校に進む頃で、自分の自由意志で物事の決断ができる

る年代である。人によって多少の差はあるが、信仰の決断ができる年齢だ。この時代に主イエスを信じるなら、その後の生涯はどれほど祝福に満ちたものとなるだろうか。この年齢の子どもたちには、特にこのことを自覚させねばならない。

二、使命の自覚

少年イエスは、この祭で、いけにえの小羊がほふられるのを目撃し、しかもそれが毎年毎年繰り返されていることも知った。そして、動物のいけにえは本当の罪の赦しをもたらすものでないことを悟ったに違いない。もしそれができたとすれば、「儀式にたずさわる者たちは、一度きりめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから、ささげ物をするのがやんだはずではあるまいか」(ヘブル10・2)と考えたと思われる。いや、神の子であるから、それらすべてをすでにご存じだったと言ふこともできる。少年イエスの、教師たちへの質問の幾つかは、こんなことについてはなかっただろうか。

彼を捜しあてたマリヤが、△おとう様(直訳では「あなたの父」)もわたしも心配して△と言ったとき、イエスは、△わたしは自分の父(直訳では「わたしの父」)の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか△と答えたことに注目しよう。主イエスは、この時点ですでに、神殿が自分の父の家であることを自覚されていた。そして、将来自分が「多くの罪のために一つの永遠のいけにえをささげた」(ヘブル10・12)使命をもつことも。ここに、主イエスの神性が表わされている。

三、責任の自覚

しかしイエスは、すぐにその使命を実行されたのではなかった。かえって、△両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった△。たとえ、△両親はその語られた言葉を悟ることができなかった△にしても彼らを敬い、それから約20年間、両親を助けて一緒に生活されたのである。ここに、人としての責任を自覚し、それを立派に果たされた主イエスの姿を見ることができる。

主がイスラエル全土を旅し、神の国の宣教のために働かれたのは、わずか3年余りであった。しかし、ナザレにて両親に仕えられたのはその十倍ほどあったことを忘れてはならない。神の子であるお方さえ、人の子として謙遜に両親に仕えられた。そうであるなら、私たちはもっともっと謙遜に両親に仕えるべきである。少年少女時代に、この責任をはっきりと自覚させなくてはならない。

結論

△イエスはますます知恵が加わり(知育)、背たけも伸び(体育)、そして神と人から愛された(霊育)△。しかし、今の日本では、知育と体育に多くの情熱が注がれ、様々な塾やスポーツクラブが繁盛しているが、霊育についてはほとんど関心が払われていない。神と人から愛される道は、聖書にはつきりと記されていることを、声を大にして叫びたい。子どもの霊育は、家庭と教会が責任をもつて果たすべきである。特にクリスチャン・ホームにおいては、霊育よりも、知育や体育を重視するようなことがあつてはならない。

研究資料

(足立)

この個所の主な強調点はキリスト論にある。福音書記者ルカは、イエスの公生涯が始まるかなり前から、御子が御父とのユニークな関係を意識していたことを表している。既に12才の時、イエスは自らが神の子であり、特別な召しにあずかっていることを知っていた。イエスはヨセフとマリヤに従順であり律法を大切にしたが、両親以上に御父との聖なる関係を表に出している。

テキスト

41 過越の祭には毎年エルサレムへ上っていた
イエスの両親は過越を祝うため慣習としてエルサレムに毎年行っていた。過越の祭りはユダヤ人男性が参加を要求された三つある年一度の祭りの一つであった(申命記16・16)。過越それ自体は七日の祭りの最初であり、種なしパンの祭りと呼ばれ、ニサンの第15日に祝われた。けれども祭り全体は通常、過越の祭りと呼ばれた(参照ルカ22・1、ヨハネ13・1)。過越は神の救いを祝う。すなわちイスラエルの初子を御使いが過ぎ越し、エジプトとその死から神の民が脱出したこと。次節からもわかるようにヨセフとマリヤは敬虔なユダヤ人であった。
42 イエスが十二歳になった時も 13歳でユダヤ人の少年は律法を順守するものと見なされ、大人の仲間入りをした。
43 祭りが終って すなわち7日後(参照レビ記23・5～6)。少年イエスはエルサレムに居残つておられた。イエスがエルサレムにとどまっていたのが、

意図的なのかそうでないのかはわからない。両親はそれに気づかなかった。ヨセフとマリヤは巡礼者の一団で旅をしていたので、イエスが他の子どもたちと一緒にいると決めてかかっていた(参照2・44)。

46 宮の中で エルサレム神殿のこと

47 聞く人々はみな、イエスの賢さやその答に驚嘆していた イエスの知恵はイスラエルの指導者たちを驚かせた。私たちはこの出来事の中に神の御子の類いまれな知恵をみる。この驚きは、イエスの質問(2・46)とその答え(2・47)との両方に表されている。「驚き」の応答に関しては、2・18、33を参照。この驚きは、しばしば超自然的な出来事の結果である(参照8・56、24・22、使徒2・7、12)。

48 両親はこれを見て驚き 両親の驚きの対象は定かではない。彼らが驚いたのは、2・46～47で表現されているイエスの知恵に起因するのかも知れない。おとう様もわたしも 法律上の父と母を意味する。

49 どうしてお捜しになったのですか 本福音書におけるイエスが発した最初のことば。わたしが自分の父の家にいるはずのことを「いるはず」とは聖なる因果関係を示すとても強い意味をもっている。「自分の父の家とは、わたしの父の事柄、あるいはわたしの父の民への言及でもあるが、6・4、19・46で宮が神の家として言及されていることから「わたしの父の家」とするのが最も良き理解であろう(参照ヨハネ2・16)。少年イエスは神に仕える重要性を明確に意識し、おそらく天の父

との特別な関係に立っていたと考えられる(以下と比較、10・21～22、11・2、13、22・29、42、23・34、46、24・49)。ご存じなかったのですか イエス誕生にまつわる驚くべき声明(1・26～38)、御使いのメッセージ(2・1～20)、そしてシメオンの預言(2・21～40)から考えるなら、なぜヨセフとマリヤはこの出来事に驚いたのであるうか。このような無理解は弟子たちのうちにも見られる(参照9・44～45、18・31～34、24・25～26)。

50 両親はその語られた言葉を悟ることができなかった 過去に様々な試みに遭遇してきたヨセフとマリヤであったが、神の御子イエスへの理解が欠落している。同様な無理解はイエスの公生涯に一貫して起こっている(参照4・22、9・45、18・34、24・5～7、25・26、45)。ヨセフとマリヤはイエスが救い主であることを徐々に理解することになる。

51 イエスは両親と一緒にナザレに下って行き これは2・4の「上って行った」とは逆戻りである。彼らにお仕えになった ここはルカがヨセフに言及する最後の箇所。イエスが宣教に従事するときはまだ来ていなかった。公生涯まで後18年余りあるが(参照3・23)、イエスの言動については何も記されていない。ここでのルカの強調点は、イエスが両親に従い続けていたことにある。母はこれらの事をみな心に留めていた 参照2・19。比較1・80、参照ヘブル2・14～18、5・8～9。参考図書 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書註解』いのちのことは社、Morris, L., Luke (IVP). Stein, R. H., Luke (Broadman).

聖書 ルカ2・41〜52
タイトル すばらしい少年
暗唱聖句 それからイエスは両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった。
目 標 イエス様のように両親に仕えよう。
ルカ2・51

導入 (小野)

「みどりも深き、若葉の里、ナザレの村よ。ながちまたを 心清らに 行きかいつつ 育ちたまいし 人を知るや」(新聖歌98番1節と歌にあります。少年イエス様が30才の青年になるまでお育ちになられた所は、ガリラヤ地方のナザレという所でした。そこは田舎だったようですね。山も川もあるし、果樹園、特にぶどう畑もあったでしょうね。それに近くにはガリラヤ湖という湖もありました。自然にとっても恵まれた所で、イエス様は一体、誰とどんなことをして遊んでいたのでしょうか？ イエス様には、弟が4人生まれたし、妹たちもできたので、兄弟姉妹が仲良く遊んだのでしょうか？ 魚釣りにも行ったのかな？ こんなことは聖書には書かれていないので分かりませんが、イエス様はますます成長して強くなって、知恵もますます満ちていったし、そして何よりも神様の恵みが注がれてすばらしい少年になっていかれたと書かれています。

エルサレムにて

イエス様が12才になられたときの出来事が、ここに記されています。今だったら小学校6年生で

すね。ユダヤでは13才で成人式があるので、その準備のためにエルサレムの神殿へ両親と一緒にいかれました。そこでイエス様は迷子になってしまったのです！ というか、イエス様はちゃんと自分がいる所を知っていたのですが、ヨセフとマリヤがそのイエス様に気がつかなくて大騒ぎ。3日もたつてやっと両親はイエス様を捜し当てました。なんとイエス様は12才の少年なのに、宮の中で教師たちの真ん中にすわっているではありませんか。そして、その立派な教師たちの話を聞いたり、またあれこれ質問までしているのです。それをまわりにいて聞いていた人々はみんな、この子はなんて賢い子なんだろう、なんとみごとな答えをする子なんだろうと、あつと驚いていたのです。ヨセフもマリヤもびくびくしてしまつて、マリヤがイエス様に言いました、「どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんないさい、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです」。するとイエス様の口から不思議な返事が返ってきました。「どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか」。えっ？ 『自分の父の家』だって？ 父は私のはずだが、とヨセフも思ったでしょうし、マリヤにもこの言葉は一体どういうことなのかさっぱり分かりませんでした。しかし、マリヤは心の中にこの事を大切にしまつておきました。イエス様はこの時はもう、自分の父が神様であることを悟られ、自分の使命は神様のみ心を行うことだということをやっと心にとめておられたのですね。毎日毎日聖書を読んでお祈りをしながら、その大切なことを悟つていかれたのです。神様はあなたにもきつとそうしてくださいますよ。

ナザレにて

ではイエス様はもうそのまま神の宮にとどまつて神様のお仕事をしたのでしょうか？ いいえ、それから両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになったとあります。ナザレはエルサレムより地図では北で上ですが、エルサレムが都なのナザレに下つたと表現しているのです。そこでイエス様は18年間という長い間、つまりイエス様が30才になるまで両親に仕えられました。子どもとしての大切な義務を果たしたのですね。ヨセフは大工さんでしたから、イエス様は大工の子として父ヨセフの手伝いをしました。また弟たちや妹たちの面倒を見てください。一番上のお兄さんとして、母マリヤのためにいろいろと力になってあげたにちがいありません。旧約聖書を読むと、「あなたの父と母を敬え」(出エジプト20・12)と、モーセの十戒の中にあります。イエス様は心から律法に従い、へりくだつて父と母を助けてお仕えになったのです。それはまた大切な神様のお仕事に入る前のなくてはならない準備のときだったのです。皆さんももう心の中に、大きくなったならあれもこれもしたい、こんな人になりたいという夢や希望があるかもしれませんね。何のためにたつた1つの命を使うかはとっても大切。でも、子ども時代の今、少年少女として一番大切なことはイエス様のように心から両親を愛し、敬い、へりくだつて、両親に仕えることだということを心に刻んでください。どのようにすることが両親に仕えることですか、とお祈りしたり、聖書のお話を聞いたりして、分かつたら実行しましょう！

♪主はすばらしい♪
(ゴスペル・ミュージック24番)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは、神様はどんな所に住んでいると思いますか？ 大きなお城でじかじかの椅子に座り、天から皆さんを見ているのでしょうか？ イエス様は神様ですが、人として田舎の貧しい家に生まれ、普通の人と同じように大きくなりました。イエス様は神様から愛と知恵をいただき、お父さん、お母さんを大切にすばらしい少年でした。皆さんもイエス様のように歩めたらすばらしいですね。
●ワークについて
イエス様を捜し、何をしているか話しましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
●質問2 毎年のように、両親とエルサレムに出かけていたイエス様でしたが、12才の時、両親とはぐれてしまいました。それは、イエス様が神殿で、教師たちと神様のことや聖書のお話を熱心に行っていたからでした。
●質問3 イエス様はみ言葉(出エジプト20・12)を守つて、お父さんやお母さんを大切にし、お手伝いもきちんとし、家族を助けていました。私たちもイエス様のように、両親を大切にし、家族のお手伝いをしっかりとしましょう。

ワーク C

●第2問 第3問との関連で、神の子であるイエス様は、ご自分の使命を知つておられ、父をも知つておられたことを、み言葉から確認してください。
●第3問 しかし、その使命に立つには、神様の時があります。その時までは両親に仕えておられたのです。
●第4問 少し難しい質問です。自由に考えを言わせましょう。仕えることを学ぶのは神様の使命に立つ時にどうしても必要な訓練であり、準備です。イエス様は全く神であられるのに、全く人のように準備の時を過ごされました。
●第5問 具体的に書くように導きます。「お祈ります」ではなく、「何を、いつ、お祈りしますか」と聞いてあげてください。

ワーク D

子どもたちにとってイエス様はどんな存在でしょうか？ 大人のイエス様しかイメージがわかないかも知れません。しかし今日は12歳のイエス様が出てきます。神殿で大人の教師たちと対等に語り合うイエス様。迷子になられ、両親を心配させるイエス様は、子どもたちにとって身近な存在とならないでしょうか？
●「両親に仕える」を子どもがイメージすると、強制的であったり、罪意識から出る償いのようなものもあるのではないのでしょうか。両親に仕えるイエス様のお姿はまさに両親から自立した一人の人間、成人した姿を思い浮かべさせられます。現代は年齢的には大人であっても精神的に親から自立していない人が多く、子どもたちにとって手本となる人物になかなか出会えないかもしれません。でもここに、イエス様という手本があります。自分なりに「両親に仕えるとは？」ということであらためて具体的に考える時となるでしょう。

中高校へのヒント

観察してみよう

1 イエス様が12歳でエルサレム神殿に行かれた理由は？(成人として認められるため)
2 「イエスの賢さやその答えに驚嘆していた」(47節)理由は？(神の子として、神の言葉を理解していることと、両親や会堂で律法を学んだこと)
3 「わたしが自分の父の家にいるはず」とはどんな意味？(神殿は父なる神の臨在の場所であること)
●考えてみよう

1 中学、高校時代は、勉強も運動も趣味も大切ですが、それ以上に霊的に成長することを大切にしているでしょうか。(成長の秘訣は神の言葉に養われていること)
2 あなたは子どもですか、大人ですか。この当時は12歳で成人でした。どう思いますか。(大人は自分で決断できること。自覚的な信仰を持つとう)
3 「両親…にお仕え」(51節)とあります。両親に従うことは大切だと思いますか。(十戒)
●自分に当てはめてみよう
1 クリスチャン・ホームの子は、親の信仰に育てられつつも、自分の信仰をしっかりと持とう。
2 聖書のメッセージも受け身で聞いているだけではなく、聖書を自分で調べたり、考えたりして、精通していこう。



聖書 ルカ3・1～6 テーマ 主の道を備える

序論

(鎌野)

今週と来週の2回にわたって、バプテスマのヨハネの役割について学ぶ。彼のことが四福音書のすべてに記されていることは、彼の重要性を示している。特にルカは、彼の誕生についても記録しており、主の道備えとしての彼の役割を強調していることは容易に理解できる。ルカは、歴史家として、また異邦人として、他の福音書記者とは違った観点からヨハネを描いている点に注意を向けたい。

一、時の備え

ルカは、他の三福音書が書いていない、バプテスマのヨハネの登場の年代を正確に記している。〈皇帝テベリオ〉とは、初代ローマ皇帝アウグスト(2・1)の後継者で、紀元14年に即位した。ゆえに彼の〈第十五年〉とは、紀元28年頃だと思われる。ピラト、ヘロデ、ピリポ、ルサニヤなどの政治家や、大祭司だったアンナスとカヤパについて、聖書以外の資料を調べても、この年代は確実だと思われる(研究資料参照)。彼はアウグストによって確立された「ローマの平和」を維持するため、巧妙な政治を行ない、反抗的なユダヤ人に対しても、寛容な政策をとったようだ。〈ガリラヤの領主〉ヘロデ(主の誕生時のヘロデ大王の息子)は、この皇帝に敬意を表して、ガリラヤ湖西岸の町をテベリヤと名付けたために、この湖はテベリヤ湖とも呼ばれていた(ヨハネ6・1、23)。

ヨハネはこのような比較的落ち着いた時期に登場し、〈八罪のゆるしを得させる悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた〉。悔い改めこそ、信仰に先立つことだからである。悔い改めが徹底していなければ、本当の信仰は生まれない。そういう意味でも、ヨハネは、主の道備えをなす人物だった。

二、地の備え

ヨハネが神の言を受けた所は〈荒野〉であり、またその宣教の働きが(ヘロデの支配していたガリラヤ湖に近い)〈ヨルダンのほとりの全地方〉であったことも、重要な意義をもっている。もし彼の活動の場が、エルサレムやその近辺であったなら、エルサレムに住んでいた当時の宗教的権力者たちは、すぐに彼の教えを問題視したであろう。来週学ぶように、彼はユダヤ人の選民思想について厳しい批判をしていたからである(8節参照)。彼は、当時一般的だった異邦人の改宗のしるしであるバプテスマを、ユダヤ人にも広げていた。

主イエスは、ヨハネが備えていたガリラヤ地方でその宣教を始められ、そこを活動の中心とされた。しかし、その地方だけにとどまられたのではない。さらにイスラエル全土とエルサレムにも働き場を広げられたことにも留意しよう。

三、人の備え

これが最も大切な備えである。ヨハネ自身が、神から遣わされた備えの人だった。「この年、神の言がこの子に臨んだ」という表現は、エレミヤ1・2やエゼキエル1・3にも出てくる、預言

者の働きの最初に用いられる定型句である。彼は、〈預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおり〉に、〈主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ〉と命じられている人物なのだ。救い主がおいでになる時のために、その通られる道を用意する働きが、この人物に求められている。

4節のイザヤの預言は他の三福音書もみな同じように記している。しかし、ルカだけは、人はみな神の救を見るであろう」というところまで引用しているのはなぜか。異邦人のルカは、この救い主がユダヤ人だけではなくすべての人の救い主であることを、強調したかったのだ。

この人類の救い主の先駆けとして、バプテスマのヨハネは登場した。誕生も6ヶ月早く、公の場に登場したのも早かった。だが彼は自分の限界をちゃんと見極めており(16節参照、自分が〈荒野〉で呼ばれる者の声にすぎないことを自覚していたのである。声はすぐに消え去ってしまうが、言葉は残る。受肉した「神の言」であるイエス・キリスト、「いのちのことば」であるお方こそが、いつまでも残ることを忘れてはならない。

結論

来週学ぶ、ヨハネのあかしの声を、しっかりと聞きたい。また、私たちも声になりたい。神の言葉は、人の声によってあかしされるからである。教会学校でも、伝道会や礼拝でも、私たちの声が必要とされている。人の永遠のいのちを左右する重要な働きの一部を、私たちは委ねられているのだ。大胆にあかししようではないか。

研究資料

(足立)

ルカ3・1～6はおよそ紀元29年頃を示していると考えられる。神は死海北部及びヨルダン川にひとりの預言者を遣わした。そこでバプテスマのヨハネはユニークな洗礼を説いた。それは神の救いの到来に備える洗いであった。この準備は、人が神の前に生きる道を方向転換するという思考の転向を含んでいた。そしてその洗礼の目指すべき事は、神がご自分の救いにおいてお与えになる罪の赦しを待ち望むことにあった。この赦しは、ヨハネより力ある方(イエス)によってもたらされる洗礼により更に重要なものとなる(3・15～17)。

テキスト

1～2 ルカはヨハネの伝道を歴史的状況の中で位置づけ、記している。事実7人の政治的支配者に言及していることから考えて、ヨハネの働きがかなり広範囲に及んでいたものと推察できる。このような記述の仕方は当時珍しいものではなく、旧約聖書の預言者召命部分とも類似している(エレミヤ1・1～3、イザヤ1・1、アモス1・1)。皇帝テベリオ在位の十五年 ローマ帝国第2代皇帝テベリオの治世は、紀元14～37年。ポンテオ・ピラトがユダヤの総督 彼が5代目のユダヤ総督だったのは紀元26～36年。ヘロデがガリラヤの領主 彼は前4～紀元39年ガリラヤの領主を務めたヘロデ・アンテパスで、ヘロデ大王(1・5)の息子。その兄弟ピリポがイツリヤ・テラコニテ地方の領主 彼はヘロデの異母兄弟で、母はクレオパト

ラ。ピリポはヨルダンの東を前4～紀元34年統治。ルサニヤがアビレネの領主 彼については詳しくわからない。アンナスとカヤパが大祭司であったとき アンナスは6～15年大祭司であったがローマ政府により廃位させられ、娘婿のカヤパ(在位18～36年)が就任した。カヤパの就任後もアンナスは事実上の大祭司として実権を握り、大きな影響力を与えていた(参照使徒4・6)。「大祭司」(アルキエレオース)が単数形であるのも、以上のような実情のためと考えられる。後にイエスが逮捕されたとき最初アンナスのもとへ連れて行かれた(ヨハネ18・13)。神の言が荒野でガリラヤの子ヨハネに臨んだ ルカは再びヨハネをガリラヤの子と紹介している(マタイとマルコの並行箇所にはガリラヤの子という表現はない)。ルカは自分が記した1章を意識している。ヨハネは神が遣わした預言者(1・16)であり、誕生以前から聖霊に満たされていた(1・15、44)。「神の言」への重要な言及により、ヨハネに神からの明確な啓示と方向付けがあったことがわかる。預言者として約束されたヨハネは「荒野」で成長し(1・80)、旧約預言者の召命を想起させることで、宣教を開始するよう導かれた(エレミヤ1・1～2、11・18～20、13・3、イザヤ38・4、ホセア1・1)。

3 彼はヨルダンのほとりの全地方に行つて これは、ヨハネがほぼヨルダン川流域を訪れたことのように伺える。マタイとマルコとは違って、ルカはヨハネの出現や禁欲的な生活に関して何も言っていない。罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えた ルカはヨハネのメッセージに真

つ直ぐ進んでいる。ヨハネはまさにイエス(ルカ4・18～19、44)や初代教会(使徒8・15、15・21)と同じように説教した(参照使徒10・37)。そして彼のメッセージは、本質としてイエスと初代教会が宣告した同じ「福音」であった(ルカ3・18)。「悔い改め」は字義的には心の向きを変えることを意味するが、福音に照らされて回心という経験に導かれる人間の方向性にまで広く言及している。「罪の赦し」は、最後の審判における終末的な赦しが今与えられていると言うこと。罪の赦しのための悔い改めのメッセージとは、ルカ伝、使徒行伝にある一つの中心的なテーマである(参照ルカ4・18、5・17～32、7・36～50、24・47、使徒5・31、8・22)。また常に福音提示の中心的な内容でなければならぬ。あくまで福音によって罪が赦され、その結果洗礼にあずかるのである。洗礼それ自体が自動的に罪の赦しをもたらす儀式として理解されてはならない。また洗礼はここで言及されている悔い改めから離れてあるべきではない(参照使徒2・38、13・24、19・4、22・16)。そして信仰から離れての洗礼も成り立たない(参照使徒8・12～13、16・31～33、18・8、19・4～5)。4～6 ここはイザヤ書40・3～5の引用。王が荒野を旅する時、その僕たちは王に先立つて行き、道を平にした。同様にヨハネは救い主の先駆けとなり、主の通られる道を整えることが使命。人はみな神の救を見る ルカの強調点がここにある。参考図書 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』いのちのことば社、Bock, D. L. Luke 1:1-9:50 (Baker), Morris, L. Luke (IVP), Stein, R. H. Luke (Broadman)。

聖書 ルカ3:1-6
タイトル 準備はOK?
暗唱聖句 主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ。 ルカ3:4
目標 伝道の準備をしたバプテスマのヨハネの声を聞く。

導入 (小野)

新しい学年になって2週間ぐらいたちました。新しいお友だちもできましたか? 担任の先生はどんな先生なのか? 先生も、このお友だちはどんな子かな? と思って、家庭訪問をされるでしょう? もしかして、もう終わった人もいますか、それとも、これからですよーという人もいますでしょうか。さあ、担任の先生が、お家に来られる! ちゃんと準備をしておかなくっちゃと、入って来られる玄関もきれいにし、すわってもらう椅子もちゃんと整え、廊下もふき掃除をするし、窓ガラスもピカピカに磨く。勉強部屋もいつもよりきれいに整理整頓。机の上もきちんとノートや筆入れを並べて...と、やりますよね。先生が来られるための準備です。今日は、ものすごく大切な方を迎える準備をした人のお話ですよ。来られる方は、なんとすべての人の救い主、そうイエス様です。迎える準備をしましょうと語ったのは、バプテスマのヨハネという人でした。このヨハネのお父さんはザカリヤで、アドベントのとき学びました。ヨハネはイエス様よりも6ヶ月早く生まれた人でした。お母さんはエリサベツでしたね。

主の道を備えるー私の心に

バプテスマのヨハネが叫んだ言葉は、ヨハネやイエス様よりも700年も前に、イザヤという預言者が叫んだ言葉でした。『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』とは、罪の赦しを得させる悔い改めのバプテスマのことだったのです。きよい神の子、救い主イエス様を心にお通しして、お迎えするには、心にきよい道をつくらなければなりません。きよい神様の前に見られると恥ずかしい一つ一つの罪を悔い改めて、赦していただかなければなりません。もう洗礼を受けたお友だちは、その『罪の悔い改め』のお祈りを牧師先生か、教会学校の先生にしてもらったと思います。一つ一つの罪を告白し、悔い改め、おわびし、十字架を仰ぐとき、すべての罪が赦され、心にイエス様がお入りになる道が通じるのです。今日、あなたの心はどうですか。きよいイエス様に通って入っていただくには、あまりに恥ずかしいですか? それがよく分かることがまず第一に大切なことなのです。思い出す限りの恥ずかしい罪を心に思い起こしてみましよう。そんな私の罪を赦し、きよい心にしてくださるために、イエス様が十字架の上で死んでくださいました。罪を心から悔い改めて、赦されたことを感謝し、イエス様をお迎えしましょう。

主の道を備えるーみんなの心に

バプテスマのヨハネが悔い改めを宣べ伝えたのは、『ローマの平和』が政治や権力の力で保たれていた頃でした。でもそれは本当の平和ではない、本当の平和は神様からの救い主イエス様を心に迎えてはじめて与えられる、というこのメッセージ

をヨハネは伝えたのでした。これは、ユダヤ人も、他のすべての人々にとっても一番大切なことだったからです。今も、私たちがヨハネのようにこのメッセージを叫ばなければなりません。そうしないと、たくさんの人々が滅んでいってしまいます。救われる道はただ一つ、『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』と。今私たちが生きている時代は、すでにイエス様が来られて、十字架の上で救いの道を開いてくださり、死んで復活され、天に帰っておられます。そして、『私は再び来る』と約束してくださいます。世界はますます終わりに向かって急いでいるような時代なのです。イエス様がいつ再び来られるのか、父なる神様以外に誰にも分かりませんが、もし、その日その時が来たら、もう救われる道が閉ざされてしまっています。永遠に滅びるしかないのです。主の道を備えて、すなわち、罪を悔い改めて、罪を赦され、バプテスマを受けている人々だけが永遠の救いに入られるのです。そんなとっても大切なメッセージを私たちが受けているのですから、ヨハネと同じように『主の道を備えよ』と叫びつづけたのです。小さい私たちも勇気を出して、イエス様のことを、お家の人やお友だちや先生にお話ししましょう。教会のことや、教会学校のことをお話ししましょう。あなたを通して一人でも、二人でも、三人でも本当に心に救い主を迎えて、永遠の天国にいける人が起こされることは、どんなことにもまさってうれしく大切なことです。そのようにして私たちも主の道を備えましょう。

(ホーリネスこども賛美歌 p.95)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんの心の中には、悪い悪魔、それともきよくて優しいイエス様、どちらが住んでいますか? どの人の心の中にもイエス様に住んでいただきたいと思います。でも、イエス様に住んでいただくには準備が必要です。①心の中の罪を全部イエス様に告白する②もうしないと決心する③イエス様の十字架によって罪が赦されたと信じる。準備を済ませ、イエス様に心の中に住んでいただきますよう。

ワークについて

悔い改めの門と、イエス様を信じる門を通して、天国へ入れていただきますよう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 バプテスマのヨハネが叫んだ言葉は、700年前に、預言者イザヤによって預言された言葉でした。ヨハネはそのみ言葉を信じ、罪の赦しを得させる悔い改めのバプテスマを宣べ伝えました。●質問3 私たちも罪を認めて告白し、悔い改め、ひとつひとつおわびし、十字架を仰ぎ、心からイエス様を救い主と信じる時、赦された喜びと心からの感謝が溢れてきます。イエス様を心にお迎えする準備が自分自身もできているか確認し、そして、子どもたちひとりひとりと向き合って語り合い、救いに導きましよう。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 本日のみ言葉の意味を問います。しかし、自分の力で心をきれいにすることはできないことを伝えてください。罪を悔い改めると心がきれいになるのも、神様の恵みであると示してください。

●第3問 「いいえ」と答えた人には、今必要な準備が何かを、今日学んだ内容から考えます。「罪の悔い改め」が必要な準備です。「はい」と答えた人にはどんな準備ができているか確認してください。そして、悔い改めた人には、イエス様を心にお迎えしていることを喜び、主に感謝するように勧めましよう。

ワーク D

●使徒ヨハネとバプテスマのヨハネは違う人物であることを確認します。

●2はそれぞれ人名が入ります。聖書を読んで記入すること、その時代の人々を確認します。●声として現われたバプテスマのヨハネは、言であり神であられるイエス様をあかししました。私たちもバプテスマのヨハネのように、また看板が行き先を示すように、イエス様へと矢印を向けるあかし者になれないでしょうか。

中高校へのヒント

観察してみよう

1 1-3節の記述で何が分かりますか。(いつ、どこで、誰が、何を、どうしたかが分かります。聖書は歴史の事実を記録しているのです。歴史に興味のある人は詳しく調べてみよう)

2 「預言者イザヤの言葉の書に書いてある」とはどんな意味ですか。(新約聖書は旧約時代の預言が成就した記録です)

3 預言の成就者としてのヨハネの使命は? (主の道を備える)

考えてみよう

1 ヨハネの施したバプテスマは、何のためにするのですか。(罪を悔い改めて、罪のゆるしを得るため)

2 イエス様の宣教の働きの前に出現した、バプテスマのヨハネの役割は何ですか。(神の救いに与るためには、徹底的な悔い改めが必要であることを知らせるため)

●自分に当てはめてみよう
1 自分自身の悔い改めは明確ですか。信仰があやふやな原因は悔い改めをしていないか、不徹底だからです。必要な時は牧師先生か教会学校の先生に祈ってもらいましょう。中高生は、特に性の問題、人を羨んだり、憎んだりすることに悩みます。自分の罪を告白する祈りをするのが大切です(1ヨハネ1:7、9)。悔い改めた後は、必ず罪の赦しと神の祝福に与ります。



聖書
ルカ3・7～17

序論

(鎌野)

先週は、バプテスマのヨハネが救い主イエスの道備えとして登場したことを学んだ。今週は、彼が人々に語った言葉を研究して、どういうあかしをしたかを探ってみよう。彼のあかしの中心点は「罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマ」である。それは非常に重要なことではあるが、最初の一歩だ。主イエスのなさることは、それを越えたものであることに気づかねばならない。

一、悔改めの訴え

ヨハネの最初の訴えは、「悔い改めよ、天国は近づいた」(マタイ3:1)であった。旧約預言者に連なる彼の説教に応答して、多くの群衆が△彼からバプテスマを受けようとして出てきた▽。彼らは、大なり小なり、自分たちが犯してきた罪を認めていたに違いない。しかし彼らに対してヨハネは、△まむしの子らよ▽と、厳しく語りかける。それは、人間性のうちにある罪の性質を鋭く指摘する言葉であった。過去に犯した罪を悔い改め、神の憐れみによつてその罪が赦されても、その本質が生まれ変わらない限り、人はまた同じような罪を犯してしまうのである。たとい神の選民であるユダヤ人たちが、どんなに強く△自分たちの父にはアブラハムがある▽と主張しても、罪の性質が変えられるわけではない。

古今東西、様々な宗教や道徳倫理があつたが、

二、結実の訴え

みな異口同音に「悪いことをしたら謝れ」と教えてきた。しかし何度謝っても、同じことを繰り返しているなら、何の益があるうか。悔い改めても、その後にどうなるかが問題なのだ。

だからヨハネは、「悔改めよ」と叫んだだけではなく、悔改めにふさわしい実を結べと訴えた。イスラエルの民は、しばしば実を結ばない木にたとえられてきた（イザヤ5・4、エレミヤ8・13等）。そうであつてはならない。実を結ぶとは、下着や食物を余分にもつている群衆なら持たない者に分けてやること、取税人ならへきまつているもの以上に取り立てないこと、兵士ならだまし取らずに自分の給与で満足することなどである。しかしこのようなことは、他にも幾多の宗教道徳が掲げている。だが、それを知つていてもできないでいる人々が何と多いことであらうか。

ここにヨハネの限界があつた。彼は正直に告白する。△わたしよりも力のあるかたが、おいでになる▽。このかたこそ、主イエスであつた。そして△このかたは、聖霊と火によつておまへたちにバプテスマをお授けになる▽。聖霊のバプテスマとは、主の霊の中にその人が浸されることであり、過去の罪を洗い流す水のバプテスマをはるかにしのぐ恵みである。主イエスは、これを木と枝の關係にたとえられた。「人がわたしにつながつており、またわたしがその人とつながつておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる」(ヨハネ15:5)。これはヨハネには言えないことだつた。

三、さばきの訴え

ヨハネの訴えの中には、神の厳しいさばきが含まれていることにも注目しよう。彼は、△良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる▽、また、△麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てる▽と宣告する。これが火によるバプテスマの意味することかもしれない。

悔い改めは重要だが、実を結ぶことはさらに重要である。実を結ばない人を、神は厳しくさばかれるからだ。しかしヨハネはさばきを宣告することとはできても、結実に至らせることはできなかった。それができるのは、主イエスのみである。だから主は、「わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていないよ」（ヨハネ15・4）と命じられたのだ。そればかりか、実を結ばない者へのさばきを、自らが身代わりになつて受けられた。これは、ヨハネがどんなに偉大な預言者であつても、できないことである。

結論

「女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい」(ルカ7・28)。神の国の民とは、罪を悔い改めただけではなく、主イエスに信頼してつながつている者である。だからヨハネの逮捕後、主の宣教は、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ1・15)との宣言から始まった。悔い改めだけでは福音ではない。どんな罪人でも主を信じるなら実を結ぶことができるというユニウスこそ、福音なのである。

研究資料

(足立)

ルカ3:7、14は、バプテスマのヨハネが悔い改めを呼びかけた実例を伝えている。ここには来るべき神の怒りの切迫性が強調されている。これはある意味で御国が近づいたという消極面を示している(マタイ3:2)。約束の機会が伴うことにより、その約束を拒む者にはさばきというリスクもやってくる。マタイは積極的な経験を書いているが、ルカはその危険性も伝えている。差し迫ったときが近づいていると言う宣言により、さばきが明白にされている。さばきに備える最善の方法は、ヨハネの呼びかけに悔い改めて応えることである。人は来生することが大切である。ヨハネ自身はあくまで救い主を指し示す前触れにすぎない(3:15、17)。

テキスト

7 ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出てきた群衆にむかって言った。ルカは読者に
ヨハネの教えを紹介している(参照6・20、9・23、
10・2、12・54)。まむしの子らよ、ヨハネは厳し
い隠喩(いんゆ)を用いている(参照マタイ12・34、23・33)。
蛇の毒と有害な性質は例えられる点にある。主の
到来に備えないなら、それは神に敵対するような
ものだ。ヨハネは聴衆に呼びかけている。迫っ
てきている神の怒りから、のがれられると、おま
えたちにだれが教えたのか。「怒り」に言及する
ことで、主の日にはさばきが来ると触れている(イ
ザヤ13・9、30・27、アモス5・18、20、ゼパニ

ヤ2・2 マラキ3・2、4・1、5）。ヨハネの説教は、救い主の共同体に入りその救いを経験する手段と明確に関係していた。そして彼はすべての人に悔い改めを呼びかけた。

8 だから、悔改めにふさわしい実を結べ。ヨハネは洗礼ときよい生活とは車の両輪だと強調した。すなわち誰も回心とその目的を切り離すことはできない。罪赦され義とされたことと、再生しきよめられて行くことは一つである。ヨハネは礼典主義という考え方の危険に気づいていた。それは洗礼と言う手段により救いが得られると考えることと、あるいは父祖アブラハムとの関係による特権を決めてかかることであった。しかし真の悔い改めは実を結ぶ（6・43→45）。「実」（カルポウス、複数形）は3・10→14の詳細のために使われている。自分たちの父にはアブラハムがあるなど

心の中で思つてもみるな。ここでの問題は御国にとどまることではなく、はいることである（比較、ヨハネ 8・37、39、53）。神はこの石ころからでも、アブラハムの子を起すことができるのだ。創造主なる神は、命のない石からでもアブラハムの子たちを創造できる。神は肉体的な子孫を必要としない。悔い改めを離れて、肉体的なアブラハムからの継承を主張しても何ら価値がない。

9 斧がすでに木の根もとに置かれてゐる。このイメージは明らかにさばきを意識している（参照イザヤ 10・33、34、エゼキエル 31・12、ダニエル 4・14）。しかしここは最後の審判ではなく、神の国の到来に起因するさばきへの言及である。すでに救い主の晩餐は始まつていて、そのさばきも起

こつてゐる(ルカ14・15・24)。招待客が除外され、部外者がその所に招かれてゐる。事実、後の者が先になり、先の者が後になる(13・30)。実を結ばない大きな木は、その最後の時を過ごしてゐる(13・6・9)。悔い改めがないなら、切り倒されてしまふ(13・9)。参照ローマ11・17以下。

10 こ以下節には、眞の悔い改めに伴う実の
 実例を見ることが出来る。ヨハネは聴衆に彼の荒
 野の生活スタイルに従うことを求めてはいない。
 むしろ神の国を待ち望む者の生活は、この世での
 生き方にある。それでは、わたしたちは何をすれ
 ばよいのですか この問いは、個人が自らの業に
 より神との関係を築くことを提言しているのでは
 ない。むしろヨハネの聖なるメッセージへの適切
 かつ具体的な応答の表れである（参照ルカ3：12、
 14、10：25、使徒2：37、22：10）。

11 下着を二枚もっている者は、三バネの答へに強烈なほど実際的である。信仰者は持てる物を持たない人々と分かち合うよう勧めている。下着(キートン)は、基本的に長い上着の下に着けた短い下着、あるいは実際の上着(ヒマティオン)であった。いくつかの箇所はその区別を示している(ルカ6:29、マタイ5:40)。両方とも普通に身につけられたが、必ずしも必要ではなかった(マルコ6:9、ルカ9:3)。悔い改めて信仰に生きる者は、貧者や不幸な境遇にある人々に対して関心を持つに至る(6:30、12:33、14:12、14:16、9:18、22)。

参考図書 Bock,D.L.,Luke:1-9:50(Baker).
Morris,L.,Luke (IVP).
Stein,R.H.,Luke (Broadman).

聖書 ルカ3・7-17
タイトル イエスの紹介

暗唱聖句 このかたは、聖霊と火とによって
おまえたちにバプテスマをお授け
になるであろう。 ルカ3・16

目標 ヨハネのように私たちもキリスト
を紹介しよう。

導入

(水野)

新学期が始まって1ヶ月がたちました。お友だちたくさんできましたか？どんなお友だちなのかお友だちのこと紹介してもらえませんか？紹介つてね、お友だちの名前とか、住んでいる所や得意なこと、好きなことやお友だちの性格などを、他の人にわかるように話すことです。

先週学んだヨハネさんは、イエス様のことを紹介する大切な働きをしました。ヨハネさんはイエス様をどのように紹介したでしょう。

イエス様って？

その頃の人たちは、ヨハネさんがイスラエルを救う神様から遣わされた救い主、メシヤだと思って、期待していました。しかし、ヨハネさんは、自分はメシヤではないとはっきり伝えました。

ある日イエス様が通られたとき、ヨハネさんは「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と紹介しました。イエス様は神様から遣わされて、私たちを罪から救い出すまことのメシヤなのです。

イエス様の働き

ヨハネさんは毎日のように、人々の心の中にあるきたない恐ろしい罪、神様を知っていないながら、神様を悲しませるようなことばかりしてしまふ罪を、悔改めるように勧めました。ときにはユダヤ人に「おまえたちはまわしの子たちだ」と毒で人を殺す毒蛇にたとえて、その罪を指摘し、神様の裁きがかくたることを警告していました。ヨハネさんのメッセージを聞いて、人々はごくごくバプテスマを受けて罪を洗い流していただき、罪の赦しを受けました。しかしそれ以上に、持っているものを分け与えること、税金取りは決められた分だけを集めること、兵士は人をおどかしたり、だましたりしないで自分の給料で満足することなど具体的な悔改めにふさわしい実を結ぶように勧めたのです。この実を結ばせてくださったのがイエス様です。ぶどうの枝は、しっかりと幹から栄養分をもらって、実を結ぶことができます。イエス様はぶどうの木にたとえられています。私たちはその枝です。イエス様が授けてくださった聖霊のバプテスマは、罪を赦していただくだけでなく、イエス様と一つにされ、聖霊に満たされて、聖霊による実を結ぶようにしてくださるのです。

例話

竹脇真理君は頭に悪性の腫瘍がで、それが全身にまわって、ひどい痛みと戦いながら、同じ病室の人や見舞いに来る友だちに、イエス様の話をしてイエス様を紹介しました。死を少しも恐れないうで、近くにいる人にいつでもイエス様を紹介し続けました。真理君は最後まで「伝道できなくな

るのが残念だ」と言って、短くても主を証しすることに使命をもって、勇ましく高尚な生涯を歩んだのです。

水野源三さんは赤痢の高熱で、脳が冒され、体も不自由になり、話すこともできません。聞くことを見ることはでき、まばたきだけで気持ちを伝えました。イエス様と出会ってから、詩でイエス様のすばらしさを紹介しました。また、ほほえむこととありがとうを表しました。朝から何度もほほえんで感謝を表しました。

まとめ

ヨハネさんを通して多くの人がイエス様のすばらしさ、イエス様の働きを知りました。私たちはイエス様をどのように紹介できるでしょう。

「イエス様はね、私たちの罪のために十字架にかかって死んだけど、よみがえって、今も生きていて、いつもいつしよにいてくれる方だよ」などいろいろ紹介できます。いつでもどこでも紹介できるように、準備しておきましょう。

私たちは言葉で伝えるだけでなく、私たちの生活を通して、イエス様につながって、イエス様の実が結ばれることによって、イエス様が現されるのです。お友だちや周りの人を愛して大切に思う心や、あまり得意でないことや好きでないことをするときに、文句を言わないでニコニコしながらすること、仲良くする心、赦す心、優しい心、我慢する心などを見てもらうことによってイエス様を証しすることもできます。私たちもすばらしいイエス様を紹介しましょう。

♪すばらしい神様♪ (ブレイズ・ワールド23)

ワーク A

話し方のヒント

イエス様がすばらしい働きをされる前に、バプテスマのヨハネという人がいました。人々はこのヨハネが救い主だと思っていましたが、そうではなく、イエス様が本当の救い主でした。ヨハネは、罪を赦して天国に入れてくださる本当の救い主であるイエス様の事を、多くの人々に一生懸命伝えました。皆さんもヨハネのように、たくさんのお友だちにイエス様を伝えましょう。

ワークについて

人と出会うたびに「イエス様は救い主です」と語り、多くの人に伝えて天国に入りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 ヨハネはイエス様を「世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ1:29)であり、神様から遣わされたメシヤであると紹介しました。また、罪を悔い改めることもしないユダヤ人を「まわし」のようだと言ひ、罪を指摘し、神様の裁きがあることを警告しました。

●質問3 私たちもヨハネのようにイエス様のことを紹介したいものです。イエス様につながっているなら、言葉だけでなく、生活を通してイエス様の愛を証しすることができます。

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 文字を入れて完成させます。「力」「聖霊」「火」「バプテスマ」「倉に納め」「消えない火で焼き捨て」「神の小羊」「先」「神の子」

●第4問 ルカ3・10-14には、人に分け与えること、税金を決まった金額以上に取らないこと、人を脅さないこと、だまし取らないこと、自分の給料で満足して暮らすべきことが書かれています。これら子どもたちの生活に適用して考えましょう。一つの適用で良いですから、具体的に考えるよう導きます。

ワーク D

●神様から与えられている体の肢体に目を向けて、これらはイエス様を紹介する時に用いられる部分であることを確認します。

●2の②では子どもたちが考えられることを話してもらいます。立派な人格、優秀な能力、…を持つ人物を見ると、私たちは民衆のようにその人物を偶像視しやすいものです。私たちは自分に関心を持つてもらうのではなく、イエス様を示す看板として正確に矢印をイエス様へと向けたいものです。

中高科へのヒント

●観察してみよう

- 1 「まわしの子らよ」は言い過ぎ、失礼な言葉と 생각합니다。(人間の罪の本質)
- 2 「自分たちの父にはアブラハムがあるなどと心の中で思ってもみるな」とはどんな意味ですか？(血統的にはアブラハムの子孫だが、実質的には信仰が失われている状態。外側だけのクリスチャン)
- 3 バプテスマのヨハネは誰を紹介しましたか。(イエス様 聖霊と火とによってバプテスマを授けるお方)

●考えてみよう

- 1 ヨハネは厳しく罪を糾弾しました。神様から罪を厳しく指摘されたことはあるでしょうか。
- 2 ヨハネが主イエス様を紹介した理由は？(聖霊のバプテスマを受けるため。イエス様とつながり、イエス様の命によって生かされるため。(ヨハネ15:5))
- 自分に当てはめてみよう
- 1 この当時のイスラエルの民のように、形だけの信仰生活になっていないでしょうか。
- 2 ヨハネは悔い改めの祈りと共に、悔い改めの実を結ぶことを命じました。たとえば謝罪、返していない物やお金を返す、行動を改めるなど。神様に示されたことは具体的に実行しましょう。
- 3 たとえ一人でもいいから、バプテスマのヨハネのように、救い主イエス様のことを紹介できるように、祈りましょう。



聖書 出エジプト20・1～17
テーマ 父と母を敬う
(母の日)

序論

(金井)

母の日は、1905年に米国東海岸ウエプスターで開かれたジャービス夫人の追悼記念会で、娘のアンナが列席者にカーネーションを配ったことから始まった。ジャービス夫人は26年間も教会学校教師を務めた敬虔な人であり、この花を愛していた。現代は心病める時代であり、特に家庭が本来あるべき姿を失っていることに大きな問題がある。幸せな親子関係を築く道を聖書から学びたい。

一、神の律法に従う民

旧約聖書の最初の五書を「律法(トーラー)」という。「トーラー」という語の原意は「導き」、「教え」である。律法には①倫理道德②法律③祭儀など、人間の営み全般にわたる幅広い内容がある。律法は創造主なる神が人類にお与えになった絶対的な基準である。この点が世界に数多くある倫理道德の教えと律法の決定的な違いである。私たち人間は主(ヤハウェ)によって造られたものであるから、創造主の定めたルールやマニュアルに従ってこそ、良い生き方ができる。聖書は神の律法に従うことを「義」といい、従わないことを「罪」という(ロマ2・13、Iヨハネ3・4)。

出エジプト記20章に記されている「十戒」は律法の中心である。十戒は「わたしはあなたの神、主であつて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である」という序文から始まる。

主は「アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を覚え」て(2・24)、その子孫であるイスラエルの民をエジプトの奴隷状態から解放された。主はこの民を特別に選んで聖別し、「祭司の国」(19・6)として用いて、人類を救済しようとなされた。神の民は選ばれ、贖われた恵みのゆえに神を愛し、律法に従い、神の栄光を表して生きるのである。

二、神の律法を教える親

十戒は前半の4つが対神関係についての戒めであり、後半の6つが人間関係についての戒めである。神に対する畏れと愛があればこそ、人の歩みは正され、人間関係も良好に保つことができる。

古代イスラエルでは「三、四代」がまとまって居住する大家族が一般的であった。各家庭では、家長である父親または祖父が子どもに言葉を教え、律法を教えて、み言葉を暗唱させていた(申命記6・2、7)。箴言には「主を恐れることは知識のはじめである……わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない」とある(箴言1・7～8)。神から委ねられた権威と責任をもって律法を教える両親や祖父母に、子どもは尊敬を抱き、その教えに従うようになる。

2枚の石板に書かれた十戒が与えられたのは、紀元前15世紀(前13世紀という説もある)と遙か昔のことであるが(31・18、32・15～16、34・1、28)、律法は新約のイスラエルとして選ばれた私たちキリスト者教会にとっても重要な規範である(1ペテロ2・9、マタイ5・17～18)。

三、父と母を敬う子ども

「あなたの父と母を敬え」という戒めは、人間関係の戒律の最初にある。親子関係は特別に重要である。「敬う」という原語の意味は「重んじる」である。最近では父親の存在感が軽い家庭が多い。尊敬しづらい、問題のある親もいるだろう。しかし、神の戒めに従って父母を大切にする者には、必ず祝福がある。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。

「自分の父または母を撃つ者は、必ず殺されなければならない」、「自分の父または母をのろう者は、必ず殺されなければならない」という規定も律法にはある(21・15、17)。新約聖書でも、「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであつて、不信者以上にわるい」と教えられている(1テモテ5・8)。

結論

信仰は教えと実践が車の両輪のように連動してこそ本物である。親があやしげな信仰生活をしていては、子どもに信仰の継承はできない。親たる者はまず自分自身が聖書の教えに忠実でありたい。そして、教会だけでなく家庭でも子どもに聖書教育を行いたい。現代人は多忙であるが、工夫をこらして、毎日少しずつでもみ言葉に触れることが大切である。これが、難しい思春期を越えて子どもが信仰を守り通す力となり、幸せな家庭が築かれる基となる。長寿の時代であるが、年輩いた父母にも感謝と尊敬をもって接し、大切にしよう。

研究資料

(石田)

今日の箇所は、いわゆる「十戒」である(新改訳では「十のことば」で、この方が原語の意味どおりである)。この言葉自体は出エジプト34・28、申命記4・13、10・4に出てくる。その内容は今日の箇所と共に、申命記5・1～21にも記されている。新約聖書では十戒のことが「いましめ」と呼ばれている(マタイ19・17、エペソ6・2)。十戒を始めとする律法は、それを守ることにによって「さいわいを得」あなたに賜る地において長く命を保つことができる(申命記4・40)と約束されているので、十戒は神に祝福されるための十の条件と言える。十戒は神によってモーセをととしてイスラエルの民に与えられたもので、旧約聖書の律法の核心であり、神の民に対する神の契約の基礎である。さらに新約聖書、特に山上の説教で主イエスによって深められ、広げられた言葉でもある。従って現代のクリスチャンにも当然拘束力を持つているし、聖霊により頼みながらこれを守るならば、祝福される。

今日の中心聖句は十戒の中での第5戒である。これは、対神関係を扱う第1戒から第4戒と、対人関係を扱う第6戒から第10戒との間に位置しており、その橋渡しをしている。神に対しては畏敬、人に対しては尊敬という二つの基本原則が示されているが、第5戒は対人関係の一番目に置かれている。それは親子関係が人間の最初に持つものであり、親が養育期間の子どもに対して神の権威を代表する立場にあるからであると考えられる。

テキスト

12 あなたの父と母を敬え 「敬う」の原語カッベードーは、もともと「重い、重んじる」という意味がある。人を敬うとは、その人を重く見ることである。またこれには「おそれる」という意味もある(レビ記19・3)。神は子どもをこの世に送り出すためにその両親を用いられた。その意味において、両親にとつて子が神からの賜物であるのと同様に、子にとつても両親は神からの賜物である。それゆえに両親はその性格と行状いかに関わらず、敬われなければならないわけである。

あなたが長く生きるためである 十戒の中で、第2戒とともに、祝福の約束が伴っている(エペソ6・3)。申命記4・40では、律法のすべてに長く生きるという祝福が約束されている。実際問題としても、親の言葉によく従う子どもは、そうでない子どもに比べてより危険を避け、概して賢明な選択をし、心配はより少なく、その結果、長く生きる可能性が高いと言える。また親に従うことを身に着けた子どもは、神に従うことを身に着けやすい(箴言22・6)。だからこのみ言葉は、単なる長生きを約束しているだけではなく、永遠の命を持つことを約束していると言える。父母を敬うこと、また親がそのように導くことは、子どもの信仰の継承に不可欠の要素である。単なる親孝行の勧めではない。

十戒が源泉となつて旧約の律法が展開されているが、この第5戒も旧約の律法の中に流れている。出エジプト21・15、17、レビ20・9、申命記21・18～21では、自分の父母をのろい、虐待する者、

あるいは親の言葉にどこまでも従わない者は死刑と定められている。箴言19・26、20・20では、父母の面倒を見ず、ないがしろにする者の末路が災いであると警告されている。

ではこのみ言葉は、新約ではどのような反映されているだろうか。主イエスは明らかに両親を敬い、彼らにお仕えになった(ルカ2・51)。十字架の苦しみの中でも母マリヤへの配慮を忘れなさらなかった(ヨハネ19・26、27)。パリサイ人や律法学者たちが、このみ言葉を利己的な目的から骨抜きにしていることをお責めになった(マタイ15・4～6、マルコ7・10、ルカ18・20)。パウロ書簡では「主にあって両親に従うべきことが記されている(エペソ6・1、2)。

父と母を敬えというみ言葉は、子どもが親を重んじて、従うように命じているわけだが、そこから派生して、そのような子どもに育て導く責任はその親にあることも聖書は明記している。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない」(箴言22・6)などは、その代表的なみ言葉である。

これまで見てきたように、養育期間にある子どもは親を敬い、その指導に従わなければならない。しかし、いったん結婚するならば、「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となる」(創世記2・24)わけだから、第一にすべき人間関係は親から夫(妻)に変えなければならない。配偶者を二の次にし、親子関係を夫婦関係に優先させてはならないわけである。それでも今日のみ言葉どおり、親への尊敬や交わり、援助などは保たれるべきである。

聖書 出エジプト記20：1～17
タイトル お母さんありがとう
暗唱聖句 あなたの父と母を敬え。
目 標 母の日の由来を知り、大切な一日とする。

導入

今日は母の日です。どうして母の日ができたか知っていますか？ 母の日はアメリカの教会で誕生したすばらしい日です。母の日の意味を知って心からお母さんに感謝しましょう。

母の日ってね

母の日は、アメリカの東海岸、ウエスト・バージニア州のウエブスターという町にあるメソジスト教会ではじまりました。1905年5月第二日曜日に、26年間も教会学校の先生をしていたジャービスさんの娘のアンナさんが、亡くなったお母さんを偲んで記念会を開いたのです。その時、庭で作った、お母さんが好きなカーネーションの花を飾り、記念会が終わってから、出席してくださった一人一人にこの花を贈りました。この心優しいあたたかいお母さんへの思いが、大きな感動を与えて、さつき教会で5月第二日曜日を母の日と決めたのです。アンナさんは小さいときからお母さんが教会学校で話す聖書のお話を聞いていました。ある日曜日の礼拝で、モーセの十戒から「あなたの父と母を敬いなさい」というみ言葉で、「あなたがたもお父さんお母さんに感謝する方法を考えてくださいね」

とお母さんが勧めたことが、小さいアンナの心に響きました。そこでお母さんの勧めを思い出し、お母さんに感謝する方法を考えて実行したので。このことを「パート王と呼ばれたワナメーカーさんがアメリカ全土に広めました。1914年にはウィルソン大統領が議会にはかり、5月第二日曜日を「母の日」という国の祝日に決めたのです。日本では、クリスチャンである森永製菓の創始者森永太一郎さんが、この美しい催しを普及させたいと願い、広め、今では全国で母の日が行われるようになりました。

母の日の心

アンナさんは、モーセの十戒から神様が、父と母を敬うように命じられていることをお母さんから教えられ、お母さんのことを覚え、お母さんが喜ばれることを計画しました。私たちは母の日をどんな心で迎えていますか？ 母の日はカーネーションを贈ればいい日だと思っていないですか？ 本当の意味を考えないで、毎年の行事のように思っているなら悲しいですね。

母の日は、神様が与えてくださったお母さんを尊敬し、愛し、感謝する日です。母の日や父の日だけでなく、神様は私たちの生活において、まず初めに守るべき大切なこととして、毎日、父母を敬いなさいと命じられたのです。お父さんお母さんを敬う心、感謝する心が母の日の心です。

毎日が母の日

神様の律法は1年に一度守ればよいものではありません。5月第二日曜日だけお母さんに感謝して後は文句ばかり言うとしたら、律法違反です。律

法違反は罪ですよ。お父さんお母さんにわがままや汚い言葉を言ったり、無視したりすることは神様に喜ばれないことです。お父さんお母さんは、神様から子どもを預かり、育てる責任があるのです。その責任はとても重く、大切な使命なのです。私たちは特別な日だけでなく、毎日、お父さんお母さんのために祈り、感謝しましょう。

例話

9歳と7歳の二人の子どもを持つお母さんが、乳癌になりました。お母さんは病氣と戦いながら2人の息子に絵本を書いて残しました。だんだん病氣が重くなってきたとき、最後の力を振り絞って、子どもたちが16歳になるまでの誕生日に毎年開くように手紙を書きました。それぞれの年齢にあわせて、そのとき困らないように教えるべきことを残しました。やがて死を迎える日、2人の息子はお母さんの手を握り、お母さんの呼吸数を数えながら、その数がだんだん少なくなっていく中で、「お母さん9年間ありがとう」「お母さん7年間ありがとう」と耳元で、大きな声で感謝しました。この2人の息子には今もお母さんが生き続けることでしよう。

私たちは毎日、お母さんに感謝しましょう。お父さんやお母さんを尊敬できないようなときもあります。そのときは祈りしましょう。神様が責任を持ってお父さんお母さんを導いてくださいます。お父さんお母さんに素直に従うことが、神様に従うことになるのです。今日から毎日、母の日の心で歩みましょう。
(ゴスペルフォーク67)

ワーク A

話し方のヒント

今日は母の日です。母の日はお母さんにプレゼントをあげる日でしょうか？ 違いますね。「ありがとう」と伝える日です。神様が皆さんにお母さんを与えてくださって、お母さんがお世話をしてくださるから、皆さんが元気に大きくなれるのです。このお母さんにわがままを言うのではなく、「ありがとう」の気持ちでお母さんの言うことを素直に聞いて、今日だけでなく毎日を過ごしましょう。

ワークについて

カードをつくり、おりたたんで封筒に入れて、プレゼントと一緒ににお母さんに渡ししましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 1905年5月の第二日曜日、アメリカのウエスト・バージニア州にあるウエブスターのメソジスト教会のこと。教会学校の先生をしていた母親の記念会で、娘アンナは母の大好きなカーネーションを飾り、出席した人々にもその花を贈りました。これが母の日はじまりです。

●質問3 アンナは生活を通して、教会学校の先生をしていた母親から学んだみ言葉を実践していました。私たちもお母さんを大切に、感謝をあらわし、生活を通して、み言葉を実践しましょう。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 「うやまう」ことの内容を考えます。
●第3問 好きなところ、嫌いなところ、尊敬するところ、がんばっているところ、好きな食べ物、あなたのために何をしてくれるか(くれたか)、などのポイントに掲げると話しやすいかもしれません。意外とお母さんのことを知っていたり、逆に知らなかったところを話して次につなげます。

●第4問 「うやまえない」という子どももいるかもしれません。その理由はさまざまでしょう。もしもそれを話してくれたら聞いてください。また、立場を変えてみて、自分が親になったらどんな親になりたいか、さらに子どもにはどんな子どもであってほしいかなどを話し合い考えてみましょう。そして、親のためにお祈りするように導いてください。

ワーク D

●日頃から両親を尊敬し、感謝をしていますが、それを表わすことはなかなかありません。母の日はそのことを表わす良い日だと思います。

●母親はどんな小さなことでも子どもからの感謝の表われには感動します。子どもたちがどんな方法で感謝を表わすことができるか、考える時間を持ちましょう。また感謝を数えるとキリがないのではないのでしょうか？ それらを書いてみます。

●母親に恵まれない子どももいます。特別な配慮(さりげなく)を持ちましょう。その子の表情に目を止めましょう。個人的に気持ちを聞いてあげてもよいでしょう。アドバイスをする必要はありません。気持ちを受け止めるだけで十分です。

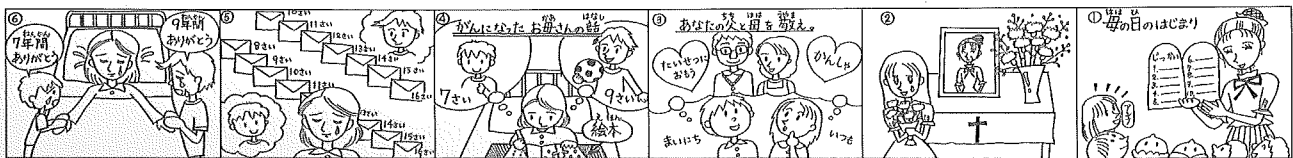
中高校へのヒント

観察してみよう

1 十戒の前半は神様と人間との関係(1～4)
2 十戒の後半は人間と人間との関係(5～10)
3 真ん中の5番目に「あなたの父と母を敬え」が入ります。イスラエルでは、両親が神の言葉を子どもたちに伝える責任がありました(申命記6・6～8)。

考えてみよう

1 両親を敬う理由は？(自分を生んでくれたから、育ててくれたから、人生の先輩だから、...)。それもありますが、神様が両親を与えてくださり、「敬え」と命じておられるからです。軽んじたり、軽蔑したら神の祝福がありません。
●自分に当てはめてみよう
1 今日、両親に素直に感謝を表してみよう。
2 ご両親がおられない人もいます。しかし、神様が真の親となつて導いてくださいます(ヘブル12・7～11)。
3 両親との関係がうまくいかなかったり、悩んだりすることもあると思います。自分で解決できない時は、主に祈ると共に、牧師先生や教会学校の先生に相談してみてもどうでしょうか。自分一人で背負ってしまわないことです。
4 日本全体から見るとクリスチャン・ホームは稀です。その恵みを感謝し、将来自分自身も、クリスチャン・ホームを築くことを今から祈りましょう。



聖書 イザヤ6・1～8

テーマ イザヤの準備

(ペンテコステ)

序論

(金井)

神の事業は神の言葉と神の霊、そして神の人が備わって初めて進んで行く。二千年前のペンテコステにこれらが備えられて教会は誕生し、宣教が始まった。この原則は今も変わらない。神は宣教のためにすべての必要を備えられる。問題は神に用いられる人の備えである。イザヤの召命の記事を通して、私たち自身の召命を再確認したい。

一、神を見る人

イザヤは南王国ユダにおいて、ウジヤ(アザリヤ)、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤと続く4代の治世下で半世紀にわたって活動した預言者である(1・1)。イザヤ書1～5章がイザヤの初期の預言であるとすれば、彼が最初に預言者として召命を受けたのは紀元前740年代であろう。

ウジヤ王は若い頃には「神を求めることに努めた」(歴代下26・5)が、「強くなるに及んで、その心に高ぶり」(同26・16)、祭司ではないのに「主の宮にはいつて香の祭壇の上に香をたこうとし」(同)に主に撃たれ、重い皮膚病にかかった。

△ウジヤ王の死んだ年▽、前740年頃にイザヤは△主が高くあげられたみくらに座し、その衣のすそが神殿に満ちているのを見た▽。これは天上の光景であり、神からの啓示である。イザヤは神ご自身を肉眼で見たのではなく、幻のうちに栄光の輝きに接したのである(1・17参照)。

二、神にきよめられる人

△その上にセラピムが立ち、おのおの六つの翼をもっていた。その二つをもつて顔をおおい、二つをもつて足をおおい、二つをもつて飛びかへり、互に呼びかわして言った。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満ち」▽。△聖なる(カードーシユ)▽という語は本書で36回使用されるキーワードである。原意は「分ける」であるが、33回は神に関係している。主(ヤハウェ)は他の一切のものから隔絶した唯一の神である。「聖」こそ神の本質なのである。

聖なる神の栄光の輝きは、人間にとつて恐ろしいものである。神の光は人間の真相を明らかにする。イザヤは言う、△わがわいのかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから▽。

ユダの人々は偶像を崇拜し、占いやまじないを行い、殺人、盗み、搾取、わいろ、姦淫、泥酔など、あらゆる罪に染まりながら、習慣的に主への礼拝を続けていた。彼らは主をあなどっている。イザヤはこれまで民の罪を責める預言をしてきた(1～5章)。だが、今やイザヤは自分自身が「滅んでいく」(直訳)ことを自覚するのである。

△この時セラピムのひとりが火ばしをもつて、祭壇の上から取った燃えている炭を手へに携え、わたしのところに飛んできて、わたしの口に触れて言った、「見よ、これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるされた」▽。新約の光に照らせば、祭壇はキリスト

の十字架、燃える炭は聖霊の火を象徴する。人を赦し、きよめるのは、神の恵みのみである！

三、神に遣わされる人

神は恵みへの応答をイザヤに求められた。△わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか。その時わたしは言った、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」▽。イザヤという名の意味は「主の救い」である。主は滅び行く人々を救うために、天使ではなく、人間を選んでお遣わしになる。福音の恵みは人から人へと体験的に伝えられるものだからである。イザヤに託された預言活動は大変困難な任務であった。彼が繰り返し語っても民は悟らず、悔い改めない(6・9～10)。それでも忍耐強く続けられるのは、主の愛が強く迫っているからである。

結論

救いは信仰による。信仰は聞くことによる。聞くことは宣教による。宣教は派遣によるのである(ロマ10・14～17)。主は派遣すべき人を切望しておられる。だが、強制はなさらない。義務的にではなく、恵みを感じて愛のゆえに、自発的に喜んで身を献げる人を主は喜ばれる。主は今も問いかけておられる、△わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか▽。あなたは神の光の中へ進み行くだろうか？ 神は血潮と御霊であなただを赦し、きよめてくださる。△わたしをおつかわしてください▽と主にお応えしよう。

研究資料

(石田)

今日の箇所は、いわゆる「イザヤの召命」と言われるところで、イザヤが預言者として神に召し出されたときの体験が記されている。彼は神の栄光を見、神の言葉を聞くことによって、召命を確信し、預言者という厳しい働きに自分をささげている。神と出会ったという鮮やかな神体験こそ、預言者イザヤの原点である。これがなければ、9～13節にある△心をかたくなにするメッセーシ▽を40年余りにわたって語り続けることは決してできなかったであろう。思うとおりの働きが進まなくても、「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕える」ためには、確かな召命を必要とする。

テキスト

1 ウジヤ王の死んだ年 エレミヤやエゼキエルと同じく、イザヤも自分の召し出されたときを特定している。ユダ王国のウジヤ王が死んだ年は、紀元前739年か740年であることがわかっていて、この国家的事件に当たり、不信仰と不道徳に傾きつつあった民の行く末を案じて祈るために神殿に入った。わたしは主が高くあげられたみくらに座しているのを見た イザヤが見たものは、衣のすそだけではなく、主なる神であった。しかし神ご自身を見たというのではなく、あくまでもその栄光であった。5節では「万軍の主なる王を見た」とも言っている。ヨハネ福音書ではイザヤはこのとき「イエスの栄光を見た」のだと証言されている(ヨハネ12・41)。衣のすそという表現からして

も、かたちを持つて現れた神を暗示している。

2 その上にセラピムが立ち… セラピム(セラフの複数形)は、神を賛美し、その栄光を示すことを専門とする天使で、神の一番近くに仕えていた。その彼らも神の前には翼によって顔と足をおおい隠さなくてはならない。これは神への畏敬と謙遜を表している。聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな ヘブル語でカードーシユ、「聖を意味するコーデシユを基本語としている。その第一義は「分離する、切り離す」である。神はいっさいの被造物に超越している絶対者であるという神の根本的な性質を表している。また3回繰り返し返されていることは、セラピムがこのように永続的に賛美し続けること、神の圧倒的な聖を畏れ敬うべきことを表している。

5 わたしは滅びるばかりだ 原意は、滅ぼされそうだというのではなく、完了形で「もう滅ぼされている、断絶されている、切り捨てられている」(15・1、エレミヤ47・5、ホセア4・6、オバデヤ5)。神の聖がそのまま人間に現れたら、その前に立つことのできる人はいない。他人と比べて自分を義としたとしても、絶対者の前で自分を義とすることはできない(1コリント4・4)。彼は、神の圧倒的な聖の前に自分の罪深さを見せられ、自我の死という滅びを体験した。イザヤは預言者として立つにあたって、このように神にさばかれ済みの者とならなければならなかった。わたしは汚れたくちびるの者 イザヤとしては、神の前には自分の全身全霊が汚れきっていると意識していたと思われるが、中でも唇、つまり言葉において罪深い者であることを

強く感じたに違いない。そんな自分がこともあろうに神の栄光を見てしまった、預言者として御用するところではない、もうおしまいだと覚悟した。

6 祭壇の上から取った燃えている炭 燔祭の祭壇、あるいは香をたく祭壇に燃えさかっている炭(いけにえあるいは香料の炭)だから聖なるものである。火は汚れたものを焼き尽くして聖とする神のみわざを象徴している(民数記31・22、マラキ3・2、マタイ3・11)。

7 わたしの口に触れ、…これがあなたのくちびるに触れた イザヤは自分が汚れたくちびるの者であると深い認罪を持ったので、祭壇の炭によってそのくちびるに代表された彼自身がきよめられ、神の前に立つことができ、預言者としてふさわしく整えられた。あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるされた 自分自身を義とするのではなく、セラピムを通して神が義を宣告している。イザヤの深い認罪に対して、神の赦しは徹底的で罪を二度と蒸し返さないものであった。

8 主の言われる声を聞いた 今度はセラピムではなく、神ご自身の声が聞こえてきた。イザヤはまず主を見、主に触れられ、主の声を聞いた。召命に応える準備は整った。だれがわれわれのために行くだろうか 神は、強いられてではなく、恵みを感じて自ら応答する者を求めておられる。ここにわたしがおります(ヒンネー) 原意は「わたしを見てください」。わたしをおつかわしてください(Send me) これは罪を赦され、きよめられた者の健全で、当然の応答である。これによって神の召命とイザヤの献身が合致した。

聖書 イザヤ書6:1-8
タイトル 神様からのエネルギー
暗唱聖句 ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください。
イザヤ書6:8
目標 イザヤを伝道のために備えられた神のみわざを見る。

導入

(水野)

春の運動会とか遠足がありますか？運動会はいろいろな準備が必要です。とくに準備運動をして足や腰をほぐしたり、筋力をつけなければ、けがをしたり疲れがでたりします。学校の先生や幼稚園、保育園の先生は準備に忙しいですね。
神様は、私たちに神様の仕事をしてほしいと願っておられます。神様の仕事をお手伝いしたいですね。どんな準備が必要でしょう。

イザヤさんの場合

イエス様が生まれる700年前に、イエス様のことを預言したイザヤさんは、神様の言葉を伝える預言者となるために、すばらしい神様ののみわざを見せていただきました。

ウジヤ王様の死んだ年のことです。ある日、イザヤさんが神殿に行くと、びっくりするような光景を見ました。高い王座に神様があられて、その衣の裾が神殿に満ち、神様の栄光が満ちあふれていました。神殿のみ使いで、六つの翼を持つセラピムが、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満ち」と、互いに賛

美しているのを見ました。この大合唱によって神殿全体が揺れ動き、聖所は神様の清さで覆われました。そのとき、イザヤさんは「わざわいなかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」と顔を伏せて恐ろしさのあまり震えていました。そこへあのセラピムが祭壇の上から燃える炭を火ばしで取って、イザヤさんのくちびるに触れたのです。それによってイザヤさんの罪を神様がきよめてくださいました。今までイザヤさんはユダヤの人々の罪を厳しく責めてきました。人間のつくった神を拝み、占いやまじない、盗みや殺人、神様が怒られる罪を犯している民を責め続けてきました。しかし神殿の神様の清さにふれ、自分こそきよめていただかなければならないものだと自覚し、悔い改めました。神様のすばらしいみわざを見て、神様が「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」という声を聞いたとき、イザヤさんの心に迫るものがあった。神様から背中を押されるようにして「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」と真心からお応えして、そのときから長い年月、神様のみ言葉を伝える預言者として活躍しました。

イエス様のお弟子さんたちの場合

イエス様のお弟子さんたちはどうだったでしょう？イエス様が十字架にかかれる前の日に、「だれが一番偉いか」とお互いに張り合っていました。イエス様が一番辛いゲッセマネにおいては、眠り込んでしまい、イエス様が捕らえられるとクモの

子を散らすように逃げてしまい、裁判にかけられたときは、イエス様を知らないと言ったり、イエス様がよみがえられたことを疑ったり、ユダヤ人やローマ兵に捕らえられるのではないかと恐れたり、とても弱くて頼りないお弟子さんたちでした。しかし、そんなお弟子さんたちにイエス様は「わたしの父が約束されたものを贈る。だから上から力を授けられるまで都にとどまっていなさい」と言われました。お弟子さんたちはイエス様が昇天されてから、心を合わせ一つになってひたすら祈りました。五旬節の日いつものように祈っていたとき、約束の聖霊が降ったのです。突然に激しい風が吹いてきたような音が天から起こり、舌のようなものが炎のように分かれてお弟子さんたち一人一人のところにどまりました。あの弱虫のお弟子さんたちに力が授けられました。もう恐れることなく、大胆にイエス様が十字架にかかれたこととよみがえられたこと、こうして約束の聖霊が降って、福音を伝える者にされたことを証しました。それからのお弟子さんたちは迫害も恐れず、全世界に出て行ってすべての造られた者に福音を宣べ伝えました。

まとめ

今日は、ペンテコステの礼拝です。神様は私たちをこの聖霊なる神様によってきよめてくださり、力を与えてくださいます。神様からのエネルギーが与えられて、お友だちやお家の人、世界の人々にイエス様を伝え、神様に用いていただきたいと思います。

♪用いたまえわが主♪
(ゴスペル・ミュージック80)

ワーク A

話し方のヒント

今日はペンテコステの日です。この日神様からのすばらしい力が弟子たちに与えられ、今まで弱虫で怖がっていた弟子たちは、どんな所でも、どんな人にもイエス様を伝える人に変えられました。皆さんはお友だちにイエス様の事を伝えたことがありますか？「恥ずかしいな」「上手に話せない」という弱い心も、神様からの特別な力が強くしてくださるなら、イエス様を伝えることができます。

ワークについて

カードを開けながら、「わたしをおつかわしてください」と元気に叫びましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イザヤは神様を見た時、自分の罪深い真相も見ました。神様が分かる時、自分の姿も見えてきます。そして神様に取り扱われ、壇の火によって罪がきよめられました。私たちもキリストの十字架(壇)と聖霊(火)によってきよめられます。

●質問3 神様のための働きは、自分の意欲や力ではできません。神の恵みにあずかった者が、その応答として献身に進んでいきます。そして聖霊によって力を受け、キリストの証人となることができます(使徒1:8)。

ワーク C

●まず、神様の召命の言葉を読んでから、イザヤの応答の言葉を書き入れてください。

●第2問 神様のことを信じて救われる人が起こされるように、神様の言葉を宣べ伝えるためです。「そんなすごいことできない」と思うかもしれませんが。しかし、私たちにもできる伝道方法があるはずですよ。

●第3問 5〜7節を読めば、罪の自覚とその赦しの確信を持つ者は、神様の迫りくる愛のゆえに押し出されるように遣わされていくことがわかります。派遣は、「権勢によらず、能力によらず、わが霊による」のです。

●第4問 「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」とお答えしたいですね。

ワーク D

●イザヤ書から学びます。聖書箇所は使徒行伝のペンテコステの箇所ではありませんが、旧約時代のイザヤも自分の内にある罪を示され、滅びるばかりである自分に苦しみました。

イザヤと同じ叫びが新約時代のパウロにも見られますので、少しばかり引用しています。聖霊は、自分が神様のの前に滅びるばかりであることを素直に認めた者に臨まれます。そして神からの召命の声に応答する者に変えてくださいます。子どもたちの内に聖霊が臨まれますように。

中高科へのヒント

観察してみよう

- セラピムは神様をどんなお方と言っていますか。(聖なるお方)
- 「わざわいなかな」とは誰のことですか。(イザヤ自身)どうしてですか？(汚れているから)
- 神様はどのようにきよめてくださったのですか。(祭壇の燃えている炭が唇に触れたことで)

考えてみよう

- 人の悪い所や罪は見えるが、自分はどうでしょうか。聖なる神様の前に出た者だけが、自分の汚れに気がつくことができます。
- 祭壇の火とは、私たちに与っては、イエス様の十字架の罪の赦しと、ペンテコステの聖霊の火です。
- 自分に当てはめてみよう
- 人を見て、優越感と劣等感をいつたりきたりしているのが人の常です。人生の目的がないと、非行に走ったり、無意味な人生を送ってしまいませんか。
- 神様は今の時代もイザヤのように、神様に遣わされる人を求めておられます。「ここにおります」と答えませんか。
- 今日はペンテコステの日です。イザヤやイエス様の弟子たちに聖霊が与えられ、主からの力が与えられて、神様に用いられる者になりました。私たちも同じです。



聖書 ルカ3・21～22 テーマ イエスの洗礼

序論

(金井)

洗礼がキリスト教会への入会儀式であることは広く知られている。しかし、その起源や意味についてはあまり知られていないのではないだろうか。これは私たちキリスト者の信仰生活に関わる大切な事柄である。洗礼の恵みについて学ぼう。

一、キリストによる罪の赦し

「洗礼」と訳される名詞「バプテスマ」は動詞「バプティゾー」(浸す)に由来しており、直訳すれば「浸礼」である。この儀式は律法の定める洗いや清めに起源がある(レビ記11～17章)。パリサイ人はこの規定を励行しており、死海沿岸でクルラン教団も毎日沐浴を行っていた。これらは反復して行われたが、異邦人がユダヤ教に改宗する際に行われたバプテスマは一度限りであった。

ヨハネのバプテスマは「罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマ」であった(3・3)。彼は民衆に「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けるが、わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。……このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう」と告げた(3・16)。ヨハネは宣教と洗礼によって、「主の道を備え」たのである(3・4)。

「民衆がみなバプテスマを受けたとき、イエスもバプテスマを受けられた。ヨハネはイエスの受洗を思いとどまらせようとした。イエスには罪

が無く、彼はヨハネよりはるかに勝るお方だからである。しかし、イエスは「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである」と言って、洗礼を受けられた(マタイ3・14～15)。

イエスもヨハネも神の計画を成就するために、天父に遣わされている。天父の意思に従って、二人はこれを行ったのである。イエスは罪が無いお方であるのに、へりくだって罪人の立場に身を置かれた。イエスは人類の罪を身代わりに負って贖いを成就するキリストである。イエス・キリストの名によって洗礼を受ける者は彼と結ばれ、彼の死と復活にあずかって罪を赦される(使徒2・38、ロマ6・3～4、コロサイ2・12～13)。

二、聖霊による新生

「イエスもバプテスマを受けて祈っておられると、天が開けて、聖霊がはどのような姿をとってイエスの上に下り、そして天から声がした、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」」。天父はイエスに聖霊を注いでキリストとして任職し、彼が御子であることを証しされた。

イエスの洗礼には新しい実質がある。これはイエスの名によって洗礼を受ける者のモデルである。イエスをキリストと告白して洗礼を受ける者は、聖霊を受けて新しく生まれ、神の子とされる。洗礼と聖霊と新生は結び付いている(ヨハネ3・3～6、使徒2・38、ロマ8・14～16、1コリント12・13、ガラテヤ4・6、テトス3・5～6)。ただし、諸事情により原理と経験にはずれが生じやすい(使

徒8・15～17、10・44～48、19・1～6)。ローマ・カトリックでは堅信において聖霊の付与を祈るが、プロテスタントは洗礼を重視する。私たちの教団では洗礼式において司式者が受洗者のために聖霊の恵みを祈る。私たちは洗礼の恵みを体得し、深めていきたい(ロマ6・11)。

三、御父による任職と派遣

ルカによる福音書とその続編である使徒行伝には並行関係がある。主イエスが地上で活動された時と同質の宣教を教会は続けているのである。

受洗された後に、イエスは聖霊に満たされ、導かれて宣教を開始された(4・1、2、14、18)。イエスは復活後、弟子たちに「あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し」なさいとお命じになったが(マタイ28・19)、「父の約束を待っているがよい」とも言われた(使徒1・4)。それは聖霊によるバプテスマである。御父はペンテコステの日に聖霊を降して弟子たちに満たし、彼らを宣教に派遣されたのである(使徒1～2章)。

結論

洗礼には豊かな恵みがある。形だけのものではない。古代教会は洗礼志願者の教育に尽力したが、私たちも洗礼を重視したい。私たちはイエスを主キリストと告白して洗礼を受け、罪が赦された。新しい命をいただき、神の子とされた。ハレルヤ！さらに聖霊満けのキリスト者になりたいので、子どもや隣人に伝道し、受洗の恵みに導こう。

研究資料

(足立)

この箇所はイエスの受洗にともなつて、彼こそ真の救い主であり僕であるとかからの承認があったことを伝えている。彼がどのようなみわざを成し、どのように支配し、どのように人を救うかを本福音書の残りの部分が答えている。しかしここでの強調点は天が語ったことにある。神はご自身の選択を啓示された。日本陸連や水連が有望選手に五輪出場の印を押すように、ここで神はご自分の計画を成就する救い主を明らかにされた。聖霊の臨在の中で神からの承認を受けたことで、イエスは公生涯のために備えた。

イエスの伝道生涯に入る前に、ルカには導入で伝えるべき二つの決定的な項目がある。第一にイエスの系図である。その系図ではイエスがユダヤ人のためだけでなく、アダム以来のすべての人々にも関わる神の御子として位置づけられていると考えられる。ここで系図の根底はイエスが人類の代表者であると示している(3・23～38)。第二にイエスが持つ義と神への忠実という内容がある。彼はサタンという絶大な敵に対して立ち向かう(4・1～13)。イエスは仕えるために資格を与えられた。彼の受洗に際し、神は御手を差し伸べ認定した。それはイエスが天の父への信頼と服従とを全うし、完全な義の犠牲として十字架刑に赴くためである。

テキスト

21 この節と22節はギリシャ語本文では一つの文で構成されている。さて、民衆がみなバプテスマ

を受けたとき

3・7の人々が洗礼を受けていたと

ル

カは洗礼をともしヨハネの宣教が終わりに近づいたとして、イエスの受洗を記しているのである。バプテスマのヨハネによってイエスが洗礼を受けたこと(参照マルコ1・9、マタイ3・13)をルカは直接主張していない(参照ヨハネ1・31～33)。罪なき御子イエスが悔い改めのバプテスマ(ルカ3・3)を受けるとは、如何なる意味があるのであろう。明らかにイエスは罪人と同じ立場に自らを置く決断をされたのであろう(参照イザヤ53・12、IIコリント5・21)。祈っておられると福音記者ルカにとつて祈りは、しばしば神からの啓示や方向付けの時である(参照ルカ1・9～11、2・37～38、使徒9・11～12、10・2～6、9・16、13・2～3、22・17～21)。事実ルカは祈るイエスに幾度となく言及している(5・16、6・12、9・18、28～29、10・21～22、11・1、22・40～44、23・46)。さらに聖霊が祈りの応答として臨む(参照ルカ11・13、使徒1・14、2・1～4、21、4・23～31、8・15～17)。イエスはここで祈りの生活におけるクリスチャンのモデルとして仕えている。天が開けて 天が開かれる場合は、天からの声があり(イザヤ6・4、8、エゼキエル1・25、28、黙示録4・1、10・4、8、11・12、14、13)、啓示が与えられる中に(エゼキエル1・1、ヨハネ1・51、使徒7・56、10・11、黙示録19・11) 預言的な趣旨が見いだされることが多い。

22 聖霊が：イエスの上に下り イエスが宣教を開始する前に彼は聖霊による油注ぎを受けた。こ

れは重要な出来事であった(ルカ4・1、14、18～21、参照使徒4・25～27、10・37～38)。もともと

イエスは聖霊によってマリヤに処女懐胎したのであった(ルカ1・35)が、この受洗に際しても聖霊の圧倒的な臨在が明らかになった。ここにはイザヤ61・1のさりげない言及があると考えられる。イエスでさえ宣教のためにこのような聖なる備えを必要としたのであるなら、同様に弟子たちが備えるのは当然であろう(ルカ24・49、使徒1・4～8)。

はこのような姿をとつて

聖霊がイエスに下

る類似表現はマルコ1・10にも「はどのようにに」と見受けられる。しかしルカは「姿をとつて」と

聖霊がイエスに臨んだ現実を強調している。御子イエスと彼が油注ぎを受けたことが、緊密に繋がっていることをルカは示しているであろう。「は」というような」とは一つの直喩表現であつて、聖霊が実際に鳩の姿を取つたことを意味しない。そして天から声がした これは明らかに神の声であつた。あなたはわたしの愛する子 これは詩篇2・7を想起させる。これは王であり神の御子であるメシアを語っている。またイエスの選ばれた立場をイザヤ41・8から引用しているのかも知れない。

わたしの心にかなう者である これはイザヤ42・1をほのめかしていると考えられ、イエスは苦難とともに人々の罪を担う主のしもべであるとの証言であろう。イエスは王であり神の子でありながら、しもべとしての生涯を開始する。

参考図書 Bock,D.L.Luke1:1～9:50(Baker), Morris,L., Luke(IVP), Stein,R.H., Luke(Broadman).

聖書 ルカ3：21～22
タイトル 洗礼を受けよう
暗唱聖句 あなたはわたしの愛する子、わたしの心になう者である。ルカ3：22
目標 イエス様が洗礼を受けたことに学ぶ。

導入

（水野）
聖君は中学三年生のクリスマスに洗礼を受けました。夏のバブルキャンプでイエス様に救われ、確信が与えられたので洗礼を受けました。洗礼式の日、中二の愛美さんはとてもうらやましく思いました。愛美さんは洗礼を受けたくても、お父さんとおじいさんが反対していて許してくれないからです。また、聖君の洗礼式には中学生や小学生が大勢出席したので、後輩のためにすばらしい模範となりました。

イエス様の洗礼式

ヨルダン川でヨハネさんは多くの人に、罪の赦しを与える洗礼を授けていました。そのヨハネさんのもとにイエス様が来られて、「洗礼を受けさせてほしい」と申し出られました。ヨハネさんはびっくりして「とんでもないことです。私のほうこそイエス様からバプテスマを受けさせてもらいたい

のですから」と断りました。ところがイエス様は「今は受けさせてもらいたい。このようにすべての正しいことを実行することが、私たちにふさわしいのです」とおっしゃって、ヨハネさんといっしょにヨルダン川に入り、バプテスマを受けられました（マタイ3章）。

イエス様は罪を犯したことがない方ですから、罪の赦しを受ける、水のバプテスマは必要ありません。しかし、これから後の人がイエス様も受けたことを知ってイエス様の洗礼の模範にならうようにわざわざ受けられたのです。

水から上がられると、天が開かれ、神様の御霊が、はとのようにくだってきてイエス様のの上にとどまりました。イエス様は神様からキリスト（メシア）として油注がれました。だから天から、「これはわたしの愛する子、わたしの心になう者である」との声があり、イエス様こそまことの神の子であることが証じされたのです。

洗礼の意味

洗礼は大切な儀式です。私たちは聖霊に導かれ自分の罪を認めて、神様の前で罪を悔い改め、イエス様を救い主キリストと告白して洗礼を受けます。イエス様が十字架で死んでくださったように、私たちも水によってイエス様と共に十字架につけられて死に、イエス様がよみがえられたように水からあがって、イエス様と共に生きる新しい人生がスタートします。神の子どもとして新しく生まれた誕生日です。そのことを、教会員の前で公に証しして、キリストの体なる教会に入会する式でもあります。教会において、神の家族として交わ

り、信仰生活を通して成長させていただくのです。

イエス様の遺言

イエス様は天に帰る前に弟子たちに、体は見えなくなっても世の終わりまで、いつでもどこでもいっしょにいると約束してくださいました。さらに、イエス様は弟子たちに、全世界へ出て行って、神様からの喜びのニュースを伝え、イエス様を信じる人々が起こされ、その人たちに洗礼を授けるように命じられました。

弟子たちはペンテコステに上からの力を受け、聖霊に満たされて、イエス様からの喜びのニュースを伝えると、一度に三千人の人がイエス様を信じて、その日のうちにバプテスマを受けました。世界で一番初めの教会が誕生しました。そこから福音が全世界に伝えられ、私たちのところにも伝えられました。

まとめ

それではだれが洗礼を受けることができるのでしょうか。

1. 神様に喜ばれないことを行ったり、話したり、考えたりした罪を認めて、イエス様におわびして、新しくされたいと思っている人。
2. イエス様を救い主と信じている人。
3. イエス様が大好きで、イエス様とずっといっしょにいたくて、神様に喜ばれる子どもになりたいと願っている人。

洗礼を受けましょう。ここがスタートラインです。神様の子どもとなって、いっしょに主の恵みのうちを歩んでいきましょう。
♪わたしさえも愛して♪（ブレイズ・ワールド27）

ワーク A

話し方のヒント

皆さんは洗礼って何か知っていますか？「イエス様が私の罪を赦して救ってくださいました」と信じてる人が受けるものです。どんなにたくさん罪で心が汚れていても、イエス様を信じて洗礼を受けるなら、イエス様が罪を全部きれいに洗い流してきれいな心にしてくださるのです。皆さんもイエス様を信じて洗礼を受け、神様の子どもにしてくださいましょう。

ワークについて

罪を持つていても、イエス様を信じて洗礼を受けると、神様の子どもに生まれ変わりました！

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 洗礼とはキリスト・イエスにあずかることであり、古き人がキリストと共に死んで葬られ、キリストと共によみがえられ、新しいいのちに生きることです（ローマ6：1～11）。そして洗礼を受けることは主が命じられたことです（マタイ28：19）。

●質問3 洗礼を受ける条件はイエス・キリストへの信仰であり（使徒8：37）、それは神の子としてのスタートであることを教えましょう。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 神様の清さの基準を満たす人は、罪のない人です。

●第3問 イエス様だけです。

●第4問 第2、3問から、罪ある自分たちは神様のお心にはかなわない、と思う子どもがいます。しかし、罪が赦され、罪のない人と認められる道があることを学びます。一つ一つ読んで、子どもたちみんなの答えを確認しつつ進めます。上から【はい】【はい】【いいえ】【十字架】です。

●洗礼の願いを持つ子どもが起こされたら、牧師先生に伝え、ともに祈り続けていきましょう。

ワーク D

●今週は洗礼について学びました。子どもたちが信仰告白をし洗礼を希望した時、私たちはそれを真剣に受けとめる必要があるでしょう。本人が信仰に立ち、受洗を希望していても、未信者の親の反対がある時はつらいものがあります。本人が一番つらいでしょう。その気持ちを受け止めながら祈ってあげましょう。教会が未信者の家庭と良い交わりを持ち、信仰に理解が得られれば良いのですが、いづれにしても神様を信頼し、ゆだねていくなら、神様は道を開き、洗礼の日を備えてくださいます。洗礼は神様の側が用意してくださる日でもあります。

中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 余裕があれば、並行記事を読んでみよう。（マタイ3：13～17、マルコ1：9～11）
- 2 イエス様がバプテスマを受けた時に何が起きましたか。（天が開けた。聖霊が鳩のような姿をとってくださった。天から「あなたはわたしの愛する子、わたしの心になう者である」との声があった）
- 考えてみよう

1 罪のないイエス様が、罪の悔い改めのバプテスマを受けたのはなぜですか。（罪は犯されなかったが、罪人と同じようになられるため。私たちに模範を示すため）

2 「観察2」の出来事の意味は何か？（イエス様が神の子であることの父なる神の証 イヨハネ5：9）

3 私たちにとっての洗礼の意味を知っているでしょうか。（説教の「洗礼の意味」を参照）

●自分に当てはめてみよう

- 1 洗礼を受けたいという思いは、神様からのもので、成就するように祈りましょう。洗礼後のことが心配な人は生ける主の導きがあることを信じ、困難なことがあれば、牧師先生に相談しよう。
- 2 洗礼にあらわされた豊かな恵みを深めているでしょうか。（ローマ6：1～14）
- 3 まだ洗礼を受けていない友だち、家族のために祈りましょう。



聖書 マタイ4・1～11 テーマ 荒野の試み

序論

(金井)

神の御子イエスは「天国」すなわち神の王権支配を地上にもたらすために天から降って来られた。イエスの洗礼は王なるメシアとしての即位式であった。主は受洗後、ただちに戦いを開始された。敵は、神に反抗して人の世を支配する「悪魔」である。宣教の本質は霊の戦いである。これは今日も変わらない。勝利の秘訣を主イエスに学ぼう。

一、肉体的試みに勝利する

イエスが受洗された場所は緑豊かなヨルダン渓谷にあった。受洗後、イエスは御霊によって荒野に導かれた。死海の西方にあるユダの荒野である。荒涼とした岩山である。イエスがそこに導かれたのは「悪魔に試みられるためである」。

「悪魔」(原意「中傷する者」)は「試みる者」であり、「サタン」(敵対者)とも呼ばれる。彼は墮落した天使の長であり(Ⅱペテロ2・4、ユダ6)、人心を支配する(エペソ2・2)。「試みられる」という語は「誘惑を受ける」とも訳せる。イエスは四十日四十夜、断食をし、その空腹になられた。イエスの肉体は完全に人間である(ヨハネ1・14、ヘブル2・14)。断食で身体機能は極度に低下した。だが、御父に祈り、交わったので、主は霊的に充足しておられただろう。すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるよう

に命じてごらんさい」。「主イエスにはそうする力があられたが、ここでは御力を用いず、人」はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」と書いてある。とみ言葉で撃退された(申命記8・3)。

人類の始祖はエデンの園で、神の警告を聞いていながら、悪魔の声に従い、欲に引かれて禁断の木の実を食べた。そのために人類は罪と死に支配されるものとなった(創世記3章、ロマ5・12)。エジプトから解放されたイスラエルの民は、律法を受けていながら、荒野で「ああ、肉が食べたい。魚も、きゅうりも、すいかも……」とつぶやいて、主の激しい怒りを受けた(民数記11章)。

二、心理的試みに勝利する

「それから悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて言った、「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんさい」。「神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう」と書いてありますから」。「神の御子としての自覚はイエスの働きの根拠であり、彼の心の支えである(3・17)。悪魔は聖書の言葉まで用いて(詩篇91・11～12)、巧みに人の心の急所に付け入って来る。

「イエスは彼に言われた、『主なるあなたの神

を試みてはならない』とまた書いてある」。「イエスは再び申命記の言葉で(6・16)、悪魔を撃退された。聖書は健全に解釈し、適用すべきである。感情に支配されることなく、み言葉によって感情をセルフコントロールできるように訓練したい。

三、霊的試みに勝利する

「次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華とを見せと言った、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」」。全世界に神の支配を確立するという事業は多大な犠牲を伴うものである。それを知る悪魔は、十字架の苦しみ無しに全世界をあなたにあげるよ、と誘惑した。悪魔はこの世の支配者である(ルカ4・6、Ⅰヨハネ5・19)。だが、「イエスは彼に言われた、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」」。これは申命記6章13節の引用である。そこで、悪魔はイエスを離れ去り、そして、御使たちがみもとにきて仕えた。主の完全な勝利である。

結論

悪魔の誘惑は日々、気づかぬうちに忍び寄る。私たちは肉体の欲や感情に支配されて、誘惑に負けていないだろうか？世の栄華に心を奪われて、安易な道を選んでいないだろうか？恵まれた時に慢心せず、試練の中で失望せず、共に戦ってくださる勝利の主を見上げよう。主イエスと共にみ言葉によって戦い、「サタンよ、退け」と言おう！

研究資料

(足立)

テキスト

1 イエスは御霊によって荒野に導かれた。ここで主導権は神が握っておられ、神の子イエスは父なる神との信頼関係に生きておられる。そもそも主は聖霊によって人となられ(1・20)、公生涯をはじめににあつても神の御霊の承認によって立ち上がった(3・16)。そのイエスを悪魔は試みる。神は決して人を罪に誘惑しない(ヤコブ1・13)が、イエスは人の受ける試みを自ら経験することにより真の救い主となる(ヘブル2・17～18、4・14～16)。悪魔の狙いは、父なる神に対するイエスの信頼を阻むこと。荒野での試みとは、かつてのイスラエルの経験を想起させる(申命記8・2)。

2 断食は重大な考えを成就するため、また祈るために当時のユダヤ人社会では広く行われていた習慣(参照6・16～18)。イエスの断食は四十日四十夜であった(モーセは律法授与に際して同じ日数断食した。出エジプト34・28)。ここにおいて人間イエスの肉体的欲求は最高潮に達している。

3 悪魔は試みる者であり、イエスに誤った行動を取らせようとしている。彼はイエスが神の子であることを否定しない。むしろ彼はイエスが神の子であることに着目し、その特別な立場を誤用させようと企む。神の子なのだから石をパンに変えるぐらい容易なことではないかと。この場合イエスは空腹の絶頂にあった。悪魔は人の肉体的必要に付け入る。後にイエスは多くの群衆に食物を提

供された(14・15～21、15・32～38)。しかしこの荒野においてイエスが自己の必要のために力を用いることは、天の父のみこころではない。そうするならば父なる神から独立して生きる救い主の提示となり、かつ群衆に間違ったメシヤ(飢えの解決)を印象づける。イエスの使命はゴルゴタの十字架の試みを退ける。イエスはパンの必要を否定しないが、人のいのちが食物によってのみ支えられることに同意しない。かつてモーセに率いられたイスラエルの民は40年荒野をさまよった。それは出エジプトを経験させてくださった主を信頼せず、不従順を繰り返したからであった。しかし神は民にマナを天から与え、必要を与えてくださる神ご自身に信頼させ、そのみ言葉に養われることの大切さを経験させられた。悪魔の挑戦は、この生ける神への信頼を抜きにして人の必要を満たそうとする誘いである。イエスはみ言葉により勝利。

5 試みる者の名は悪魔。第二の誘惑の場所は、荒野から聖なる都エルサレムに移る。

6 再び悪魔はイエスが神の子である事実を訴える。そしてイエスが父への信頼を第一とされることを根拠に、詩篇91・11～12を乱用して彼を罪に誘う。詩篇91は一貫して神への信頼を歌っている。しかし悪魔はその文脈を無視してイエスに危険を冒すようささやく。悪魔によるみ言葉の誤用。また、ここにはイエスに超自然的演技をさせて群衆の目を誤った方向に導こうとする悪魔の意図がうかがえる。

7 イエスは悪魔の意図を見抜き、再び聖書に依拠(申命記6・16)して反論する。申命記においてこのみ言葉は、イスラエルの民が飲み水の欠乏をモーセに叫びたことに言及して語られたもので

ある(参照出エジプト17・1～7)。ここには、神を信頼せず、また神を試みてはならないことが記されている。イエスが神殿の頂から飛び降りることは、自ら危険な状況を作り出し、神の奇跡を求めることになる。神に仕える者は、神への信頼に基づいて神に必要を訴えることが大切である。

8 悪魔は再びイエスに挑戦し、非常に高い山に彼を連れて行く。悪魔はイエスに地上の王国の栄華を見せる。確かに悪魔は地上の支配者である。

9 ひれ伏して拝むなら 露骨な条件提示である。悪と手を結んで神の国を手取り早く建設せよとの誘い。地上の富、権力、繁栄を得るために。

10 イエスは妥協の余地がない断固たる態度で拒絶する。サタンよ、退けとは、神の子イエスが悪魔とその申し出に一切関わりがないことを示している。サタンということばが、本福音書においてここで最初に登場。サタンとは、敵という意味を持ち、神に徹底的に敵対する存在として記されている。またサタンは、神が創られた人間に最も関心を持っている。イエスは再びみ言葉を引用する(申命記6・13)。ここでは、主なるあなたの神に強調点がある。サタンではなく、神こそが礼拝されるべき対象である。聖なる栄光は神おひとりの為にある。人間が献げるあらゆる奉仕も、ただ神のみが受けるにふさわしいのである。

11 悪魔は一時的にイエスを離れることになった(ルカ4・13)。御使いたちは継続して仕えた。

参考図書 内田和彦「マタイの福音書」実用聖書註解(いのちの社)Blomberg,C.L.Matthew (Broadman).Morris,L.The Gospel According To Matthew(Eerdmans)

聖書 マタイ4・1～11
タイトル 悪魔に負けないで
暗唱聖句 人はパンだけで生きるものではない
く、神の口から出る一つ一つの言
で生きるものである。マタイ4・4
目標 どのようにイエス様が悪魔の試みに勝利したかを知る。

導入

(水野)

朝ごはん、何を食べてきましたか？「パンと牛乳？」「ごはんは味噌汁？」「たまご？納豆？」日曜日はお家の人が休んでいるから、朝ごはんまだのお友だちもいるかもね。

大きなクモの巣を見たことがありますか？クモのごはんは何だろうね？あのクモの巣にかかっている虫や蝶々がごはんです。クモの糸は細くてよく見えませんが、実に細かく細かく張りめぐらされてあって、しかもねばねばしているのでも蝶もひっかかってしまうともう逃げられませんか。クモに食べられてしまうのです。

このクモの巣のように私たちの心にも、悪魔がわからないように忍び寄って、誘惑してきます。悪魔だと気付かないで、悪魔の策略にまんまとひっかかってしまうことがありますから、どうしたら悪魔に勝利できるかイエス様から学びましょう。

イエス様への誘惑

イエス様は洗礼を受けて、聖霊に満たされ、いよいよメシヤ、救い主として立ちあがられました。

ワーク A

話し方のヒント

皆さんの心の中はいつもきれいですか？時々もくもくと悪い心が出てきませんか？お友だちの持っている物をとってやろうという心、うそをついても大丈夫という心、教会学校を休もうという心：悪魔が悪い心を皆さんの心の中に入れ、悪い事をさせようとするのです。でもそんな時、悪魔に勝つてくださるのは、イエス様と聖書のみ言葉です。「イエス様助けて」と叫びましょう。そして悪魔に負けないように、み言葉をいつばい覚えましょう。

ワークについて

み言葉パンチで悪魔をやっつけましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 悪魔の誘惑に対してイエス様は申命記のみ言葉で勝利されました。イエス様が聖書(旧約聖書)に深く親しんでおられた事を教えましょう。

●質問3 誘惑に勝利するために、み言葉の他に、祈り(主の祈りの中にも、このための祈りがある)と賛美も大切です。また教師自身がどのように誘惑に勝利したかを話しましょう。生徒の直面するさまざまな誘惑を退けるために、どうしたらよいか話し合い、祈り合いましょう。

まず、すべてのことに先立って、聖霊によって荒野に導かれました。荒野には石がごろごろしていて、見渡す限り砂と岩、緑もなく草もなく、水もないし食べ物はないのです。もちろん動物も人間もいません。その荒野でイエス様は40日間断食をして父なる神様と深く交わりました。断食が終わり、お腹がすききつて、フラフラしているような状態で、心も体も一番弱っているとき、悪魔がイエス様に「もしおまえが神の子だというなら、ここにある石をパンに変えてごらんよ。そんなにおなかをすかせていることはないよ」とささやきました。イエス様は石をパンに変えることだつてできたでしょう。けれどもイエス様は「生きるために、パンを食べることは必要だ。でもパンだけで生きるのではなく、もっと大切なものがある。それはパンより大切な神様の言葉によって生きることだ」と悪魔の誘惑を退けました。

悪魔は、イエス様の心が変わる別の方法はないか考えました。そして、イエス様をエルサレムの神殿に連れて行き、神殿の一番高い所に立たせて言いました。「あんたが神の子なら、この頂上から飛び降りてごらんよ。神もあんたのために天使に命じてあんたの足が石に打ちつけられる前に、しっかりと受け止め、助けてくれるからだいじょうぶだよ」と誘惑してきました。イエス様は「神様を試すようなことをしてはならない」ときっぱり答えました。またしても失敗しました。

さらに悪魔は頭をひねり、イエス様を山の上に連れて行きました。下を見下ろすとたくさんさんの国や町が見えました。悪魔は「おまえが一度でいいから、おれにひざまずいて、おれを拝めば、この

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 サタンの誘惑に対して、イエス様の語られたみ言葉を吹き出しに書き入れます。そして、み言葉によって勝つたことを確認してください。

●第3問 イエス様は40日40夜の断食の後で、体力的には限界でした。弱いところを突いてくるサタンの巧妙さに注意を喚起します。そのサタンが私たちを誘惑してくるのです。

●第4問 悪いことをしたり、言ったりする誘惑、無視したりさせたりする誘惑、教会から離そうとする誘惑、など。

●第5問 み言葉の力です。他に、祈り、賛美もサタンは嫌いです。はつきりとサタンを退けましょう。大声で「サタンよ、退け」と言ってみましょう。

ワーク D

●例1、例3の質問に正直な気持ちで答えます。模範回答は不要です。誘惑に勝てない自分の姿を知るのが目的です。

●それぞれの例に、イエス様の勝利のみ言葉を書いていきます。イエス様はご自分の力を行使されず、すべて神の言葉(聖書)によって勝利されました。そこに秘訣があるのではないでしょう。私たちが自分の力で戦うことをやめて(自分の力では勝てない)、神の言葉であられるイエス様を人生の主としてお迎えすることが、勝利の秘訣ではないでしょう。

国もこの町もみんなあげよう」と、悪魔を礼拝するように誘惑してきました。イエス様は「サタンよ退け。『神様だけを礼拝しなさい。神様だけに仕えなさい。悪魔に心を動かしてはいけない』と書いてあります」と言い、悪魔に対して、聖書のみ言葉で勝利しました。

私たちへの誘惑

イエス様を誘惑した悪魔は、私たちをも誘惑してきます。体・心・霊の弱いところをねらつてささやきます。「一度や二度礼拝に出なくてもどうってことないよ、たまには休んだら」とか、「テストの答えがわからないなら、隣の人の答案用紙を見たら！1回くらいなら、ばれないよ」と、いろいろな声が聞こえてきます。

どうしたら悪魔に勝利できるのでしょうか？イエス様は聖書のみ言葉で勝利しました。私たちも毎日、聖書を読んで、み言葉を心にいつばい蓄え、み言葉によって正しい道を選びとりましょう。

誘惑に負けそうになったら「イエス様助けて」と祈りましょう。祈りも悪魔に勝つ神様からの武器です。

誘惑に負けやすいことを教会学校の先生やお友だち、クリスチャンの家族に話して祈ってもらうことも大切です。とりなしの祈りは効果があります。

賛美も悪魔に勝つ秘訣です。神様を賛美しているところには、悪魔は近づけません。いつも喜んで主を讃えましょう。この1週間も油断しないで神様を見上げていきましょう。

♪いっしょにうたおう♪(プレイズワールド30)

中高科へのヒント

●観察してみよう

1 聖書には悪魔が登場します。イエス様も悪魔の誘惑を受けられました。悪魔は架空の存在や、アニメの世界のことではありません。聖書で悪魔の存在を知る必要があります。【聖書講解参照】

2 3回の誘惑の意味は何ですか？(いろいろな角度から解釈できますが、一言で言えば、父なる神様から引き離すことです)

3 イエス様が悪魔に勝利できた最大の秘訣は何ですか。(3回とも聖書の言葉で勝利しました。エペソ6・17)

●考えてみよう

1 テレビ、映画、ゲーム、雑誌、携帯電話、インターネットなどを媒体として、ホラー、うらない、心霊、風水、超常現象：などが氾濫しています。最近のアンケートで、60%の人が「気になるか、信じている」と答えています。中高生の子どもたちも日常、見聞きしています。背後に悪魔の働きがあることを否定することはできません。中高生も聖書で霊的識別力を養わなければならぬのではないのでしょうか。

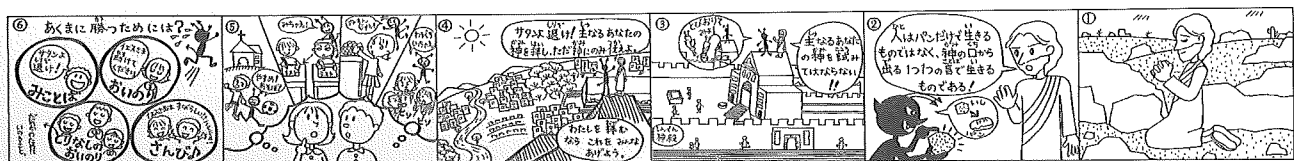
●自分に当てはめてみよう

悪魔に勝利する秘訣を身につけましょう。

1 イエス様のように神の言葉で武装する。

2 イエス様のように祈って、勝利する。

3 主の教会から離れない。



聖書 マルコ1・14～15
テーマ 神の福音

序論

(金井)

先月は主イエスの「伝道の準備」について学んだ。続いて今月は「はじめの伝道」について学ぶ。福音の真理をしっかりと把握したい。

一、時は満ちた

マルコによる福音書は、初代教会においてバルナバやパウロ、ペテロと共に活動したマルコが(使徒12・25、13・5、13、15・37～38、コロサイ4・10、1ペテロ5・13)、紀元50年代後半にローマで書いたものと思われる。彼はイエスの宣教の使信を、△時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ△という一文に要約している。

すでに学んだように、主イエスはバプテスマのヨハネから洗礼をお受けになった。その後ヨハネは、領主ヘロデ・アンティパスが兄弟の妻をめぐったことで、彼を批判した。そのためにヨハネはヘロデに捕らえられ、斬殺された(6・17～29)。ヨハネは「主の道を備え」(1・3)、使命を果たし終えて、天に召されたのである。

主イエスはヨハネと同時期にすでに活動しておられたが(ヨハネ3・22～24)、△ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き△、本格的に宣教を開始された。イエスと弟子たちはヨハネに近い立場にあり、危機的な時であったと思えるが、イエスは言われた、△時は満ちた△。神が定められた福音宣教の好機が実現したというのである。

二、神の国は近づいた

ヨハネは荒野で宣教活動を行い、ユダヤの人々に罪深い生活からの脱出を促した(1・4～5)。これとは対照的に、イエスは出身地である△ガリラヤ△に帰られた。イエスは家や会堂、湖畔など人々の生活の場に入って行き、そこで宣教活動を行われたのである。

△神の国△はイエスの宣教の中心的使信であった。△国△(the kingdom)と訳される原語の本来の意味は「王の支配」である。これが転用されて、王によって統治される「王国」という意味も持つ。旧約聖書には「あなたの神は王となられた」(イザヤ52・7)という宣言がある。まさに、神の御子イエスは王なるキリストとして、神の支配を地上にもたらすために来臨されたのである。イエスの宣教には悪霊の追放やいやしが伴っていた。それらは△神の国△が来臨したしるしである(マタイ12・28)。△神の国は近づいた△と宣教するイエスの存在そのものが△神の国△であり、△福音△なのである。

三、悔い改めなさい

イエスは「わたしの国はこの世のものではない」と言われた(ヨハネ18・36)。また、イエスは「神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」とも言われた(ルカ17・20～21)。△神の国△と「天国」(マタイ4・17)は同義である。△神の国△が今ここに来ているということは、「天国」が地上に実現しているということであり、来世が現世に実現しているということである。これは終末論的な

出来事である。今の世が終わり、万物が更新される時は差し迫っている。最後の審判に備えなければならぬ(8・38、10・30、13・24～27)。今こそ△悔い改めて△「神の国に入る」(9・47、10・15、24～25)。決断をすべき時である。

四、福音を信じなさい

御子の来臨において、神は人類に対する決定的な啓示と救済の業を為された。この△神の福音△を信じる者は△神の国△に入ることができる。

福音を信じる私たちはすでに△神の国△を生きている。すなわち、キリストの臨在が現実私たちに共にある。同時に、私たちはやがて再臨されるキリストによって完成される△神の国△を、未だ見ることなく待ち望んでいる。△神の国△には現在性と未来性という二重の性格がある。私たちはそのはざままで、緊張感を保持しつつ生きなければならぬ(13・33～37)。私たちはやがて神の国の大祝宴に臨席させていただく(マタイ22・2、黙示録19・9)。今はその恵みを少しばかり味見させていたただいているのである。

結論

私たちが△神の福音△を信じ、△神の国△の恵みの中に生かされているということは、何と幸いなことであろう。主イエスは今も私たちの中に生きて働き、私たちを用いて宣教を続けておられる。21世紀に生きる私たちは、終末時代の最終末期に位置していることをよくよく自覚して、△悔い改めて福音を信ぜよ△と大胆に人々に伝道しよう。

研究資料

(石田)

主イエスはヨハネが捕えられる前から宣教を開始しておられたが、ヨハネの働きが終わったとき、本格的なガリラヤ伝道が始まった。15節は主イエスの説教のエッセンスである。主の説教は、必ずしもこのままの言葉ではなくても、この3つのポイントを踏まえているという意味において、説教の中心テーマである。ちょうど伝道説教が神・救いというポイントを備えているように。

テキスト

14 神の福音 (ユーアンゲリオン・トゥー・セウ) これは神についての福音というよりも、神から与えられた福音という意味にとるべきだろう。その具体的なポイントが15節に記されている。マタイでは「御国の福音」(4・23)と言われ、マルコの冒頭には「神の子イエス・キリストの福音」とも記されている。(なお神の福音については、ロマ15・16、Ⅱコリント11・7、1テサロニケ2・2、1ペテロ4・17)。

宣べ伝えて (ケーリュツソン／ケーリュツソの現在分詞) 福音の宣教こそは、主イエスの最大にして緊急を要する使命であった。そのためには多大の犠牲が必要であり、主は十字架という代価を払われた。宣教には犠牲が伴う。

15 時は満ちた (ペブレーロタイ・ホ・カイロス) 旧約が待ち望んでいた救いの時が来たという意味である。時を意味するギリシャ語には二つあり、△クロノス△は時の単純な経過、または時代と暦

によって計られる時について言われる(新約聖書で53回)。それに対して△カイロス△は、定められた期間の意味における時について使われている(86回)。ここでの「時」は「時の満ちるに及んで」(エペソ1・10)と同じく、△カイロス△である。キリスト来臨という神の救いのご計画は、神の深い知恵に基づいて、最もふさわしい時代と場所を定めて実行された。神は何者にも妨げられることなく、不信の者、敵対者をも用いてご自身の計画を遂行する歴史の支配者である(箴言21・1、イザヤ43・13、44・28)。時は満ちたという言葉には、今「悔い改めて福音を信」ずるようという迫りがある(Ⅱコリント6・3)。

神の国 「国」(バシレイア)は、△王国△を原意としており、したがって「神の国」は神の王権、支配、権威を意味する。マタイで使われている「天国」と全く同じ意味。旧約ですでに、民に対する神の王としての支配について記されている。「主はエシユルンのうちに王となられた」(申命記33・5、そのほか出エジプト15・18など)。神がイスラエルに求めた政治形態は、神をまことの王とする神政政治であった。だからサムエルは王政を求める民の声を快く思わなかった(サムエル上12・12)。また王国が長く続いても、主こそまことの王であるという信仰は消滅しなかった。この世の王は、その権力や軍勢力によってその民を支配するが、神の国の王である主は、御国の民を恵みによって支配される。したがって神の国は△神の恵みによるご支配△のことである。主イエスは、救われること、永遠の命を得ることを、△神の国に入る△

(10・15、23)とか、△神の国を持つ△(マタイ5・3、13・44)とか言われた。

近づいた (エンギーケン／エンギゾーの完了形) 神の国の究極的な完成は主の再臨の時ではあるが、このみ言葉で、主イエスはご自身の来臨から神の国はすでに開始されたことを示された。神の国は主の言葉とわざの内に現れる。また神の国は信じる者の内に実現しているとも言われた(ルカ17・21)。さらに「神の国が力をもつて来るのを見る」(9・1)と言って、十字架による救いの完成によって、悪魔が致命的な打撃を受け、神の支配がそれを圧倒することを示された。ご自身の死によって神の支配を決定的にされたわけである。神の国、すなわち神の支配は、主の宣教と弟子化と癒しのわざ(マタイ4・23)によって広がった。これはペンテコステを機に異邦人に、そして全世界に拡大して今日に至っているが、なお終末時の完成を見えていない。キリスト者はこれに参画し、全力を注いで主のわざに励まなければならない。

悔い改めて福音を信ぜよ バプテスマのヨハネは、人々に罪の悔い改めを迫ることによって、そのあと信すべきお方のために人々の心を備えた。悔い改めとは、心を変え、罪を嫌悪し、神に立ち返ることである。主は神に対する悔い改めだけでなく、福音に対する信仰を人々に迫った。それは「神の国」に入るための必須の条件である。この文脈における「福音」とは、十字架と復活の前だから、ついに救い主が到来したことであり、主イエスご自身のことであると見て差し支えがない。このみ言葉は、聞く人に主を信じて従うようにと決断を迫る。

聖書 マルコ1・14～15
タイトル イエス様からのメッセージ
暗唱聖句 時は満ちた、神の国は近づいた。悔
い改めて福音を信ぜよ。マルコ1:15
目 標 イエス様の語られた伝道の中心メ
ッセージを知ろう。

導 入

(長谷川)

6月に入りました。今月は雨の多い月ですが、お休みしないで教会学校に出席しましょうね。
5月はイエス様が伝道を始められる準備をなさったことを学びました。6月はそのイエス様が実際に始めになった「伝道」について学びましょう。イエス様は何を伝えられたのか。今日はその「福音の内容・中身」について学びます。

イエス様の伝道のはじまり

イエス様に洗礼を受けたバプテスマのヨハネが捕えられてしまったという悲しみの時に、イエス様は本格的に伝道を始められました。いよいよ、「神様の福音」を伝える「時が来た」と立ち上がられたのでした。「福音」とは何でしょうか？「グッド・ニュース」つまり、「よい知らせ」「嬉しい知らせ」ですね。私たちを幸せにしてくれる素晴らしいお知らせのことです。

「時が満ちた」というのは、「神様の時が来ました」ということです。古い時代は過ぎ去って新しい時代が来ましたよ、と言ってくださいました。

しかも、イエス様は小さな地方の町「ガリラヤ」へ行き、その「グッド・ニュース」を一番はじめに語ってくださいました。大都市エルサレムからでなく、ガリラヤから始めてくださったのはイエス様の愛のお心からでした。ちょうど、イエス様誕生のニュースがベツレヘムの羊飼いに最初に伝えられた時と同じようでした。それは、名もなく一生懸命生きている人々を思いやってくださいる神様の愛のお考えがあったからでした。

嬉しいニュース

イエス様の伝えてくださった「福音」は、「神の国は近づいた」ことでした。「国」というのは、日本の国、アメリカの国といった「国」ではなく、「神様が支配してくださること」を意味しています。しかも、「近づいた」というのは、近くに来ていますよ、だんだん近づいて来ますよという意味ではなく、「来ましたよ」ということなのです。イエス様が王様として私たちを治めてくださる「神の国が来ました」と言ってくださいているのです。何て嬉しいニュースでしょうか！初めてそのことを聞いたガリラヤの人々は大喜びしたと想像出来ますね。

「神の国」に入るためには？

神様の用意してくださった素晴らしい「神の国」で生きるためにはどうすればよいのでしょうか？イエス様は二つのことを言われました。一つは「悔い改めること」。二つ目は「福音を信じること」です。一言で言うと「方向を変えて、イエス様を信じて生きなさい」ということです。

「悔い改める」という言葉をよく聞きますが、これは悪いことをしたらあやまりなさい、ということではなく、自分勝手なままな生き方をやめて（方向を変えて）、神様を中心にした生き方を進めていくことです。「福音」とは「イエス様」のことです。イエス様の十字架と復活を自分のため、とありがたく信じる、その人に「神の国」が用意されているのです。

まとめ

イエス様が語ってくださった最初のメッセージは「悔い改めて、福音を信じなさい」でした。このメッセージは今も有効です。このメッセージはこの地上がある限り、変わらないものです。また、私たちが伝えなければならぬことはこのことなのです。このことを信じる人にはいつも「神の国が来ている」から嬉しいですね。

ある教会で、昨年のクリスマスに92才のおばあさんがイエス様を信じて洗礼を受けられました。信仰告白文の中で「私は今までわがままでした。そんな私のためにイエス様が十字架にかかってくださり感謝で一杯です。今日から始まる残りの人生を神様に喜ばれるように生きて行きます」と言われました。その方は一生懸命礼拝に出席されています。その姿を見て皆とても励まされ、今も人を救い続けられる神様をほめたたえています。

私たちも、これからもずっと「悔い改めて、福音を信じ」続けて行きましようね。イエス様は信じる人を祝福されます。
♪ガリラヤの風かおる丘で♪ (新聖歌40)

ワーク A

話し方のヒント

イエス様は3年間、神様のお話を色々な所に伝えて歩かれました。イエス様は、大好きなたくさんの人々が、神様の支配されている神の国に入るように、大切な二つのことをいつもお話しされたのです。①自分勝手なままな生き方を神様にあやまり、神様を喜ばす生き方をしなさい②イエス様は、罪を赦してくださる救い主と信じなさい。このイエス様のメッセージは皆さんにも語られています。イエス様を信じて神の国に入れていただきましょう。

ワークについて

イエス様が語られた二つのことを覚えましょう。

ワーク B

- 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
- 質問2 神の国とは、神の恵みによるご支配であり、すでにイエス様が来られたことよって始まり、再臨によって完成します。イエス様を信じる者の心の中に神の国はあるのです。
- 質問3 神の国は、イエス様の十字架と復活によつて実現、成就しました。サタンに対する神の完全な勝利が十字架です（創世記3:15）。イエス様は神の国のメッセージを語りましたが、弟子たちは、その最も重要なイエス様の十字架と復活を宣べ伝えました。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

- 第2問 神の国は、もう来ているのです。神の国はイエス様の支配のある所ですから、信じる者はすでに神の国に住んでいるのです。
- 第3問 「良い行い」が神の国に入る条件ではありません。しかし、大切なことではありません。
- 第4問 悔い改めることは、180度の方向転換です。
- 第5問 分級に出ている生徒一人一人に言いたかったのです。また、教師も例外ではありません。

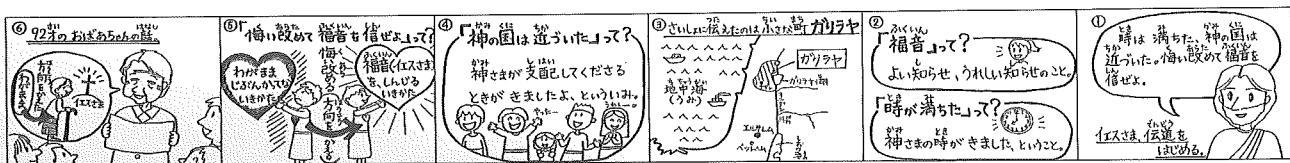
ワーク D

- 今私たちを取り巻くニュースはどんなことでしょうか。悲しくつらいニュースが多いのではないのでしょうか。また良いニュースについても話し合ってみましょう。
- けれどもイエス様は良いニュースを持って来てくださいました。
- 3はイエス様が持つて来てくださった、良い知らせとはどんな事か聖書を通して考えます。他にもたくさんありますので、先生方がご準備くだされば良いでしょう。

中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 余裕があれば並行記事を読んでみよう。（マタイ4・12～17、ルカ4・14～15）
- 2 イエス様からのメッセージは、「時は満ちた」「神の国は近づいた」「悔い改めて福音を信ぜよ」に集約されます。単純明快、誰にでも理解でき、信じることができます。
- 考えてみよう
- 1 「時は満ちた」とは、神のご計画によつて、主イエスが福音を宣教される時が来たという意味です。私たちの場合も、聖書の言葉を聞いた時、教会に来た時、イエス様を信じた時、信仰生活でいろいろな主の恵みを経験した時、これらはすべて、神のご計画の中にあります。
- 2 「神の国は近づいた」とは、「神の支配」が来たという意味です。私たちは神の支配の中にいるのでしょうか。「神の支配」とは強制的なことではなく、神の愛と恵みの中にあることです。
- 3 「悔い改めて福音を信ぜよ」とは、罪を認めて告白し、神に従う決心をし、イエス様を救い主として受け入れることですが、あなたもそうしませんか。
- 自分に当てはめてみよう
- 1 神のご計画を信じ、時を大切にしよう。
- 2 自分自身、自分の時間、自分の財、自分の賜物、自分の将来は、すべて「神の支配」の中にあるでしょうか。
- 3 単純明快な福音を大胆に伝えましょう。



聖書 伝道の書12・13・14 テーマ あなたの若い日に (子どもの日・花の日)

序論

(金井)

教会では6月第2主日に子どもの成長を祈る。この子どもの日は、1856年に米国マサチューセッツ州チエルセアで、チャールス・レオナルド牧師が始めたものである。師は子どもが信仰生活を始めるのは早いほど良いと考えた。師はこの日を両親が子どもを神に献げる日として、特別な礼拝を持った。この時期に夏の花が咲き始めるので、この日は花の日ともされる。子どもたちが病者や公共施設で働く人などに花を届け、神の恵みを分かち合う。本日は若い時に信仰を持つことの意義を学びたい。

一、いつさいは空である

伝道の書は「ダビデの子、エルサレムの王である伝道者の言葉」(1・1)である。この王は比類無き知恵者である(1・16)。恐らくソロモンであろう(列王上3・12)。「伝道者」(コヘレト)とは「集会を召集する者」とか「集会で語る者」の意である。ソロモンは民の代表者を召集して語った(同8・1、12)。ただし「伝道者」は匿名である。それはソロモンの残した言葉後の人が編集したからだろう(12・9、14は編集後記である)。

△空の空、いつさいは空である▽。これが本書の一貫した思想である。△空▽と訳される原語は「息」とか「蒸気」を意味する。これが転じて、「すぐに消えてしまう実体の無いもの」という意味を持つ。本書にはこの語が37回も用いられる。

快樂、食欲、美食、性欲、妾、物欲、金銀、財宝、金錢、財産、遺産、邸宅、庭園、園芸、歌唱、事業、労働、業績、研究、知識、才能、名声、競争、権力、賄賂、不正、不条理、裁判、誓約、階級、貧困、虐待、戦争、災害、破産、病氣、疲労、痛み、怠惰、夢想、饒舌、愚痴、笑い、狂気、忘却、忘恩、孤独、失望、悩み、高慢、怒り、憎しみ、妬み、呪い。△いつさいは空である▽。

二、人はみな老いて死ぬ

人は誰も老いて死から逃れることはできない。△造り主▽を知らぬ人の末路は△悲しき日▽である。△わたしにはなんの楽しみもない▽という高齢者がなんと多いことか。彼らの心は△日▽が陰り、雨雲が立ち込める冬景色のようである。

腕は△震え▽、背中が△かがみ▽、歯が△少ない▽ために噛みこなせず、△目はかすみ▽、耳は遠くなる。胃の調子が悪くなり、目覚めが早くて△鳥の声によって起きあがり▽、美しかった声も△低く▽なる。△高い▽所が恐くなり、△道▽を歩くのも恐ろしい。△あめんどろ▽の△花▽のように髪は白くなり、足腰が弱って足を△ひきずり歩き▽、肉体の△欲望は衰え▽る。死期が近づいて、△永遠の家に行くところなので、泣く人が、ちまたを歩きまわる▽。やがて体のあちこちが△切れ▽、△砕け▽、△破れ▽て、死を迎える。

人間は「土のちり」にすぎない(創世記2・7)。△ちりは、もとのように土に帰り、霊はこれを受けた神に帰る▽。人は「母の胎から出てきたように、すなわち裸で出てきたように帰って行く。彼

はその労苦によって得た何物をもその手に携え行くことができない」のである(5・15)。

三、若い日にあなたの造り主を覚えよ

無常なる世に、生きる望みはあるのか。伝道者は説く、△あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ▽。創造主を知ることによって、初めて人は自らの存在意義と限界を悟る。神は「人の心に永遠を思う思いを授けられた」(3・11)。しかし、真理から目を背け、今しか見えず、欲望のままに生きるなら、まさに「人は獣にすぎない」(3・18)。「若い者よ、あなたの若い時に楽しめ。……あなたの心の道に歩み、あなたの目の見るところに歩め。ただし、そのすべての事のために、神はあなたをさばかれることを知れ」(11・9)。△神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである▽。神の法を知らずに生きるのは無免許運転に等しい。事故に遭うのも無理はない。聖書を学び、言葉に従って生きよう。そうすれば私たちの人生は実体のあるものとなり、私たちの心は満たされる。

結論

現代のメディアは子どもたちを単純な樂觀主義、利己的な快樂主義、厭世的な禁欲主義へと導く。そこに救いは無い。虚無感と孤独と破滅が待つだけである。子どもたちに△あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ▽と語ろう。「神をかしこみ、み前に恐れをいだく者には幸福がある」(8・12)。

研究資料

(石田)

1 あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ このみ言葉は、11・7以下の続きであり、その結論である。特に「あなたの若い時に楽しめ……ただし、そのすべての事のために、神はあなたをさばかれることを知れ」(11・9)と呼応している。またいたものを刈り取るようになる前に。あなたの造り主(ボーレエーカー) 若い人の本分は、自分が神に造られた者であることを知り、自分の造り主である神に信頼して生きることである。わたしには何の楽しみもない 自分の造り主を無視し、人生の計算に入れてこなかった人は、老いたときに望みも喜びも見出せなくなる。

2 2、6節は、冬の情景や日常生活を描きながら、老人の心と体の衰えてゆく様を表している。解釈はバラエティに富んでいるが、代表的なものを挙げてみる。日や光や、月や星の暗くならない前に 日ざしが弱まり、光が暗くなることは、生きる喜びが失せてゆく様を表している。雨の後にまた雲が帰らないうちに 雨模様の天気が終わらないことから、老いによる寂寞感の絶えない様。3 家を守る者は震え 老化のため両腕(複数形)が震えること。力ある人はかがみ 腰やひざ、両足が衰えて弱くなる様。ひきこなす女は少ない 歯が欠けてくること。窓からのぞく者の目はかすみ 目がかすんでゆく様。

4 町の門は閉ざされる。 耳が遠くなること。人は鳥の声によって起き上がり 眠りが浅く、目覚めが早い様。歌の娘たちは皆、低くされる 歌

声に張り合いがなくなり、声を出す力が衰えてくること。高いものを恐れる。恐ろしいものが道にあり 怪我をしないために高い所や出歩くことを控える様。あめんどろは花咲き あめんどろの花は白いので、白髪になること。いなこはその身をひきずり歩き お年寄りが歩く様。その欲望は衰え 肉体的欲求のこと。人が永遠の家に行くこととする 死や墓に向かうこと。

6 銀のひもは切れ、金の皿は砕け 天井から吊るされているとし火皿のひもが切れることによつて、部屋が真っ暗になる様を描きながら、死の暗黒を表している。水がめは泉のかたわらで破れ、車は井戸のかたわらで砕ける 命の綱である水がめが破れ、滑車などが井戸に落ちて壊れる様で人生の終わりを表現している。

7 ちりは、もとのように土に帰り ちりによつて造られた人間の肉体が死によつてちりに帰ることから、この世だけを追及する人生のむなしさを表している。霊はこれを授けた神に帰る 人間の人格は死んで消滅するのではなく、神の前に立つという厳かな警告を含む(11・9、12・14)。

8 空の空、いつさいは空である 神を抜きにしていかに華々しい人生を送ろうとも、結局は死によつてその意味を否定されてしまう。これが結論であれば救いがないが、13節に解決の道が示されている。神に従って歩んだ人生は神の前に永遠にものを言う(マタイ25・40)。

9 これ以下は、本書の結論部、後書きと言える部分である。ここに本書の執筆の動機や事情、背景などが明らかにされている。伝道者(コヘレトウ)

集会での語り手、説教者。カーハル(人を集める／動詞)から派生した言葉で、70人訳ではエックレジヤステス(集会で話す人)というギリシャ語に訳されている。知恵がある(ハーカーム／形容詞)

これは実際的な能力としての知恵や、人間的賢さとしての知恵とは違う。神を畏れてみ言葉に従うときに与えられる霊的な力としての知恵である。「霊的な知恵と理解力」(コロサイ1・9)に通じる。聖書は他のいかなる知恵にもまさつて、この知恵こそが真の祝福の源であることを繰り返し強調している(詩111・10、箴言9・10、エレミヤ8・9など)。知識(ダアトウ) これも上記の知恵と同じく、神を知る知識、あるいは倫理的な知識のこと。

10 真実の言葉 新約的に言えば「福音の真理」であろう(ガラテヤ2・5、コロサイ1・5)。

11 知者の言葉は突き棒のようであり 羊飼いが羊を棒で突きながら、正しい道へ導くことにたとえている。よく打った釘のようなもの み言葉が魂に打ち込まれ、生き方がみ言葉で釘付けられる。12 多く学べばからだは疲れる 学ぶことを否定しているのではなく、み言葉の学びをなおざりにして、ほかの学びに熱中することのむなしさ。「無くてならぬものは多くはない」(ルカ10・42)。

13 神を恐れ、その命令を守れ これは「空の空」と言われる人生に意味を持たせ、生きる力をもたらす秘訣である。神を礼拝してその恵みをいただくことによってこそ、み言葉を守ることができる。これは神と共に歩むことである。すべての人の本分 神から見ても人間らしい生き方であり、人の創造された目的である。

聖書 伝道の書12・1～14
タイトル 一番大切なこと
暗唱聖句 あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。 伝道の書12・1
目標 若い日、若い日に創造主を信じて幸いを得よう。

導入

(長谷川)

今日は教会の「子どもの日・花の日」、今から149年も前に始められた特別な礼拝の日です。アメリカのチャールズ・レオナルド牧師が、子どもたちのために特別な祝福をお祈りする日として、この日を「子どもの日」と決めました。
また、一年中で花が一番美しい季節ですので「花の日」としても親しまれていますね。
今日は午後から美しい花を持って「花の日訪問」をする教会も多いと思います。美しい花でたくさんの人が慰められ、元気づけられると嬉しいですね。

そんな特別な日ですので、今日は「若い時に神様を信じる幸せ」について学びましょう。

伝道者の告白

この「伝道の書」の伝道者とは、ソロモンという王様と言われていますが、この世的に考えるとすごい人物だったようです。金銀財宝をあふれるほど持ち、賢く、地位も名誉もあり、好きなことが出来、何でも手に入れることが出来るという伝

道者でした。

つまり、人がうらやましがるリッチな生活を送っていたのです。しかし、その伝道者が本心を告白したのです。「実は、それらのものは空でした」と。「空」とは、直ぐに消えてしまう空しいもの、という意味です。言葉を換えて言うと、「大事ではなかった」ということです。これは私たちが耳を大きく開いて聞かなければいけない「告白」ですね。では何が大事なのでしょうか？

若い日にあなたの造り主を覚えよ

伝道者は断言しました。「人生で一番大事なことは、若い日に、あなたの創造者を覚えることだ」と。「覚える」とは、「忘れないように気をつけましょう」と言うことより、「知って、信じて、従ってゆきましょう」と言うことです。12・13に「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である」と伝道の書がまとめられている通りです。食べること、飲むこと、勉強すること、スポーツすること、遊ぶこと、これらの全部は大人になつてゆくために必要なことです。いろんな知識や力をも身につけることは大切なことですが、一番大切なことは、「神様を信じて、従って行く。神様の喜ばれる生き方をする」ことです。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」(マタイ6・33)と聖書にあるように神様を第一にする人には、目に見えるものも見えないものも、必要とあらば全部神様が用意してくだ

さるのです。神様は私たちの創造主ですから、私たちに心をかけてくださらないはずがありません。神様を信じましょうね。しかも、「若い日」つまり、なるべく早く、なるべく若い時から信じることが素晴らしいことなのです。

まとめ

伝道者は、この聖書の箇所で「人間はいつか年を取って行きますよ」と詳しく話してくれています。そして、いつか神様の時が来たら「死んでゆきますよ」と。皆さんはまだ子どもですから、老人になることはずっと先のことでありますが、必ずその時はやって来ますね。その時に「アー、私は幸せだなあ」と言えるためには、「神様を信じて生きること」が一番大切なことです。

灯のついた1本の短いローソクと、灯のついた1本の長いローソクの絵が描かれていると想像してみてください。あなたはどちらが子どもで、どちらが大人だと思いますか？ 短く小さい方が子ども、長く背が高い方が大人と考えますか。答えは実は短い方が大人で長い方が子どもです。子どもはこれから灯をつけて長く輝いて生きるものだからです。小さい時から、神様を信じて輝いて生きて行けることは、本当に素晴らしいことです。シュバイツァー博士も、ナイチンゲールも、小さい時から神様を信じ、人々のために生きようと決めていたそうです。

今日、もう一度「神様、あなたを信じます」と心から告白し、幸いをいただきましょうね。
♪小さい時から♪ (教会学校せいり152)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんが立派な大人になるために大切な事は何ですか？ お勉強？ 習い事？ 好き嫌いせずいっぱい食べて元気な事？ 大切な事は色々ありますが、一番大切な事は「神様を信じる事」です。神様は、神様を信じる人に全てのものを与えてくださり、神様のためのすばらしい働きも与えてくださいます。小さい今から神様を信じるなら、どれだけたくさんすばらしいものを神様からいただき、どれだけたくさん、神様のために働けるでしょうか！

ワークについて

男の子も女の子も、みんな神様を信じましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 創造主を知ることによって、自分の存在の意義を知り、人の自分をわかまえることができます。それにより、たった一度の人生を、無駄にすることなく充実したものにすることができま

す。ですから、「若い日」に、できるだけ早く、信じるのが大切です。
●質問3 「神を恐れる」ということは、たとえクリスチャンホームで育つても、自動的に身につきません。親や教師の姿勢はもちろんですが、具体的な場面で神を第一にすることを通して学んでいきます。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

●「若い日」とは、年齢の若い時のことでもありますが、誰にとっても、明日よりも今日は若い日です。ですから、今、造り主を覚えよと語っておられるのです。

●第2問 「造り主を覚えよ」の意味を問います。左右の二つが○です。

●第3問 造り主を知って生活するのと、知らないで生活するのでは、本当に大きな違いがあります。一つ一つ具体例を考えて、その違いを調べ、造り主を覚えて生きる幸いを望む子どもたちとなるように、折りつつ導きます。

ワーク D

●人の一生を表にしています。自分の年齢を書き、その時何をしているか。聖書のメッセージを聞いているのか、神様を信じるチャンスはあるかなど想像しながら書き込みます。教師自身その年代で何をしてきたかを書いて、子どもたちと話し合っても良いのではないのでしょうか。

中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 「私にはなんの楽しみもない」(1節)とありますが、毎日がつまらないと思うことがありま
- 2 「空の空」(8節)とありますが、何をしてもむなしい思いになることはありませんか。
- 3 「多くの書を作れば際限がない。多く学べばからだが疲れる」(12節)とありますが、何のため勉強するのかかわからないと思うことはありませんか。

考えてみよう

- 1 知恵者ソロモン王は「神を恐れ、その命令を守れ。これがすべての人の本分である」(13節)と結論づけます。あなたは同意しますか。
- 2 もし、自分の思う通りの人生になったとしても、神様を信じないならば、人生にどんな意味を見いだせるのでしょうか。
- 自分に当てはめてみよう
- 1 中高生時代は人生の基礎づくりの時です。その時にどのような人生観を持つかで、その人の一生が決まります。「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚える」ことの重要性を考えよう。
- 2 神様を信じて、神様に用いられて生涯を送っている信仰の先輩たちから、信仰生活の秘訣を聞いてみてはいかがでしょう。中高生も信仰の先輩から後輩へと良い信仰の証が引き継がれていくことを切に祈りましょう。



聖書 申命記32・1～12

テーマ わしのように

(父の日)

序論

(金井)

6月第3日曜日は父の日である。これは、母の日があるのに父の日が無いのは不公平だということで、1940年に米国の婦人の提唱で始められた。母の日のカーネーションに対して、父の日はバラの花を飾ったり、贈ったりする。天におられる父なる神について学び、父親の役割を再考したい。

一、岩のように

申命記は、エジプトを脱出したイスラエルの民が40年の荒野の旅を経て約束の地に入ろうとする時に、モーセが民に語った説教の記録である(1・1)。「申」は「重ねて」という意味である。モーセは、シナイ山で神からいただいた律法を守り行うようにと、民に再度命じた。彼は説教の後、死んだ(34・5)。この説教は彼の遺言である。

32章1～43節は「モーセの歌」と呼ばれる。モーセはイスラエルの全会衆の前に朗々と歌い、教えを聞かせた(31・30)。教えは△雨▽や△露▽のように人々の魂を潤し、生かす。

モーセは△主の名▽を告げる。彼は神の山ホレブで主から直接、御名「YHWH(ヤハウェ)」を聞いた(出エジプト3・15)。モーセは啓示された神の本質を民に教え、彼らに神との契約を守らせる務めに任じられている。イスラエルの民は主を知り、主の栄光を現すために選ばれたのである。△われわれの神に栄光を帰せよ▽。

主は△岩▽のごとく堅固な保護者である。主はご自分の民に対して常に真実を尽くされる。△主は岩であって、そのみわざは全く、その道はみな正しい。

主は真実なる神であって、偽りなく、義であって、正である▽。

二、ひとみのように

しかし、イスラエルの民は実に不誠実であった。△彼らは主にむかつて悪を行い、そのきずのゆえに、もはや主の子らではなく、よこしまで、曲つたやからである。

愚かな知恵のない民よ、

あなたがたはこのようにして主に報いるのか。

主はあなたを生み、あなたを造り、

あなたを堅く立てられた

あなたの父ではないか▽。

彼らは偶像崇拜をして、主を怒らせた。愛をも

って養い育ててくれた親を捨てる忘恩の罪である。

私たちも、「もうあなたのむすこと呼ばれる資格

はありません」(ルカ15・21)と言うほかない放蕩

息子(娘)であった。けれども天の父はなお私たちを愛してくださった。御父は尊き御子を死に渡

して私たちの罪を贖い、私たちを赦し、神の子と

してくださったのである(1ヨハネ3・1)。

△主の分はその民であって、

ヤコブはその定められた嗣業である▽。

主は神の子たちに特別な祝福を与えておられる。

今も主は私たちを△巡り囲んでいたり、目のひとみのように▽守ってくださいている。瞳は視覚

研究資料

(石田)

「申命記」(デューテロノミオン)という書名は、70人訳聖書のもので、ギリシャ語の「第二の」(デューテロス)と「律法」(ノモス)から取られて、意味としては「第二の律法」となる。申命記は、荒野で成長した新しい世代に対して、約束の地に入る前に、律法を反復して説明する必要があると記された。その意味で、申命記の中心聖句は4・1である。書かれた時期は、1・3から、モーセが死を目にした時である。新しい律法の賦与ではなく、すでに与えられている律法の再説明であるが、いわゆるモーセ五書を要約し、律法の集大成となっている。特に32章は、出エジプト15・1～18、詩90篇と同じく△モーセの歌▽と呼ばれ、神の民の創造から最後の審判に及ぶ預言的な歌(韻文)となっている。この歌の目的は、主の真実な計らいと、民の不真実とを対照することにある。主イエスはしばしば申命記から引用された。悪魔の誘惑を受けられた時もそうであった(マタイ4・4、7、10)。律法の中で一番大切なものとして、申命記6・4、5を挙げておられる(マルコ12・29、30)。この箇所はおよそ3つに分けられる。1～3節は導入部、4～6節は不真実な民に対する神のご真実、7～12節は神の保護と訓練。

テキスト

4 主は岩であって 主はイスラエルにとつて常に不動の岩である(サムエル下23・3、イザヤ17・10、詩篇18・2、31)。この歌の中だけでも神を岩

とする表現が繰り返し出てくる(32・15、18、30、31、37)。岩(ツール)という言葉には神の永遠の力と真実が強調されている。真実なる神 エムーナー(真実)は、「アーメン」や「信じる」と同じく動詞アーマン(真実・忠実である)を語源としている。主はご自身のみ言葉と約束に対して真実(アーメン)な方である。これは直前の「主は岩であって」を受けている。

5 彼らは主に向かって悪を行い…これは民の偶像礼拝、その隠れた目的である欲望の無制限な追求、その結果である道德的墮落を指している。その具体的な内容は15～18節。

6 あなたがたはこのようにして主に報いるのか 主のご真実に対して不真実である民の忘恩を責めている。彼らの親の世代が荒野の40年において神にそむき続けたことを指している。主はあなたを生み、あなたを造り、あなたを堅く立てられたあなた(あなたではないか) イスラエルを創造し、エジプトから贖い出したのは主なる神である。ゆえにイスラエルは本来「主の子ら」(5)である(「主の分はその民」：9)。神はすべての人の父ではなく、厳密には新生した者の父である(ヨハネ1・12、13)。また子としての身分が与えられることによる関係である(ガラテヤ4・5、6)。旧約において神が父であることに触れている箇所は多くはない(エレミヤ31・20、ホセア11・1など)。また神を父と呼んでいる箇所は例外的である(エレミヤ3・4)。これが新約になると、主ご自身が神を父と呼び、弟子たちにもそのように呼ぶよう教えておられる(マタイ6・9、ヨハネ20・17)。またパウロはす

を担う重要な器官であるが、傷つきやすい精密な部分である。主は、私たちをそのように大切なものと認め、守り、用いてくださるのである。

三、わしのように

△わしがその巢のひなを呼び起し、

その子の上に舞いかけり、

その羽をひろげて彼らをのせ、

そのつばさの上にこれを負うように、

主はただひとりで彼を導かれて、

ほかの神々はあずからなかった▽。

親△わし▽は△ひな▽が落ちないように注意しつつ共に飛行する。こうして子わしは飛行を覚える。この譬えは主の民に対するお取り扱い、すなわち、救出・保護・訓練を表している。私たちが△荒野▽を通らせられることも愛のゆえである。

「わたしの子よ、

主の訓練を軽んじてはいけない。

主に責められるとき、弱り果ててはならない。

主は愛する者を訓練し、

受けいれるすべての子を、

むち打たれるのである」(ヘブル12・5～6)。

結論

父親の役割をまとめよう。①真実の愛をもって子どもを保護する。②反抗する子どもを忍耐強く赦し、受容する。③子ども的人格を尊重して、健全なセルフイメージを持たせる。④子どもの才能を認め、有用な者に育てる。⑤子どもが忠実な信仰者として自立するように訓練する。子どもは父親から信仰を学ぶのである(7)。

すべての書簡の冒頭で、神を父として記している。10 これを巡り囲んでいたわり、目のひとみのように守られた 神の民に対する主の守りの細やかなこと、確かなことの表現(詩17・8、箴言7・2、ゼカリヤ2・8)。民が不真実であつても選びのゆえに、神はご自分の真実を貫かれる。しかし民の不真実が高じた時、愛のゆえに懲らしめをなさることがある。

11 わしがその巢のひなを呼び起こし… イスラエルには8種類のわしがいると言われるが、これは「はげわし」(ネシエル、14・12)。わしがそのひなを飛べるように訓練する生態をたとえとして、神がイスラエルの民を荒野で訓練されたことを述べている。それはまず親がひなを巣から飛び立つように呼びかける。ひなは十分飛べないので落ちてゆくが、親はそれを羽根で受けて巣に戻す。こういうことを何度か繰り返すうちに、ひなは自分で飛べるようになる。このようにして荒野で神はイスラエルの父として、寛容と忍耐をもって訓練された。主イエスも「わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい」(マタイ11・29)と言っておられる。聖書において子どもの信仰の導き、聖書教育の第一の責任は母よりも父にあることが見えてくる(箴言3・12、4・1、4、23・13、コロサイ3・21)。

12 主はただひとりで彼を導かれて 「あなたをエジプトの地、奴隸の家から導き出した者である」(出エジプト20・2)を踏まえての表現(39節も参照)。神ならぬものに心を寄せることが、いかに忘恩の罪であるかを教えている。

聖書 申命記32・1～12
タイトル すばらしいお父さん
暗唱聖句 主はただひとり彼を導かれて、ほかの神々はあずからなかった。
目標 肉親の父と共に、力強い守り手なる神様を思う。

導入 (長谷川)
今日は6月第3日曜日、「父の日」ですね。「母の日」の歴史は長いのですが、「父の日」が決められたのは今から65年前のようです。日頃私たちのために、一生懸命働いてくださっているお父さんやおじいちゃんに心から感謝をささげましょうね。

「父の日」と言うことで、今日は「天のお父様」なる「神様」について一緒に聖書から学んでみましょう。

「岩」のようなお父さん

今日の聖書の箇所は、イスラエルの民をエジプトから脱出するためにリーダーとして立てられたモーセの遺言説教です。「遺言」とは、もうすぐ亡くなるという人が最後に遺す大切な言葉です。イスラエルの民は、神様が約束してくださったカナンの地に入る前、不信仰のため40年も荒野を旅しなければならませんでした。いよいよ、神様の約束の地、カナンに入ろうとする時にモーセが語った「大切な説教」が今日の箇所です。

その説教の中でモーセは、「神様は岩のようにあなたを導くお父さんだ」(4、6、7)と話しています。「あなたがたの父」「あなたの父」と書かれていますね。「岩」と聞くと皆さんはどんなことを想像しますか? 堅くて、強くて、どっしり立っていて動かない、という感じですね。モーセは私たちの神様は「岩のように強くて、信じて頼れるお父さんのような方」と話してくれたのでした。頼もしい神様ですね。

「ひとみ」のように守られるお父さん

「目のひとみ」は、見るための大切な部分ですね。傷つきやすい精密な器官ですから大切にしなければなりません。私たちが「目のひとみ」を大事にするように神様はイスラエルの人々を守られた、とモーセは語りました。つまり、細かいところに気を配り、優しくお世話をしてくださった、ということです。イスラエルの民は、神様を信じては裏切る、という繰り返しをして来ましたが、それでも神様は見捨てず、守り、助け続けてくださいました。「面倒を見続けて」くださったのです。「見続ける」とは「目を離さない」ことです。神様が「ひとみ」のように、私たちを守ってくださる優しいお父さんだと思えると嬉しくなりますね。

「わし」のようなお父さん

「わし」はどんな鳥だと思えますか? 強くて、大きくて、空を高く飛ぶ鳥の王様って感じですね。モーセは、神様はその「わし」のようなお方だよ、と続いて話しています。

「わし」は、自分の「ひな」の羽が生えて飛べるようになると、「ひな」を巣から追い出し飛ぶことを教えます。もし、「ひな」が墜落しそうになるとさっさと飛んで来て、自分の羽を広げて助けるのです。ですからいつも近くを飛んで「ひな」の様子を見つめながら飛行訓練をしてあげるといいう訳です。いつでも「助ける用意」をしている「わし」、感動的ですね。

神様はこの「わし」のように、私たちを教えて、導き、守り抜いてくださるお父さんなのです。嬉しいことですね。だから安心ですね。

まとめ

米子市の野島さんは、30代でご主人を重い病気で亡くされ、まだ幼い2人のお子さんとの生活を思い途方にくれました。

その時、昔、行っていたCSの先生が「もしお父さんがいなくなっても、天のお父様がおられますよ」と言われていたことを思い出しました。電話帳で教会とそのCSの先生を捜され、再び教会を訪ねられました。涙の再会のあと、求道、イエス様を信じて救われ、神様を「天のお父さん」として、家族で信じ続けて来られました。今は、子どもたちも立派に成長され、皆さん幸せな教会生活を送っておられます。神様はそのご家族の「本当のお父さん」になってくださったのでした。

私たちには、一生懸命毎日働いて私たちを育ててくれるお父さんと、私たちを愛し続けてくださる天のお父なる神様がいらっしゃるの感謝ですね。♪神さまはのきの♪(ホーリネス子どもさんびか10)

ワーク A

話し方のヒント

皆さんが神様にお祈りするとき、「天のお父様」とお祈りしますね。神様は皆さんのお父さんなのです。どんなお父さんなのでしょう? ①どんな事も「できないよ、困ったな」と言わない頼れるお父さん②皆さんをどんな時も大切に守ってくださるお父さん③きびしい時もあるけれど、いつも教えて助けてくれるお父さんです。この天のお父様が皆さんといつも一緒にいてくださるの安心ですね。

ワークについて

お父さんわしの背に乗って、高く舞い上がろう。

ワーク B

- 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
- 質問2 神様の愛は、観念的なものではなく、具体的な行動となって現わされる愛です。神様はどれほど私たちを愛してくださっているか。「そのひとり子を賜ったほどに」(ヨハネ3・16)とあります。この愛から私たちを引き離すことができるものは何もありません(ローマ8・39)。
- 質問3 このすばらしい天の父なる神様との交わりが、祈りです。神の子とされた喜びは、祈ることによって味わうことができます。

ワーク C

●本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 申命記32章4、10、11節から父なる神様のご性質を□の中に書きます。「岩」「ひとみ」「わし」です。それぞれの性質の具体例を右側に書きましたので、それがどの性質に当てはまるかを「●印」をつなぎ合わせて確認します。こんなにも私たちを力強く、忍耐と愛をもって守り導いてくださる神様に感謝したくなりますね。

●第3問 感謝のお手紙を書きましょう。具体的に守られた体験や訓練されたなあとすることがあったら、分かち合ってみましょう。

ワーク D

- 父なる神様は私たちの理想の父ではないでしょうか。お父さんたちにとっては模範でしょうか。それともプレッシャーでしょうか。
- 天の父がどんなお方なのか具体的に知ること、子どもたちにとって大きくなってからでも心強い存在となるでしょう。それぞれの項目を読んで、どんな方かイメージして話し合しましょう。
- 父親の立場にある人なら、父なる神様がいらっしゃる事を知るとほっとしませんか。

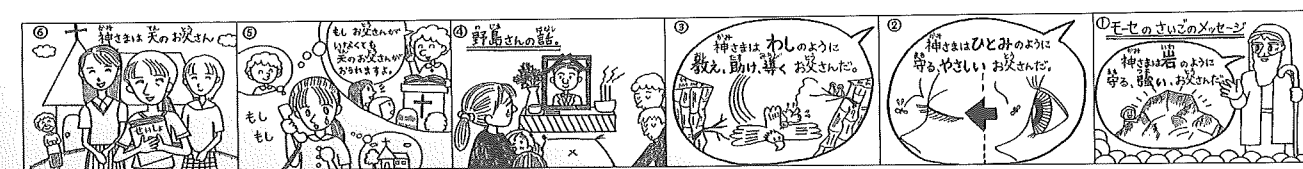
中高校へのヒント

●観察してみよう

- 1 「主は岩であつて」(4節)「目のひとみのように守られた」(10節)「そのつばさの上にこれを負うように」(11節)と美しく詳細に神様のことを描写しています。味わってみましょう。
- 2 父なる神様は私たちにとって遠いお方ではなく、こんなに身近なお方です。
- 3 父なる神様には、「強さ」「やさしさ」「慎重さ」「大胆さ」があります。他に何を感じますか。考えてみよう

- 1 理想的な父親とはどんな親でしょうか。
- 2 中高生になると、自分の父親の短所が見えてくると思いますが、神様は自分にふさわしい父親として備えておられるのではないのでしょうか。
- 4 人間の父親には、間違いや欠点があるかもしれません。また父親がいない時(死亡、離婚、単身赴任)もあります。しかし父なる神様は、今日のみ言葉のように見守っておられることが分かりますか。

- 自分に当てはめてみよう
- 1 今日は父の日です。たとえ一言でも素直に感謝する言葉があれば、それだけで父親は喜んでくださるはずです。
- 2 仕事などで忙しく、疲れている父親のために祈りましょう。
- 3 これからの人生を、父なる神様を信頼し、神様に委ねて歩んで行きましょう。



聖書 ヨハネ2・1～11
テーマ 最初のしるし

序論

(鎌野)

ヨハネ福音書は、他の3福音書とは異なる観点から主イエスの生涯を描いている。その一つとして、主のなされた奇跡は主が神の子である「しるし」だと理解し、全部で7つのしるしを記録する点が挙げられる(研究資料参照)。新改訳が、これを欄外注で「証拠としての奇蹟」と表現するのはそのゆえであろう。今週は、その最初のしるしを学び、これが他のすべてのしるしと共通する重要な真理を教えていることに注目したい。しるしはどのような時に現わされるのだろうか。

一、人の力が尽きた時

△イエスの母がそこにいた△のは、多分、マリヤの親戚にあたる人の婚礼だったからだろう。だから主イエスがそれに招かれたのは当然だが、つい数日前から従ってきた弟子たち(前章から考えると5人)も招かれたのは、当時の婚礼の盛大さから考えるなら、決して不思議ではない。ところが弟子たちや客たちが飲みすぎたため、婚礼の途中で△ぶどう酒がなくなった△。時は夜、深夜営業などなかった当時では、大変なことである。接待役をしていたマリヤは、息子なら何とかしてくれるだろうと思った。だが主の返事は、△婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありませんか△だった。冷たく響く言葉であるが、これは母マリヤとの人間的なつながりで、これからのこ

とをなさるのではないことの表明と受け取れる(主が言われた△わたしの時△とは、十字架上で救いを成就なさる時だった)。マリヤを含め、関係者はみな困っていた。しかし、人の力ではどうしようもない時にこそ、しるしは現わされる。

二、人が主に従った時

母マリヤは、過去の出来事の中で、主が自分の息子以上のお方だということを、ある程度まで理解していたのだろう。僕たちに、△このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい△と言った。そこで主は彼らに、△かめに水をいっばい入れなさい△と命じられた。100リットルほどはいるかめ6つに、遠くの公共井戸から水を運んで来ていっばいにするのは重労働のうえ、この時必要なのは水ではなくぶどう酒であった。だが僕たちは主の言葉に従った。また、かめの水を器にくみ、酒がなくなっていらいだつ料理がしらのところにまで持つて行つたのである。

人の力でどうしようもなくなった時にこそ、主に従わねばならない。たといそれがどんなに無意味なことのように思えても、これ以後のどのしるしの場合でも、主はみ言葉に従うように命じておられる。現代でも、主の言葉に従う時に、主が今も生きておられるしるしが現わされるのだ。

三、主の力が示される時

僕がもつてきたものをなめた料理がしらは驚いて花婿を呼び、△あなたはよいぶどう酒を今までとつておかれました△と言った。それまでのぶど

う酒よりもはるかにおいしいものだったからだ。主の力は、人のするどんなことよりも優れていることがはつきりと示されている。

かめの水は、△ユダヤ人のきよめのならわしに従つて△そこに置かれていた。ユダヤ人は、衛生的理由だけでなく、異邦人から受けた汚れを除くための儀式的理由もあって、念入りに身体を洗っていたのだ。しかし彼らの心は汚れたままで神から遠く離れていた(マルコ7・1～7)。「ユダヤ人はこの石がめのように外部の儀式と表面の潔を与えることは出来た。けれども主は人間を喜ばす葡萄酒を与えることが出来た」(バックストン『ヨハネ傳講義』42頁)。主は、人の心をきよめて、本当の喜びを与えるためにこの地上に來られた。そのためにこそ、ご自分が父なる神からの「憤りの杯」(イザヤ51・17)、「怒りの杯」(エレミヤ25・15)を飲み、その代わりに、聖餐のぶどう酒を罪人に与えてくださったのである。このぶどう酒は、「罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流す…契約の血」(マタイ26・28)にほかならない。

結論

私たちの人生にも、人の力ではどうしようもない時がある。しかしその時こそ、主の力が現わされる時となるのだ。ただ素直に聖書のみ言葉に従うならば、主は私たちが思う以上のすばらしいことをなしてくださる。罪の赦しを信じることでできた後には、それ以前よりはるかに優れた、喜びに満ちた人生をおくることができるのである。

研究資料

(石田)

テキスト

- 1 三日目に 前の章の、ナタナエルが主イエスの弟子となつてから三日目と考えられる。ガリラヤのカナに婚礼があつて 主イエスの出身地であるナザレの北14キロにあった町で、歩いて3時間半ほどの距離。ナタナエルはカナの出身者であった(21・2)。イエスの母がそこにいた 母マリヤはナザレからこの婚礼の手伝いにやつて来ていたと思われる。親類の結婚式であつたのかもしれない。彼女は台所仕事をし、その家の僕たちを取り仕切っていたようである(3・5)。
- 2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた 主イエスは母の關係で、弟子たちは主の友人として招かれたと思われる。
- 3 ぶどう酒がなくなった ユダヤ人の婚礼の席においてぶどう酒は欠かすことのできないものだったから、十分な準備がされていたはずである。ところが予想外の事態が起きた。ぶどう酒がなくなつてしまいました 母マリヤが主イエスにこう言つたのは、どういう方法かわからないが何とか解決してもらえと信じたから。
- 4 婦人よ(女の方よ、ギユナイ) 女性を敬つて呼ぶ呼び方。主イエスはマリヤをお母さんと呼んでおられない(19・26)。公生涯に入られたことで、肉親との關係に一線を引かれたのであろう(マタイ12・48、マルコ3・33)。このことは、あなたは、わたしと、何の係わりがありませんかという言葉にも表れている。親子の間だからといって、神

の導きを仰がずに神の子としてのしるし(11)を行うわけにはいかないという含みがある。わたしの時は、まだきていません 主はこの急場をしるぐためにしるしを行う時を慎重にうかがつておられる。神の御心に釘づけられたお方として、情にほだされたり、自己顯示のためにするわけにはいかなかった。「すべてのわざには時がある」(伝道3・1)。ここに主イエスの従順を見る。

5 このかたが、あなたがたに言いつけることはなんでもして下さい マリヤのイエスに対するあつち信頼の言葉である。彼女はイエスが奇跡を行うところを一度も見たことはないと思われるから(11)、奇跡を期待していたとまでは言えないだろう。しかしこれまでの30年間、マリヤはイエスの言うとおりにすれば間違いがないという体験を積んできたのかもしれない。ここに母マリヤの従順を見る。

6 ユダヤ人のきよめのならわしに従つて… ユダヤ人は食事の前には必ず手を洗つた。これは祭司が神殿で奉仕をする前には、からだを水で洗いきよめるといふ儀式を日常生活に拡大解釈したものであつた。結婚式となれば大勢の客が使うため、大量の水を用意しておかなければならなかった。ひとつの石の水がめの量たるや、四、五斗もあつた。原文では「2、3メートルタス」、1メートルタスは約40リットルに換算されるから、80から120リットルも入る水がめということになる。それほど大きな水がめが6つもあつたことが、主の奇跡を量においても際立たせている。

7 かめに水をいっばい入れなさい この命令は、

僕たちの常識に挑戦する言葉である。ぶどう酒が足りないのに、水をいっばいくんでどうしようというのか、という疑問が頭をよぎつてもおかしくない。しかし彼らは主イエスの命令に従つた。信仰を持って従う時に、主は願ひにまさることをしてくださる。ここに僕たちの従順を見る。

8 さあ、くんで、料理がしらのところに持つて行きなさい 僕たちが水がめからくんだとき、ぶどう酒に変わっているのを見たであろう。

9 水をくんだ僕たちは知っていた 従順な者は主の奇跡を見、主が生きておられることを確信するという特権にあずかる。

10 あなたはよいぶどう酒を今までとつておかれました 主は水をぶどう酒に変えられただけでなく、上等のぶどう酒に変えられた。婚礼の席に主を招いたことでこの祝福にあずかることになった。主は最悪の事態も最良に変えることができる。

11 しるし(セーメイオン) ヨハネ福音書では、奇跡は主が神の子であることの「しるし」証拠として扱われている。「力あるわざ」(デユナミス)や「わざ」(エルゴン)とは区別される。最初のしるし 主が荒野において悪魔からパンを石に変えるように誘惑を受けられたが、主はできるのにそうはされなかった。主イエスが奇跡を行われたのは、これが最初であつた。これ以下7つのしるしが本書に記録されている。役人の息子の癒し(4・46、54)、ベテスタ池での癒し(5・1～9)、5千人の給食(6・1～14)、湖の上を歩く(6・15～21)、盲人の癒し(9・1～12)、ラザロのよみがえり(11章)。

聖書 ヨハネ2・1-11
タイトル 最初のしるし
暗唱聖句 このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい。
ヨハネ2・5
目標 イエス様のなされた最初のしるしに学ぶ。

導入

(長谷川)

6月5日の教会学校ではイエス様がガリラヤから伝道を始められたことを学びましたね。今日はそのガリラヤのカナと言う町で「最初のしるし」つまり「初めての奇跡」をされたことを学びましょう。「しるし」とは、イエス様が神様である証拠です。どんな「しるし」がワクワクしますね。

カナの結婚式

皆さんは結婚式に招かれたことはありませんか？格好のいい花婿さんやきれいな花嫁さん、おいしいご馳走、どれもこれも感激で嬉しくなりますね。ある時、イエス様は弟子たちと一緒にカナの町での結婚式に招かれました。その時、お母さんのマリヤも招かれていました。どうやらお母さんの親類の人の結婚式だったようです。パーティが盛り上がった頃、困ったことが起きました。なんとお客様がおいしく飲んでいただろう酒がなくなってしまったのです。大勢の人がたくさん飲んだためでしょう。とても大変な事態です。せっかくなので頂いたお客様が「なーんだこの

家は！」と思うでしょう。お客様がこのことを知ったら楽しいパーティが台無しです。家の人たちは青ざめました。今の時代のようにすぐに電話をかけて、お店から持ってきてもらうなんてことは出来ません。絶体絶命といった状態で台所では皆が冷や汗をかき、悩みあぐねていたと思います。マリヤは、親類ですからこの時、きつとお手伝いをしていたはずで、「そうだ！」と考えつきました。

助けを「イエス様」に！

マリヤはイエス様に「ぶどう酒がなくなっちゃいました」と助けを求めました。ところがイエス様は「婦人よ、あなたは、わたしとなんの係わりがありますか」と言われました。「あれっ？なんて冷たいお言葉？」と思うでしょうね。でも、これは神様の心に従って生きようとしたために出た、イエス様のお言葉だったのです。またまた驚くことは、そう言われたマリヤが「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」と僕たちに言ったことです。「イエス様ならなんとかしてくださる！」と強く信じていたのです。「神の子」とイエス様のことを認めていたマリヤの信仰は素晴らしいものでした。

そしてまた驚くことは、イエス様が僕たちに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたことでした。「かめ」とは、ユダヤ人が家に入る時に足を洗うためや、食事の前に手を洗ったりする時に用いる水を入れるためのもので、100リットルもの水が入るものでした。しかも、それが6つもありました。なんと、バケツで50杯以上は必要だったよ

うです。今の時代のように水道はなかったのです。井戸から汲んで家まで運ばなければならなかったのですから、それはそれは重労働でした。必要なのは「ぶどう酒」なのに「水」を入れるように言われた僕たち、不思議でならなかったと思いますが、「イエス様のおっしゃるとおり」に水をいっぱいに入れました。「言われたとおりに」したのです。

水がぶどう酒に変わった！

僕たちはその「水」を料理長さんのところへ持って行きました。なんと、それが「ぶどう酒に変わっていた！」のです。しかも、「最高級のぶどう酒」に変わっていたのです。料理長さんは驚き、花婿さんに「あなたは、よいぶどう酒を今までとっておかれました」とほめました。飲んだお客さんたちも大喜びしました。しかし、僕たちだけがイエス様がされたことを知っていました。

「台無し」になりそうだった結婚式が、今までになかった程「おお賑わい」な結婚式になりました。イエス様のお力は素晴らしいものだからです。

まとめ

カナの結婚式の「最初のしるし」で、イエス様は「神の子」であることを示してくださいました。イエス様は、今も、聖書のみ言葉に素直に聞き従う人に、祝福と喜びを与えてくださいます。イエス様は、私たちの救い主ですから、「絶望を「喜び」に変えることが出来るようになります。イエス様を信じ続けましょうね。
♪イエス様が一番♪ (友よ歌おう2)

ワーク A

話し方のヒント

イエス様は結婚式で困っているお母さんのマリヤを見て、すばらしい事をしてくださいました。かめの中に水を入れなさいと命じられ、その通りにした時、水がぶどう酒に変えてくださったのです。そのすばらしい奇跡を見て、みんなは喜びました。イエス様は、「もうだめだ」と思うことも喜びに変えてくださる、何でもできる神様です。皆さんもこのイエス様をずっと信じ続けて行きましょう。

ワークについて

イエス様はどれだけの何を、何に変えてくださったのでしょうか？色を塗りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
●質問2 主の力は、人の力でどうすることもできない時に現われます。困難の時、絶望してあきらめるのではなく、主に祈り求めることを教えましょう。そして、素直に従うとき、主が生きて働かれることを経験することが出来ます。

●質問3 このしるしは、イエス様が信じる者に本当の喜びを与えてくださるお方であることを示しています。イエス様を信じて救われることはどんなに大きな喜びでしょうか。罪赦され、義と認められ、神の子とされ、まったく新しくされるといふ喜びを伝えましょう。

ワーク C

本日のみ言葉を書き入れます。

●第2問 答えは「水」です。かめの下の方から色を塗って自分が水を入れている感じをつかみましょう。6個全部を塗ります。

●第3問 ぶどう酒に変わりました。

●第4問 神様であられるイエス様の言われることには、実現に至らせる保証がついています。私たちの限られた知恵で無理と思ったり、あきらめたり、えり好みしたりせず、教え示されたとおりに行いましょう。

●第5問 「具体的に」を心がけて考えるよう導いてください。小さいと思えるようなことを実行できるように祈ります。

ワーク D

●私たちは自分で何とかしようと考えます。自分ですようと努力して夢中になっている間は良いのですが、思うようにはかからない、時間が足りない、じやまが入るなどという障害物に対して、あるいは周りの人に対して、イライラします。マリヤから教えられるのは、問題が起こった時、すぐにイエス様に打ち明けていることです。イエス様は公生涯に入る前には家長として家におられ、マリヤにとって、頼りになる存在だったのでしょうか。

●イエス様はマリヤの訴えを一度は断られたかのようにでしたが、人が思い描く以上の形で神の栄光を現してくださいました。

中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 水がぶどう酒に変わった奇跡なんてウソだと思いますか。(もし奇跡がなかったとしたら、新婚さんは恥をかいて終わってしまいましたね。かわいそう。イエス様はあわれみ深いお方です)
- 2 料理がしらのところに大きな水がめを運んだ僕はたいへんだったね。(あなたはしますか)
- 3 人は後になってごまかしたりするけれども、イエス様はすばらしいことを後でなさるお方です。(人は目先のことしか見えていないのです)

考えてみよう

- 1 ぶどう酒がなくなった時のように、自分では解決できないような時こそ、イエス様の出番です。問題が大きすぎて、イエス様でも無理、また問題が小さすぎて、こんなことはイエス様に頼らなくて自分でできると不信仰になっていませんか。
- 2 イエス様の奇跡は、イエス様の言いつけに従った時に起こりました。「どうしてこんなことをするのか、こんなことは無駄だ、意味がない」などと言って、従わない時はありませんか。

自分に当てはめてみよう

- 1 自分では小さなことと思っても、イエス様を信じ、祈って、神様が成してくださったことを証してみよう。
- 2 神様が成してくださったことに、感謝することを忘れてはいけません(ルカ17・17)。





2004.9.20 ソフトボール大会

分かれて分級の時を持ちます。そして花火大会。花火のあとは皆でスイカやアイスを食べます。そのあと、礼拝堂に子どもたちが布団を並べて就寝ですがあまりはしやぎすぎて、なかなか寝つけません。電気を消してから、当分楽しそうな声が聞こえてきます。教会の駐車場にテントを張って泊まることもあります。2日目の日曜日は、朝食後いつもの教会学校の時間に3回目のメッセージ。

○CS教師研修会
年1回、教会主催のCS教師研修会を開いています。CS教師としてますます整えられ成長させていたきたいという願いからです。
昨年は、小野淳子先生に来ていただき、すばらしいメッセージをいただきました。CS教師という奉仕は主が与えてくださっているものである、そしてそれがいかに重要でいかに大きな恵みであるかということ、今いちど深く心に刻みました。そして、祈りをもって真剣にこの奉仕にのぞみ、一生この奉仕にたずさわりたいと再決心する時となりました。

阿南教会 教会学校

○ソフトボール大会
毎年、四国教区の壮年会主催のソフトボール大会があります。そこにCSの子どもたち、特に3、6年生の男の子たちが参加しています。
大会の何週間も前から、日曜日の午後が集まって張り切って練習しています。とうとう去年は小学生チームを作り、大人相手にいい試合をしました。今年は中学生チームと小学生チームの結成が目標です。

そのあと解散となります。
子どもたちもこのキャンプを毎年楽しみにしています。生徒同士にとっても、また教師と生徒にとっても、普段にはできない親密なよき交わりの時が持っています。子どもたちもだんだんと大きくなってきたので、今年はキャンプ場に出かけて行こうかという計画もあります。

わたしたちの教会学校

○教会学校

阿南教会の教会学校の特徴は、CSの生徒たち自身が礼拝の奉仕をすることです。司会、OH P、献金。また担当教師が不在の時は、奏楽も生徒が手伝ってくれます。

先日、初めて小学一年生の女の子と幼稚園の女の子が二人で司会の奉仕をしてくれました。恥ずかしそうにしながらも、生き生きと奉仕していました。生徒たちが奉仕することで、自分



司会 礼拝 CS
また奉仕の喜びも味わってほしいと思います。
CS礼拝は2才から小学6年生まで、毎回



子どもクリスマス会

14、15人が集まっています。礼拝の後は幼稚園、1・2年生、3・4年生、5・6年生に分れて分級を持っています。またその分級の時間に、牧師が牧羊者を用いて成人科を担当しています。

○子ども大会

春と秋、クリスマスと年3回の子ども大会を開いています。

内容はゲーム大会とメッセージ。映画大会の時もあります。ゲームは小さい子の比率が結構多いこともあって、いろいろなパターンのジャンケンゲームが主です。それでも折り紙や新聞紙など小



子ども大会（ゲームタイム）

道具を使ったり、バリエーションを増やしたり、賞品を用意したりすると、6年生も楽しんで参加してくれます。そのほかに、新聞すもうやコイン回しゲーム、震源地ゲームなどをしています。

近頃の小学校にチラシを配ったり、CSの子が友達を誘ったりして、毎回新しい子どもたちも何人か来てくれます。

○CSキャンプ

7月ごろにCS一泊キャンプをしています。幼い子どもが多かったこともあって、教会で泊まっています。

土曜日の午後集まり、まず開会礼拝。そのあと遊びに出かけます。体育館でいろんなスポーツを楽しんだり、公園で駆け回ったり、プールに行ったり。主に男性教師が引率して思いっきり体を動かします。その間に婦人たちが夕食の準備をします。そして、子どもたちが帰ってきたら夕食。夜には2回目のメッセージ。その後で各クラスに

おわりに



『牧羊者』二〇〇五年度第一巻をお届けできますことを感謝します。執筆の方々には、お忙しい中多大なご協力をいただき心から感謝いたします。
今巻より、「子ども聖書日課」の内容をより充実し、冒頭に中心聖句を入れ印象に残るようにし、最後に祈りを入れました。紙面が倍になりましたが、多くの子どもたちから大人の方々にまで愛され用いられる「子ども聖書日課」とされるようにお祈りください。
また、本紙の表紙に年題や単元を入れ、目次は単元ごとにし活用しやすくなりました。「牧羊者」がいよいよ子どもたちの救済と育成のために、教師の方々の育成にも大いに用いられるように、引き続きお祈りください。
終わりに今号の執筆者を紹介します。

聖書講解 鎌野 善三 金井 望
研究資料 足立 宏 石田 高保
メッセージ例 小野 淳子 水野 晶子 長谷川宣恵
ワーク 鎌野 幸 小野 徳行 長谷川ひさ
長尾 秀紀 上森 恭子
中 高 科 小岩 裕一
フラッシュカード 土屋 直子
み言葉カード 陰山 恭子
子ども聖書日課 小野 淳子

また、監修を手伝ってくださった鎌野善三師、和田治師、石田高保師、光田隆代師、森明子師、また、発送とワーク印刷をされた教団事務所の方々、そして、印刷会社あくとの本田慈郎兄に心から感謝いたします。（長谷川和雄）

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇五年度 一巻

二〇〇五年三月十日発行

発行所 有限会社 ベラカ出版
企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局
神戸市兵庫区塚本通三三一九
電話（〇七八）五七五一一五二二
FAX（〇七八）五七五一一六六一
印刷所 有限会社 あくと
電話（〇二九七）七八一五九三五
*日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み